

令和5年度
生活文化調査研究事業（煎茶道）
報告書

文化庁 参事官（生活文化創造担当）

目 次

序 本調査研究事業について	1
1 章 煎茶道の歴史と現状について	2
1 節 日本における煎茶道の歴史について	2
1-1 煎茶道の概要	2
(1) 煎茶道について	2
煎茶道とは	2
煎茶会の概要、しつらい	2
煎茶道における手前、稽古について	4
担い手について	5
1-2 煎茶道の歴史	7
(1) 喫茶法の変遷	7
茶の伝来	7
抹茶：薬用から茶の湯へ	7
煎茶の淹れ方「淹茶法」	7
(2) 文人と煎茶	8
売茶翁の登場	8
文人茶としての煎茶	8
(3) 煎茶道の広まり	9
煎茶の宗匠の誕生	9
幕末・明治以降の煎茶の様相	9
戦後の復興、流派煎茶の興隆	10
2 節 現代における煎茶道の現状と社会的な位置付けについて	11
2-1 現代社会における煎茶道	11
煎茶道の国内状況	11
煎茶道流派の活動	11
全日本煎茶道連盟の活動	12
煎茶道関係者の評価	12
2-2 国民意識調査について	14
(1) 調査の概要	14
■調査設計	14
■調査結果を見る上での注意事項	15
(2) 調査結果概要	16
1. 属性	16
2. 共通設問	19
3. 単純集計の結果について	23
(3) 調査結果に基づく分析と考察	47
(4) 分析結果のまとめ	72
2-3 海外からの評価と国際発信	74
海外から見た煎茶道の評価	74
煎茶道の国際発信について	74

2章 煎茶道団体・煎茶道教室の活動について	76
1節 煎茶道団体の活動について	77
1-1 煎茶道団体へのアンケート調査の実施概要.....	77
1-2 煎茶道団体・流派へのアンケート調査の結果概要.....	78
(1) 煎茶道団体・流派の活動(直近3年)について	78
(2) 煎茶道の継承について	84
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について.....	90
1-3 まとめ.....	92
団体の活動内容	92
煎茶道の継承について	92
新型コロナウイルス感染症の影響	93
2節 煎茶道教室の活動について	95
2-1 煎茶道教室へのアンケート調査の実施概要.....	95
2-2 煎茶道教室へのアンケート調査の結果概要.....	96
(1) 教室の活動状況について.....	96
(2) 教室での指導について	100
(3) 教室の運営について	103
(4) 教室外との関わりについて	106
2-3 まとめ.....	108
教室の活動内容	108
教室の指導内容	108
教室の運営	109
結 本調査研究事業のまとめ	111
参考資料 有識者(煎茶道)及び有識者会議検討経過	116
参考資料 煎茶道の用具・用品、消耗品について.....	119
(1) 概要	119
(2) 課題	126
参考資料 国民意識調査調査票	128
(1) 属性	128
(2) フィルタリング・パート	129
(3) 分野設問	131
(4) 共通設問	175
参考資料 煎茶道団体・流派調査アンケート配布先.....	179

序 本調査研究事業について

1. 本事業の目的

文化庁では、平成27年度以降、生活文化を把握するための調査研究事業等を継続的に実施している。令和元年度には、煎茶道を含む生活文化に係る8分野について、各分野の全国的な団体に対するアンケート調査を実施し、活動状況及び各分野における課題等について把握を行った。翌令和2年度には、書道・茶道・華道の各分野について、分野ごとの歴史的変遷や社会的位置付け、各分野における無形の文化的所産に関する実態把握を目的とした調査を実施し、報告書を公表している。

本事業においては、煎茶道をはじめとする6分野を対象として、令和2年度の調査内容に準ずる形で調査研究事業を実施し、各分野の詳細な実態把握を行うことを目的としている。

令和3年度には、歴史的変遷や社会的位置付けに関する学術論文等の調査を実施、翌令和4年度には、各分野に対する国民の興味関心等の意識を把握するインターネット調査を実施した。令和5年度の調査研究事業は、上述した令和3年度、4年度の煎茶道についての調査結果等を踏まえ、更に煎茶道に関わる団体や教室のアンケート調査、煎茶道の用具・原材料についての調査を行い、全体として取りまとめることで、生活文化の煎茶道分野の保護・振興策の検討に資する基礎資料とすることを目的としている。

※文化芸術基本法（平成13年法律第148号）

第十二条 国は、生活文化（茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化をいう。）の振興を図るとともに、国民娯楽（囲碁、将棋その他の国民的娯楽をいう。）並びに出版物及びレコード等の普及を図るため、これらに関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

2. 本事業の概要

本事業は、煎茶道がおかれている現状等について詳細な実態把握を行うため、

- ・煎茶道の成立、変遷を把握するための文献調査
- ・煎茶道への興味関心等に関する国民意識調査
- ・煎茶道の団体・流派へのアンケート調査
- ・煎茶道教室へのアンケート調査
- ・煎茶道用具・原材料に関する製造業者等へのヒアリング調査

を行い、計8回の有識者会議を経て、受託事業者から提出された調査結果を元に、必要に応じて加筆・修正を加え報告書として取りまとめた。

なお、今回の調査では、煎茶道用具・原材料に関する調査が十分に行えず、網羅的な調査にならなかったことから、これらの調査結果の分析については参考資料への掲載にとどめた。

1章 煎茶道の歴史と現状について

1節 日本における煎茶道の歴史について

1-1 煎茶道の概要

(1) 煎茶道について

煎茶道とは

煎茶道では、煎茶会において、煎茶や玉露等の茶葉を急須によって淹れた「煎茶」を喫し、書画の掛物や文房具、花、盛物^{もりもの}などの鑑賞を行いながら、主客の交流を図ることを目的としている。この煎茶会自体の方式をはじめ、「煎茶」を淹れる方法や、煎茶道具を扱うための手前^{てまえ}（点前）¹や所作や作法、煎茶席の飾り方、煎茶を喫することへの考え方は流派によってそれぞれの特徴や違いがある。

煎茶会の概要、しつらい

・煎茶会の概要

煎茶道において、煎茶を喫するための場は「煎茶席」と呼ばれ、広間や書齋をはじめ、屋外などに設けられる場合がある。煎茶では、一定の形式を伴う専用の茶室はなく、一般の建物の広間を席として使用される場合、床・脇床^{とこ わきどこ}や書院、棚等の空間を利用して飾り付けが行われる。一般的な煎茶会のおよその構成は以下のとおりとなる。

- ・前席（待合席） ※展観席^{てんかんせき}・文房席^{ぶんぼうせき}・揮毫席^{きこうせき}などが設けられる場合がある
- ・本席 ※茶の種類などによる複数の席が設けられる場合がある

一般的な煎茶会の場合、煎茶席に入る前に、客が身支度などを整え席が開くまで待つための「待合」としての「前席」と、煎茶を喫するための「本席」によって構成されている場合が多い。

前席には、書画などの掛物や花が飾られている場合があり、その煎茶席がどのような趣向で開かれているのかをうかがうことができる。また、大規模な煎茶会になると書画や盛物、文房を展覧する「展観席」や、文房四宝^{ぶんぼうしほう}（筆、墨、硯、紙）などを展覧する「文房席」、書や詩をしたためて楽しむ「揮毫席」が設けられる場合もある。これらの席は、前席から発展して設けられるようになったもので、文房四宝をはじめ中国の古銅器や明清書画^{みんしん}、花を生けた花瓶や盆栽、奇石（怪石とも）、楽器（七絃琴や笛）、香炉などが席を彩った。

1 「点前」の「点」について、高橋忠彦「中国における喫茶法の発展」（熊倉功夫監修『中国茶文化大全 解題』農文協、平成13年 p.66）に「『点茶法』という喫茶法は、[中略]粉末の茶に直に湯をかけて飲むものであり、『点』とは湯を茶碗の一つ一つに注ぐ意である」とあることから、茶を淹れる行為そのものについては「点前」とする。したがって、炭の場合、「炭手前」となる。

・煎茶席のしつらい

煎茶を喫する本席のしつらいは、床は一間床とこ いっけんどこのような大床の場合が多く、花を飾る際には、床の間だけでなく卓じよく等を用い、部屋のあちらこちらに飾られる場合もある。掛物としては、中国の詩人や日本の近世文人の詩文など文学的な内容を持つものや、文人画などの絵画が飾られることが多い。加えて、煎茶席特有の盛物や、文人趣味を反映した文房四宝を飾り付ける文房飾りがしつらえられ、煎茶会を開く席主の趣向が表現される。こうした煎茶席の流行をより高めたものに、煎茶と同時期に流行した文房清玩趣味が挙げられる。文房四宝や奇石、盆栽、花、銅器などを愛玩する、超俗的な生活スタイルが文人たちに愛好されており、煎茶席に文房具が主要な役割を担う起因はここにある。

この本席のしつらいの趣向と共に、手前に用いる棚や盆、茶碗などの道具類（参考資料を参照）の飾り付けも、席主の好みや趣向の現れであり、席主と客が煎茶席を楽しむためのしつらいとして重要なものとなる。なお、煎茶会の規模によっては、茶の種類（煎茶、玉露など）や、座礼や立礼りゅうれいの違いによって複数の煎茶席が設けられている場合がある。

煎茶席を開く席主は、席を開く季節や招く客などを勘案して煎茶席の趣向を考え、趣向に適した掛物や花、盛物を席に飾り、茶碗等の道具類を選び、淹れる茶種や用いる道具等に適した手前をもって茶を淹れる。

・煎茶席での流れ

本席においては、席主（場合によっては手前者）によって煎茶や玉露等の茶が淹れられ、客に供される。煎茶や玉露等を淹れるために必要とされる手順や道具の扱い方、所作や作法等の一連の様式は、「手前（流派によっては点前）」と称されている。

席主が煎茶を淹れる場合を例として、席主が行う手前の大まかな流れを示すと²、

- ・涼炉りょうろ（焜炉こんろ）の炭を整え、ポーフラにて湯を沸かす。
- ・茶碗を水と茶巾で清めた後、ポーフラの湯を急須に注ぎ、次に急須の湯を茶碗に注ぎ、急須と碗を温めておく。
- ・茶碗を温めている間に、急須に茶葉を適量入れ、湯を注ぐ。
- ・茶が出るのを待つ間に、茶托を布巾にて清める。
- ・適宜、急須の茶を各々の茶碗に注ぎ分け、茶托に茶碗を載せて客へ一煎目を差し上げる。

席主が手前をして煎茶を淹れる際には、手前を行いながら、席の趣向や道具、菓子等について客と会話を交わしていくこともある。席主は、一煎目を客に出し終わると、二煎目を淹れるための手順を進めていく。

対して、客の方は、席主と会話しながら一煎目を飲み終わると、席主に茶托と共に茶碗を返し、供されたお菓子をいただく。席主は、返された茶碗に二煎目を淹れ、客へ供する。二煎目を淹れた

2 主婦の友社編『煎茶便利帳』（主婦の友社、平成12年）p.46-49を参考とした。

急須を籠等で客にお渡しして、客自らが茶碗に注ぐ場合もあり、この場合、客は茶碗・茶托を自席に置いたままにする。

客が二煎目を飲み終え茶碗・茶托を返すと、席主は、茶碗・茶托、手前で用いた道具類を拭き清めて席が始まる前の状態に復し、あいさつをして席を退出する。

以上の流れが、席主自らが煎茶を淹れる場合のおおよその流れである。なお、本席が複数設けられている場合は、席主と客は席を移して改めて茶を楽しむことになる。この際、淹れる茶の種類や席主が用いる道具等によって、手前や細かな手順、手続きが異なる。

煎茶道における手前、稽古について

・煎茶道における手前

煎茶道における手前は、文人の間でたしなまれるようになった煎茶が広まっていく過程において、田中鶴翁^{かくおう}や小川可進^{かしん}のような後世においては煎茶の宗匠と呼ばれる人々が登場し、次第に煎茶席の様式や煎茶を美味しく淹れるための手順や、道具の扱い方、作法・所作が形成された。

今日、煎茶道を担う各流派においては、煎茶を美味しく淹れ、席主と客が交流を深めることを目的として、様々な手前や所作・作法が存在している³。これらの手前は、用いる茶の種類（煎茶、玉露、焙じ茶等）や、用いる道具の種類（棚や盆等）によって用いられる道具や茶を淹れる手順が異なっている場合が多い。

例えば、煎茶を淹れるための手前の場合、ポーフラで沸かしたお湯がそのまま用いられる。一方、玉露を淹れる手前では、「湯冷まし」や急須を使って、湯の温度を適温に下げる。用いる茶の種類によって、必要となる道具や茶を淹れる手順などが異なっている。また、道具類を置くために棚を用いる場合や、器局^{ききよく}や茶櫃^{ちやびつ}を用いる場合では、道具の配置や飾り方が異なることに加えて、作法の手順なども異なり、手前ごとに細かな手順や所作の違いが見られる。

・煎茶道の稽古

煎茶道の各流派においては、煎茶を学びたい人のために稽古場あるいは教室を開き、煎茶の淹れ方を学ぶ場を設けている。これら稽古場等では、一般的に煎茶会で客として招かれた際の一般的な作法を身に付けることをはじめとして、煎茶席で煎茶を淹れるための各種の手前、席のしつらい方やその知識・考え方等について特に教授が行われる。

流派によっては手前等の習熟の度合い等に応じて免状を発行している場合もあり、手前を習熟した者の中では、煎茶道を教授する者として稽古場や教室、カルチャーセンターでの講座を開く者もいる。こういった稽古場や教室等が、煎茶を愛好する者が煎茶道を学ぶ場と機会になっている。

3 主婦の友社編『現代煎茶道事典』（主婦の友社、昭和56年）では、煎茶道の流派のうち、21流派の手前（点前）が写真入りで解説されている。

担い手について

煎茶道を担う者については、前述のとおり、煎茶の淹れ方や様々な方式を継承している煎茶道流派、そして流派横断的な全国団体がある。そして、これら流派に所属する者や個人として煎茶をたしなむ者などの煎茶道を愛好する者が煎茶道を担う者として考えられる。

・煎茶道流派

煎茶道では、いわゆる家元（又は宗家）と呼ばれる者が中心となって組織されている流派が存在し、流派ごとに煎茶の流儀を継承し、また、煎茶道の普及や振興に係る様々な取組を行っている。平成 12 年（2000）刊行の『煎茶便利帳』⁴掲載の「全国の煎茶道流派案内」では、41 流派が紹介されている。また、平成 25 年時点では 150 を超える流派が活動しているとも言われている⁵。

・流派横断的な全国団体

煎茶道流派の横断的な団体として、一般社団法人全日本煎茶道連盟がある。

当該団体は、昭和 29 年（1954）、黄檗山^{おうぼくさん}で立宗三百年大法要が営まれるにあたり協賛煎茶席が開かれたのを機に、昭和 31 年 1 月に結成された。昭和 41 年 5 月、文部省（現：文部科学省）から社団法人として認可され、煎茶道の普及と発展のため、全国煎茶道大会の開催や、月刊誌『煎茶道』をはじめとする煎茶関連図書の刊行、展覧会・研修会の開催等を行っている。

・煎茶道の愛好者

煎茶道の愛好者としては、煎茶道の流派に会員として所属し、流儀の指導を受けている者が想定される。この中でも、免状等の教授資格を有し煎茶道の手前（点前）や作法を教授する者と、教授者から手前（点前）や作法の指導を受けている学習者に大別される。また、流派の流儀をある程度の段階まで修めた後、流派から離れて一個人として煎茶をたしなんでいる者も一定数、存在すると考えられる。

政府の統計調査では煎茶道の愛好者数は対象外であり、民間調査会社による調査も確認することができず、正確な人数を把握することは困難であるので、参考として、一般社団法人全日本煎茶道連盟が主催する「全国煎茶道大会」及び「東京大煎茶会」の参加人数を記載することとする。

○全国煎茶道大会

令和 4 年（2022） 参加流派：18 流派 参加人数：約 2,000 名

○東京大煎茶会

令和 4 年（2022） 参加流派：11 流派 参加人数：約 1,000 名

4 主婦の友社編『煎茶便利帳』（主婦の友社、平成 12 年）p.184-191「全国の煎茶道流派案内」ではアンケートに回答があった流派が掲載されている。

5 大槻幹郎「売茶翁以前、売茶翁以後」（『目の眼』No. 445 株式会社目の眼、平成 25 年 p.31）参照

〈主要参考文献〉

- ・全日本煎茶道連盟編『煎茶道のすすめ』全日本煎茶道連盟、昭和50年
- ・主婦の友社編『現代煎茶道事典』主婦の友社、昭和56年
- ・主婦の友社編『煎茶の用語集』主婦の友社、昭和63年
- ・煎茶文化研究会編『煎茶の世界』主婦の友社、昭和63年
- ・全日本煎茶道連盟監修『煎茶 道具としつらいの知識』婦人画報社、平成4年
- ・主婦の友社編『煎茶便利帳』主婦の友社、平成12年
- ・井口海仙ほか編『新版 茶道大辞典』淡交社、平成22年
- ・大槻幹郎「売茶翁以前、売茶翁以後～煎茶はいかにして日本で大ブームとなったか」（『目の眼』No.445 株式会社目の眼、平成25年）
- ・漆原拓也「文人煎茶の盛衰」法政大学博士論文、平成27年
- ・「中国文房具と煎茶―清風にふかれて」展示解説冊子 泉屋博古館、平成31年
- ・船阪富美子「湯川玄洋の七石亭煎茶会」（『茶の湯文化学』第35号 茶の湯文化学会、令和3年）

1-2 煎茶道の歴史

(1) 喫茶法の変遷

茶の伝来

喫茶の伝来は8世紀から9世紀にかけて、最澄や空海、永忠といった遣唐僧たちによるものとされる。文献に飲茶について初めて登場するのは、弘仁6年(815)の4月22日に近江国滋賀韓崎からさき(現・滋賀県大津市唐崎)へ行幸した嵯峨天皇に、梵釈寺の大僧都・永忠が「手自ら茶を煎じ奉御す」と記された『日本後紀』においてである。

当時の茶は団茶(餅茶)と呼ばれるもので、茶葉をすり潰し粉末にしたものを、団子や餅のように堅く固めたものであった。その飲み方は、団茶を火にあぶって柔らかくし、冷ましてから細かく粉にし、釜の湯の中に塩を入れ、沸き加減を見て粉末を入れ、茶碗に汲みだす飲み物であった。

抹茶：薬用から茶の湯へ

建仁寺を開創した栄西は建久2年(1191)、中国への2度目の渡航を経て抹茶を飲むという宋代の新しい喫茶法を持ち帰った。建保2年(1214)、栄西が茶の功德を説いた『喫茶養生記』を酒毒に苦しむ鎌倉幕府3代将軍の源実朝に献上したことにより、喫茶が再び注目を集める端緒となった。『喫茶養生記』は日本で書かれた茶に関する最初の本で、茶の実用的側面、価値について説き、医薬、養生の仙薬として茶を推奨するとともに、抹茶を紹介した。この抹茶の喫茶法が、後の茶の湯へとつながっていくと考えられている。

煎茶の淹れ方「淹茶法」

「淹茶法」は明時代の中国で飲まれていたお茶の淹れ方で、急須等に茶葉を入れて湯を注ぎ、味の浸出したものを飲む方法である。当時の中国では、摘んだ茶の葉を鉄の釜で炒って作る「釜炒り煎茶」が飲まれていた。中国から渡来して宇治黄檗山萬福寺の開祖となった隠元隆琦いんげんりゅうき及び黄檗僧がもたらした煎茶は文人達の趣味と結びつき、後世の煎茶道が生まれる背景となった。

寛政6年(1794)、上田秋成は『清風瑣言』の「煎法」で、「蒸焙むしほうじの茶は、煮るに宜しく、炒茶は、淹煎だしちやに宜し」として、「釜炒り茶」を「淹茶法」で飲むことを勧めている。「淹茶」は、湯沸かしで湯を用意しておき、茶瓶を盆の上において、茶葉を先に茶瓶に入れ、茶瓶の外から湯をそそぎ、温気を内に通した後、瓶の中に湯を入れる。享和2年(1802)、柳下亭嵐翠りゅうかていらんすいは『煎茶早指南』で、秋成の説としてこの淹茶法を紹介している。天保6年(1835)、山本徳潤の『煎茶小述』では、今日と同じく、温め乾かした小瓶に茶葉を入れ、湯を注いでしばらく置くという法になっており、徐々に淹茶法が定着していく様子が見られる。

この頃が開発されたのが淹茶法で淹れる玉露である。玉露が引札(茶の価格表)に現れて流通するようになるのは、幕末から明治の初めにかけてとされる。玉露以前は、濃茶園煎茶、薄茶園煎茶と呼ばれる碾茶の余材の葉や茎を材とした煎茶(雁がね)が、高級煎茶とみなされていた。

(2) 文人と煎茶

売茶翁の登場

煎茶道として体制が確立していくのは、江戸時代半ば、京都に売茶翁と呼ばれる人物が登場した後のことである。売茶翁は享保 19 年（1734）、京都の東山の麓、二ノ橋のほとりに通仙亭という茶店を構え、煎茶による売茶活動を始めた⁶。

売茶翁の唐代詩人の超俗的な生き方を背景に持つ活動は、詩人、歌人、学者などの文筆活動や、画家、彫刻家、陶芸家等の芸術活動に携わる文人に影響を及ぼし、煎茶を味わいながら清談を楽しむという、文人たちの交友が次第に活発となる。売茶翁は大典頭常、亀田窮楽、彭城百川、池大雅、伊藤若冲などの文人たちと交流した。これらの多くの文人が中国における唐・宋・元・明・清の文人の境涯に憧れ、文人趣味や煎茶趣味を通して交友を深め、見識を広め、教養を高めたことにより、文人による煎茶が高揚した。

また、売茶翁が活動を始めた頃、元文 3 年（1738）、山城国宇治田原の茶匠、永谷宗七郎（宗円）によって、今日の緑茶の原型である青製煎茶が完成したと言われている。それまでの煎じ茶は、茶の古葉や茎、茶ではない喬木の葉を釜で炒るか蒸して、揉んで天火で乾かしたものであったが、宗円の製茶法は新芽を入念に選び、蒸し、焙炉で揉みながら乾燥させるものであった。水色は薄緑色で芳香良く、甘・苦・渋と味も整った画期的な煎茶で、当初、江戸で売り出したところ好評を博したという。青製煎茶を完成後数年して、宗円の元を訪れた売茶翁は、青製煎茶を賞味したと伝えられる⁷。

文人茶としての煎茶

宝暦 6 年（1756）、大枝流芳によって煎茶書『青湾茶話』が著され、同 8 年序の『茶経』（復刻）、同 14 年には『煎茶訣』（葉雋著、大典頭常補）などの刊行が続く。寛政 6 年（1794）、上田秋成が煎法、水質、茶葉、煎茶の精神を説いた『清風瑣言』を著してベストセラーになり、また、享和 2 年（1802）、『煎茶早指南』が、柳下亭嵐翠により名古屋にて発刊された。その後化政年間から明治時代に至る間、煎茶趣味全盛の時期を迎えた。

煎茶と縁のある著名な文人として岡田米山人、浦上玉堂、雲華大含、田能村竹田、中林竹洞、頼山陽、篠崎小竹、浦上春琴、岡田半江、山本梅逸、渡辺崋山などが挙げられる。また、若い頃に売茶翁と交流があり、遺品を所持していた木村兼葭堂は、大坂堀江（現・大阪市）で酒造業を営む傍ら、文人の風雅を好んで文化サロンを形成し、文人の良きパトロンとして、化政期に活躍する木米、田能村竹田にもその知識、内外の文物の恩恵を与え、煎茶黄金時代への橋渡しをした。

6 「売茶翁年譜」（ノーマン・ワデル著、樋口章信訳『売茶翁の生涯』思文閣出版、平成 28 年 p. 235）に、「享保 19 年（1734）60 歳」「鴨川辺、二ノ橋に茶店『通仙亭』を営む」とある。正確には、鴨川より東、「東山の泉涌寺と東福寺の後方の山麓から西に向かって流れ出して鴨川に合流する、三つの溪流に架かる三つの石橋の中の一つである」（同書 p. 35）。

7 「売茶翁高遊書」（島津良子責任編集『京都府宇治茶に関する古文書調査①『永谷三之丞家文書』分析調査報告書』京都府農林水産部農産課、令和 2 年「永谷三之丞家文書「古今嘉木歴覧」解説文・校注・参考文献」フィルムカットNo.6532-6534）

田能村竹田は、詩や書画を学び文人画の最高峰を極め、書画に加え、著作に3冊の煎茶書『^{ほうちや}泡茶新書三種』⁸や花論書『^{へいか}瓶花論』も残している。その交友は多彩で、先述の一級の文化人らと文人趣味を具現化させ煎茶趣味を鼓吹した。特に、文化8年（1811）に互いに30代半ばで出会った頼山陽との交流は風流才子の交わりといえ、著書『日本外史』で有名な頼山陽も、田能村竹田同様にこよなく煎茶趣味を愛した。

（3）煎茶道の広まり

煎茶の宗匠の誕生

煎茶は僧侶や儒者などの文人のみならず広く庶民へ普及し、市井の趣味人が指南書を発行したり、茶会を開催したりするなど、煎茶の世界に耽溺するようになる。天保6年（1835）9月には大坂において田中鶴翁の主催する^{もんちゆう}聞中禅師七回忌追善茶会、京都で同年12月、山本梅逸の参加するところの^{まるやましよう あみ}円山正阿弥茶会が開催された記録が残っている。

天明2年（1782）に生まれた田中鶴翁は、大坂で造り酒屋としての家業の傍ら趣味の世界に生きた人物として知られる。経済的にゆとりのある旦那として交友を広め、聞中禅師に師事するなど黄檗山萬福寺との縁も深く、また、売茶翁を深く尊敬し、煎茶界の興隆に尽くした。公家や武家への出入りも許され献茶、茶事などを行い、天保9年（1838）9月、公卿の^{いちじょうただか}一条忠香より「煎茶家元」の染筆を下賜されたと言われている。風流人として花月菴鶴翁と号し諸芸をたしなみ、花月菴流の流祖として煎茶の門人の養成に努めた。花月菴流からは、^{しょうけんりゆう}習軒流や^{しょうふうせいしゃ}松風清社などが生まれ、他の流派の手前にも大きな影響を与えた。

一方、京都室町では天明6年（1786）に小川弘宣（可進）が誕生、医業を営みながら煎茶の世界に傾倒し、茶と水、湯などの関連を探求し、やがて医業を捨て剃髪して号を後楽と称し、煎茶の道に進んだと伝えられている。もろもろの茶道具を考案し、煎茶道を学ぶための創意工夫を行った。文人らとの交流、公家の^{たかつかさ}近衛家、鷹司家、一条家とのつながりなどから、次第に宗匠としての地位を確立していったとされ、小川可進を流祖とする小川流が煎茶道流派として活動している。

幕末・明治以降の煎茶の様相

幕末の文久2年（1862）4月23日、南画家の^{ちやくにゆう}田能村直入の提唱によって、大坂淀川畔で「青湾之碑」の建立を記念した大煎茶会「青湾茶会」が開催された。本席7席・副席4席が設けられ、参加者1,200名、見学者は数え切れないほどの盛況であった。同年7月16日の売茶翁の百回忌には後青湾茶会が開催され、翌年にはこれらの茶会をまとめた、『青湾茶会図録』3部冊（天・地・人）が刊行されている。

明治7年（1874）11月の大阪青湾での^{しゅんこう}山中簪篁堂追薦の大煎茶会、さらに翌8年11月、京都円

8 『石山齋茶具図譜』、『竹田荘茶説』、『竹田荘泡茶訣』の3冊から成る。

山での鳩居堂酔香追薦煎茶会が開催されるなど煎茶の隆盛が続いた⁹。

大正時代に入り、松井楓川の追善煎茶会や角山簪篁翁追善煎茶会をはじめとして、全国各地で大小の煎茶会が催されたが、一方で、日清、日露の両戦争を経て軍国化が進み国民生活を圧迫、煎茶道の衰退を招くことになる。大正時代末期には、京大阪近郷の煎茶道の宗匠や数寄者たちが集まり、高遊会を結成し浄財を募って、昭和3年（1928）秋に、黄檗山萬福寺の境内に売茶翁顕彰のための売茶堂、併設の煎茶席有声軒を完成させた。有声軒では煎茶会が継続的に開かれていたほか、各地においては同好の志が集い雅友の会を発足させて記念の会などが開催されたが、その後、戦時下を迎えることとなった。

戦後の復興、流派煎茶の興隆

第二次世界大戦後には、華族制度廃止、財閥解体が行われ、数寄者による煎茶が衰退する一方、煎茶道は高度経済成長期に拡大していった。

昭和26年（1951）、京都煎茶家元会が発足した。同29年には黄檗山萬福寺の大法会に協賛し各流派による煎茶会が行われ、この煎茶会をきっかけとして、隠元・高遊外売茶翁ゆかりの黄檗山に参集した各家元の発案で、昭和31年には全日本煎茶道連盟が結成され、昭和41年には文部省（現：文部科学省）の認可する社団法人となった。

また、同連盟には参加せずに活動を行う流派・団体もあり、全国各地で煎茶の普及に努める活動を続けている。

〈主要参考文献〉

- ・田中青坡『煎茶花月菴』主婦の友社、昭和48年
- ・主婦の友社編『続 煎茶全書』主婦の友社、昭和51年
- ・主婦の友社編『現代煎茶道事典』主婦の友社、昭和56年
- ・全日本煎茶道連盟監修『煎茶 道具としつらいの知識』婦人画報社、平成4年
- ・宮崎修多「茗讌図録の時代」（『季刊 文学』第7巻第3号 岩波書店、平成8年）
- ・煎茶文化研究会編『煎茶の世界：しつらいと文化』雄山閣、平成9年
- ・小川後楽『煎茶への招待』NHK ライブラリー、平成10年
- ・小川後楽『煎茶を学ぶ』角川書店、平成10年
- ・ノーマン・ワデル著、樋口章信訳『売茶翁の生涯』思文閣出版、平成28年
- ・中野俊昭「煎茶文化のふるさと八橋 八橋(方巖)売茶翁」（『教育と文化』116（公財）愛知教育文化振興会、平成30年）

⁹ 宮崎修多「茗讌図録の時代」（『季刊 文学』第7巻第3号 岩波書店、平成8年 p.33～45）に掲載されている「茗讌図録年表（未定稿）」によれば、明治時代に刊行された茗讌図録は59件（大正時代は12件）、刊行地は、東京・京都・大阪・名古屋・高松・近江・福岡・富山・長浜・高崎・長崎・静岡・和歌山・岡山ほか。図録刊行の機会は、追薦や長寿の祝賀・記念などが多い。

2節 現代における煎茶道の現状と社会的な位置付けについて

2-1 現代社会における煎茶道

煎茶道の国内状況

令和元年（2019）に実施した煎茶道に係る団体へのアンケート調査によれば、各団体の抱える問題として「会員の高齢化」（78.1%）、「会員数の減少」（75.0%）を挙げる団体が多く、指導者の高齢化や継承者育成も課題として挙げられている。これらの課題の解決として、流派等団体は、SNS等を活用した情報発信のほか、幅広い世代に煎茶道を広め、体験する機会を提供するような取組を実施している¹⁰。

一方で、近年、博物館や美術館等において煎茶関連の展覧会・展示が多く行われるようになってきている。平成8年（1996）には板橋区立郷土資料館で「長崎唐人貿易と煎茶道」、同9年には大阪市立美術館「煎茶・美とそのかたち」が開催されている。入間市博物館ALITでは、同7年に煎茶をテーマにした展示を行って以降、収集コレクションから煎茶関連の道具や書画を展示する「館蔵 煎茶道具展」がたびたび開催されているほか、静嘉堂文庫美術館でも平成10年、平成12年、平成28年に煎茶具等を取り上げた展覧会が開催されている。

令和元年（2019）、京都・^{せんおく}泉屋博古館「中国文房具と煎茶—清風にふかれて」では、所蔵の書画、文房具、喫茶道具が席ごとにしつらえられ、実際に茶席で道具を鑑賞しているような趣の展覧会も開催された。

煎茶道流派の活動

日本国内では、家元が中心となって組織された流派団体が、流派に伝承されている流儀を次世代に継承することを主目的とし、広く煎茶道の振興に努める活動を行っている¹¹。

煎茶道各流派では正月には初煎会を開始しているほか、季節ごとに早春、春季、夏季、七夕、納涼、残暑、秋季、月見、師走などをテーマとした茶会を行っている。また、流派本部や支部の周辺などにある地域の神社や寺院内の茶室で、地域のイベントとタイアップして茶会を開くケースも見られる。

このほか茶の湯文化学会、文人画研究会などの学術研究団体と協働した活動を行っているケースや、高齢者施設、生涯学習施設などで幅広く煎茶の普及活動を行っている流派、大学での部活動や同好会活動を通じ普及啓発を行う流派もある。

10 『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和2年

11 『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和2年

全日本煎茶道連盟の活動

煎茶道流派が会員となって組織されている一般社団法人全日本煎茶道連盟は、昭和31年（1956）5月の第1回全国煎茶道大会開催以降、毎年5月に本部のある萬福寺で全国大会を開催するほか、昭和61年からは文化庁主催の国民文化祭において煎茶会を開催している¹²。

近年では、夏期大学など教授者養成のための研修会や煎茶文化フォーラムで講演会やパネルディスカッションを毎年実施するなど、煎茶道の普及や振興に係る取組を煎茶道流派の協力により行っている。また、同団体は昭和61年の日本煎茶工芸協会の発足に関わり、公募展として日本煎茶工芸展を開催するなど、煎茶道具の向上と普及のため、道具製作者である工芸家の支援も行っている。

煎茶道関係者の評価

煎茶道に関する評価については、その普及・振興において功績があったとする人物が勲章・褒章や表彰を受けていることから見て取ることができる。

表1 煎茶道関係者の表彰一覧

受章・表彰年	氏名	主要経歴	叙勲・褒章・表彰
平成4年（1992）	土居 一雄（土居 雪映）	（社）全日本煎茶道連盟常任理事	勲五等瑞宝章
平成6年（1994）	海野 明（海野 彰堂）	（社）全日本煎茶道連盟常任理事	勲五等瑞宝章
平成7年（1995）	仙田 正夫（仙田 竹窓）	（社）全日本煎茶道連盟常任理事	勲五等瑞宝章
平成13年（2001）	諸泉 陽子（諸泉 祐陽）	（社）全日本煎茶道連盟常任理事	勲五等宝冠章
平成15年（2003）	高鳥 徳二（高鳥 尚堂）	（社）全日本煎茶道連盟副理事長	勲五等瑞宝章
平成19年（2007）	加藤 正（加藤 景正）	（社）全日本煎茶道連盟副理事長	旭日双光章
平成22年（2010）	花田 博明（小笠原秀道）	煎茶道小笠原流瑞峰庵理事長	旭日双光章
平成23年（2011）	藤本昭二郎（二條 雅荘）	（社）全日本煎茶道連盟理事長	旭日双光章
平成27年（2015）	中村 一登（中村 松継）	（一社）全日本煎茶道連盟理事長	旭日双光章
令和3年（2021）	海野 俊彦（海野 俊堂）	（一社）全日本煎茶道連盟理事長	文化庁長官表彰

〈主要参考文献〉

- ・全日本煎茶道連盟編『煎茶道のすすめ』全日本煎茶道連盟、昭和50年
- ・板橋区立郷土資料館図録『長崎唐人貿易と煎茶道』図録、平成8年
- ・大阪市立美術館『煎茶・美とそのかたち』図録、平成9年
- ・静嘉堂文庫美術館『静嘉堂蔵煎茶具名品展』図録、平成10年
- ・主婦の友社編『煎茶便利帳』主婦の友社、平成12年
- ・愛知県陶磁資料館『煎茶とやきもの 江戸・明治の中国趣味』図録、平成12年
- ・入間市博物館『「煎茶」伝来 売茶翁と文人茶の時代』図録、平成13年

12 令和2年、同3年は新型コロナウイルス感染症拡大状況下で中止されている。

- ・漆原拓也「文人煎茶の盛衰」法政大学博士論文、平成 27 年
- ・『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和 2 年
- ・一般社団法人全日本煎茶道連盟公式サイト (URL:<http://www.senchado.com>) 最終確認日：令和 6 年 2 月 15 日
- ・入間市博物館 ALIT サイト「日本への伝来」(URL:<https://www.alit.city.iruma.saitama.jp/070/030/010/20200101163000.html>) 最終確認日：令和 6 年 2 月 15 日
- ・泉屋博古館『泉屋博古館名品選 99』図録、令和 4 年

2-2 国民意識調査について

(1) 調査の概要

生活文化に係る6分野（煎茶道、香道、和装、礼法、盆栽、錦鯉）に関して、インターネットを活用し2万人を対象としたウェブアンケート調査による国民の意識調査を実施することで、国民の生活文化に対する興味や関心などの実情について把握し、今後の生活文化等に関する政策立案の基礎資料の作成を行うことを目的として調査を実施した。

このウェブアンケート調査では、下記に示すとおり、煎茶道の経験の有無を問う設問を設け、回答者の経験・体験の深度を図ると共に、経験・体験の程度ごとに設問群を設け、活動内容や興味関心について把握を行った。

■調査設計

調査方法	インターネット調査（調査業者：株式会社クロス・マーケティング）						
調査地域	全国						
調査対象者	18歳以上の男女						
サンプル数	2万サンプル						
		18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	男性	1,398	1,359	1,759	1,580	1,459	2,090
	女性	1,342	1,303	1,713	1,588	1,533	2,723
	それ以外／ 答えたくない	41	29	24	10	10	39
	※国勢調査（令和2年）に基づき、性・年齢・都道府県別の比率に2万サンプルを割付けている。						
調査期間	令和4年10月14日（金）～10月20日（木）						
設問項目	【属性】 F1：性別 F2：年齢 F3：居住地 F4：職業 F5：同居している人の状況 F6：昨年度の世帯全体の年収 F7：最終学歴 F8：子供の頃の習い事						
	【フィルタリング・パート】 FQ1：煎茶道の経験の有無						
	【「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問】						
	AQ1：煎茶道を習い始めたきっかけ AQ2：煎茶道を始めた当初の習い方 AQ2補問：当初の習い方を選んだ理由 AQ3：現在の継続状況 AQ3補問1：煎茶道を続けている理由 AQ3補問2：煎茶道から離れたきっかけや理由 AQ4：煎茶道を続けている（続けていた）年数						

	<p>AQ 5：煎茶道に関する活動内容</p> <p>AQ 6：煎茶道に関する活動頻度</p> <p>AQ 7：煎茶道に関する月額費用</p> <p>AQ 8：煎茶道に関する興味関心や魅力</p>
	<p>【「学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある」と回答した者への設問】</p> <p>AQ 9：煎茶道を体験したきっかけ</p> <p>AQ 10：煎茶道を体験した場</p> <p>AQ 11：煎茶道を習いやすい状況</p> <p>AQ 12：煎茶道に支払える月額費用</p> <p>AQ 13：煎茶道を習っていない理由</p> <p>AQ 14：煎茶道に対する印象やイメージ</p> <p>AQ 15：煎茶道に関する興味関心や魅力</p>
	<p>【「今まで経験したことはない」と回答した者への設問】</p> <p>AQ 16：参加してみたい煎茶道の体験内容</p> <p>AQ 17：参加しやすい煎茶道の体験条件</p> <p>AQ 18：煎茶道を体験したことがない理由</p> <p>AQ 19：煎茶道に対する印象やイメージ</p> <p>AQ 20：煎茶道に関する興味関心や魅力</p>
	<p>【共通設問】</p> <p>Q 1：趣味・余暇活動の参加状況</p> <p>Q 2：1ヶ月に使える趣味・余暇費用</p> <p>Q 3：1ヶ月に使える趣味・余暇時間</p> <p>Q 4：趣味・余暇活動を行う時間帯</p> <p>Q 5：消費行動に対する価値観</p> <p>Q 6：接触メディア</p>

■調査結果を見る上での注意事項

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・集計表では、各回答の回答比率を示しているほか、属性（性別、年齢など）や設問間でのクロス集計を行った数値を示している。各回答の全体平均を比較して、±5ptもしくは±10ptの開きがある場合は色付けをしており、凡例を付してある。なお、5pt丁度、10pt丁度の場合、色付けを行っていない。
- ・集計によっては、母数が少なく、結果の信頼性が担保できないものがあるため、母数が少ない集計結果については、留意のため、グレーで表示している。
- ・調査設問項目【属性】のF3居住地は、総務省「地域別表章に関するガイドライン」の「類型Ⅰ」に沿って、下記のとおり都道府県を分類している。

北海道：北海道

東北：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県

関東：茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県

北陸：新潟県・富山県・石川県・福井県

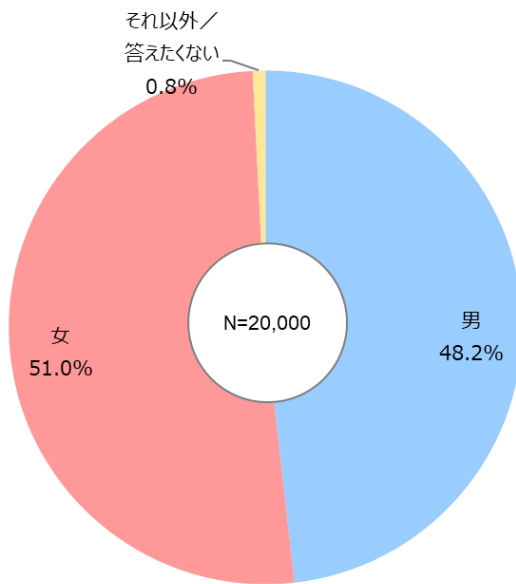
東海（中部）：岐阜県・静岡県・愛知県・三重県

近畿：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
 中国：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
 四国：徳島県・香川県・愛媛県・高知県
 九州：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県
 沖縄：沖縄県

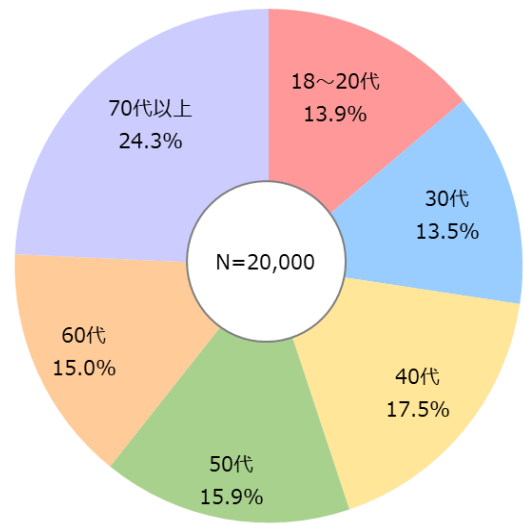
(2) 調査結果概要

1. 属性

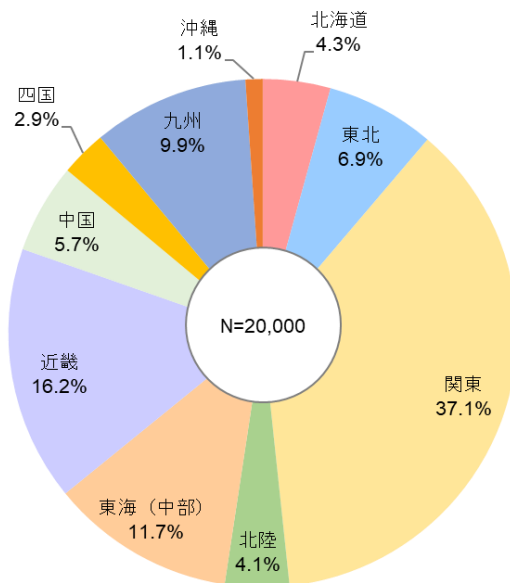
①性別



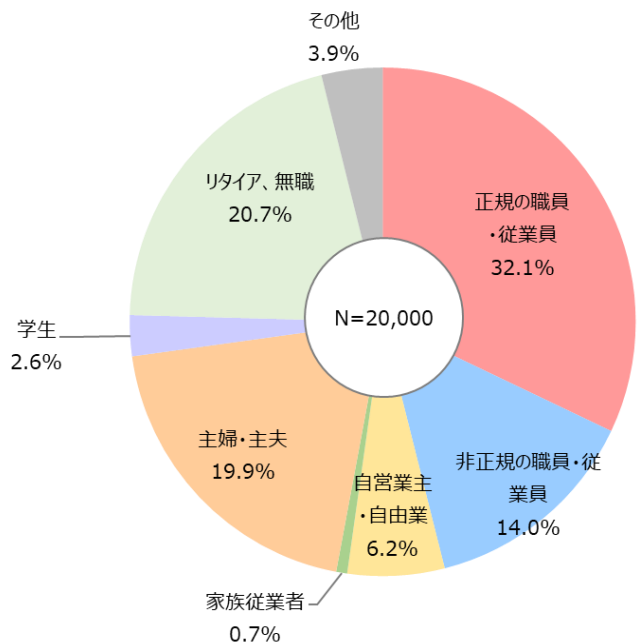
②年齢



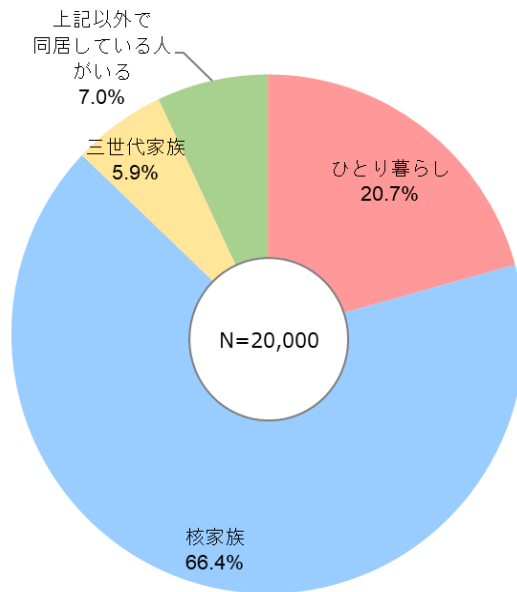
③居住地



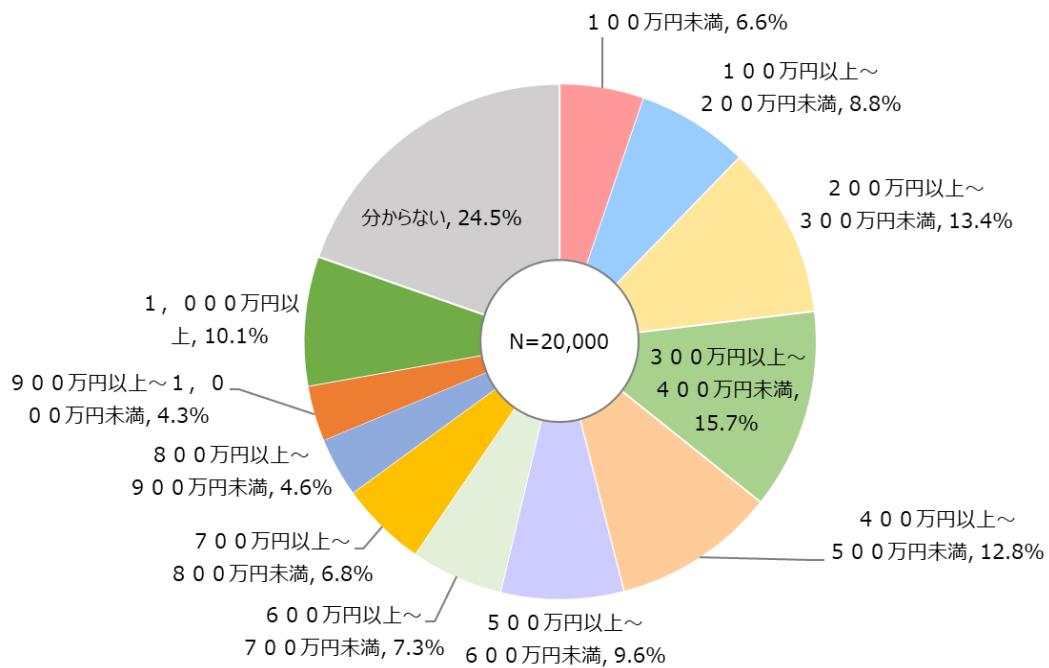
④職業



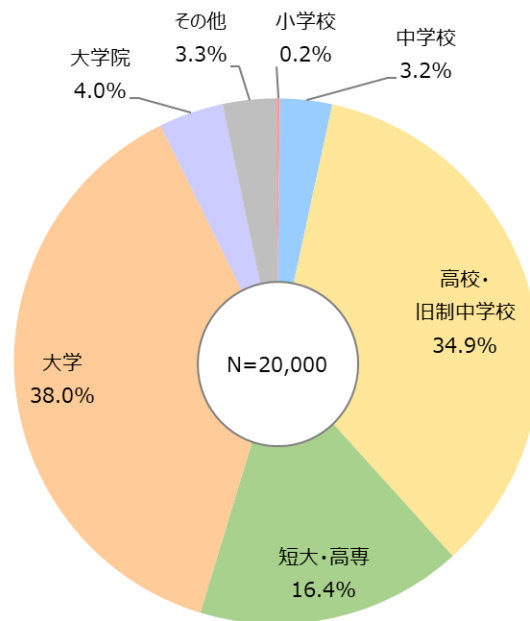
⑤同居している人の状況



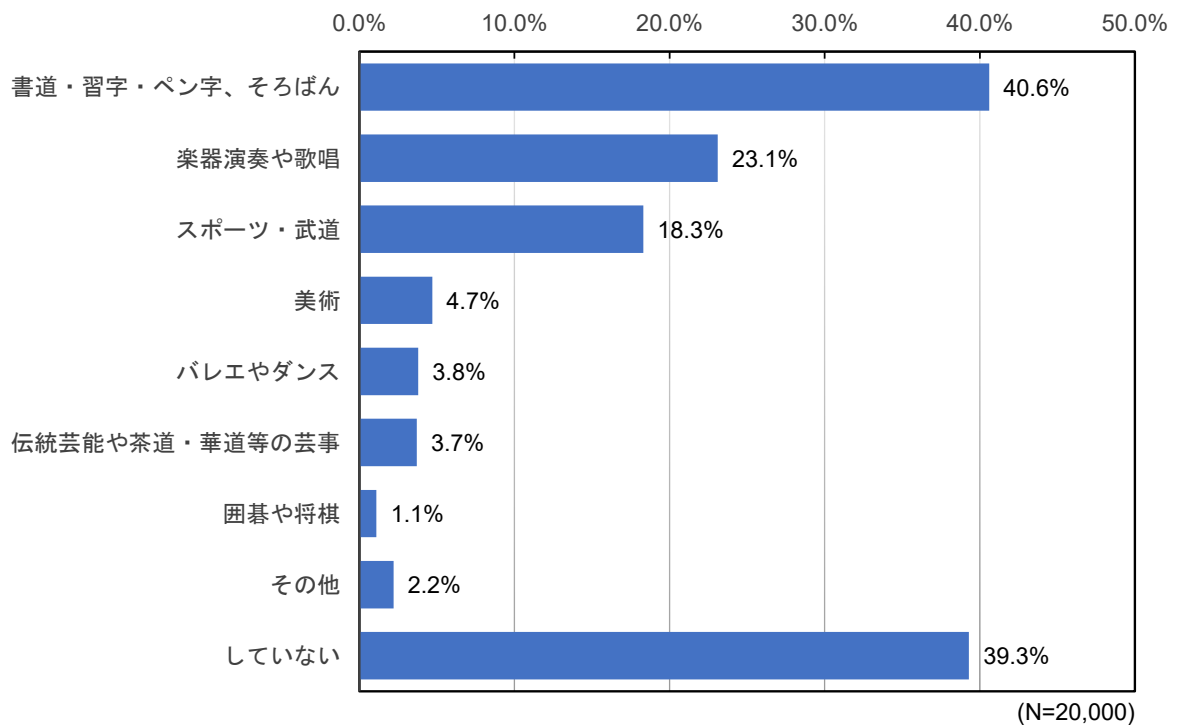
⑥昨年度の世帯全体の年収



⑦最終学歴



⑧子供の頃の習い事（複数回答）



(その他の内容) 英会話教室、学習塾、ボーイスカウト

2. 共通設問

共通1 あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。(複数回答)

【スポーツ (観戦除く)】

												(件・%)	
全体	ウォーキング	ジョギング・マラソン	トレーニング	体操(器具を使わないもの)	ゴルフ(コース)	ゴルフ(練習場)	釣り	水泳(プールでの)	サイクリング・サイクスポーツ	テニス	キャッチボール・野球	スキー	
	32.1	7.8	7.0	6.3	5.1	4.0	3.6	3.4	2.9	2.8	2.3	2.3	
	卓球	エアロビクス、ジャズダンス	ボウリング	サッカー	バトミントン	スノーボード	バレーボール	柔道・剣道・空手などの武道	バスケットボール	フットサル	レスリング・スキューバダイビング・格闘技	パークゴルフ・フリスビーなどのゴルフ	
	2.1	2.0	1.8	1.8	1.6	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	
	ソフトボール	サーフィン・ウインドサーフィン	乗馬	アイススケート	ゲートボール	ヨット・モーターボート	カヌー・ラフティン	パングライダー・パラグライダー					
20,000	0.7	0.5	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1					

【趣味・創作】

												(件・%)	
全体	音楽鑑賞(配信、CD、レコード、FMなど)	読書(仕事、勉強などを除く娯楽として)	映画(テレビは除く)	動画鑑賞(レンタル、配信を含む)	園芸、庭いじり	音楽会、コンサートなど	スポーツ観戦(テレビは除く)	美術鑑賞(テレビは除く)	ファッション(楽しみとしての)	編物、織物、手芸	観劇(テレビは除く)	洋楽の演奏	
	17.3	16.1	14.5	13.6	12.8	10.8	7.4	6.7	5.9	5.9	4.9	4.7	
	日曜大工	料理(日常的なものを除く)	写真の制作	学習・調べもの	絵を描く、彫刻をする	洋裁、和裁	詩文の創作(小説、俳句など)	動画の制作・編集	演芸鑑賞(テレビは除く)	お花	模型づくり	書道	
	4.6	4.3	3.9	3.7	3.0	2.9	2.3	2.1	2.0	1.8	1.8	1.7	
	お茶	趣味工芸(組ひも、ペーパークラフト、革細工など)	邦楽、民謡	コーラス	陶芸	洋舞、社交ダンス	おどり(日舞など)						
20,000	1.6	1.5	1.5	1.1	1.0	0.8	0.4						

【娯楽】

		(件・%)										
全体	テレビゲーム（家庭用）	カラオケ	温泉施設（健康ランド、クアハウス、スパ銭湯等）	宝くじ	外食（日常的なものを除く）	ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	中央競馬	バーベキュー	麻雀	パチンコ	将棋	サウナ
		7.9	6.9	6.8	5.8	5.5	5.3	4.7	3.8	3.7	2.8	2.7
	ゲームセンター、ゲームコーナー	カラオケ、花札など	地方競馬	サッカーくじ（t.o.）	バー、飲み屋	囲碁	ボートレース（競艇）	競輪	ビリヤード	オートレース	クラブ、キャバレー	ディスコ
20,000	2.5	2.3	1.9	1.8	1.7	1.2	1.2	1.0	0.9	0.5	0.5	0.3

【観光・行楽】

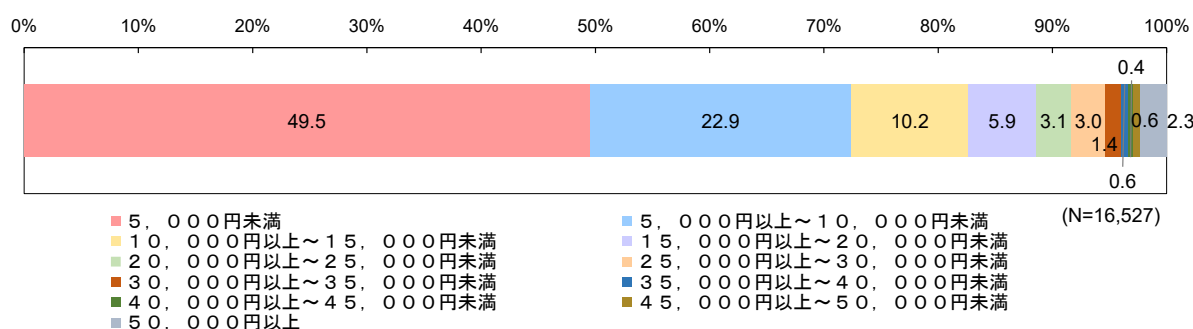
		(件・%)											
全体	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	ドライブ	動物園、博物館、水族館	海外旅行	ピクニック・ハイキング・野外散歩	遊園地	帰省旅行	催し物、博覧会	登山	海水浴	オートキャンプ	フィールドアスレチック	
		30.7	17.9	12.4	9.2	6.9	6.4	6.4	5.4	4.0	2.1	2.0	0.6
	20,000	30.7	17.9	12.4	9.2	6.9	6.4	6.4	5.4	4.0	2.1	2.0	0.6

【その他・特に何もしていない】

		(件・%)										
全体	複合ショッピングモール	ウインドウショッピング	ペット（遊ぶ、世話をする）	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	ヨガ、ピラティス	ボランティア活動	農園（市民農園など）	エステティック、ホームエステ	クルージング（客船による）	自由記述	特に何もしていない	
		15.7	11.2	8.7	6.2	3.3	2.9	2.1	1.6	1.1	0.8	17.4
	20,000	15.7	11.2	8.7	6.2	3.3	2.9	2.1	1.6	1.1	0.8	17.4

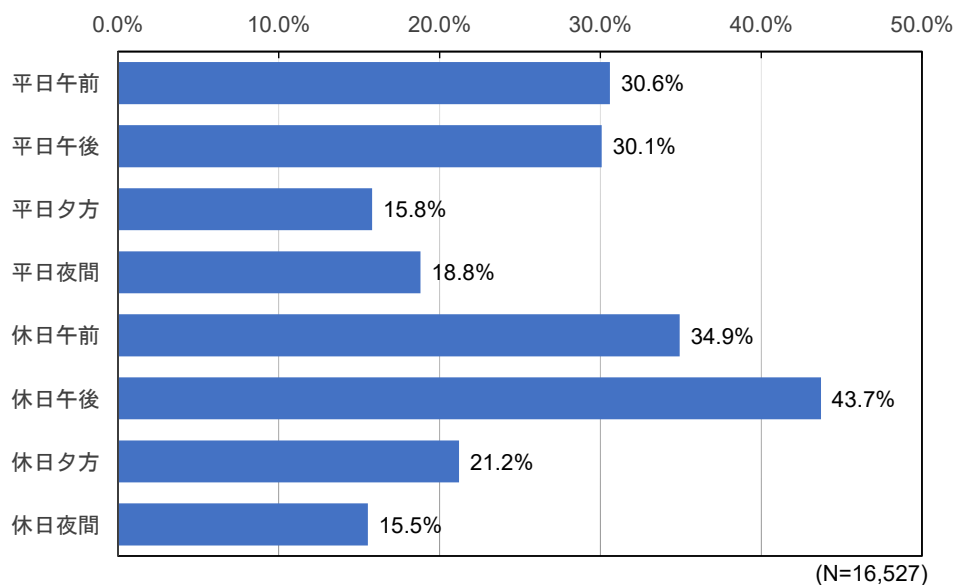
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通2 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。



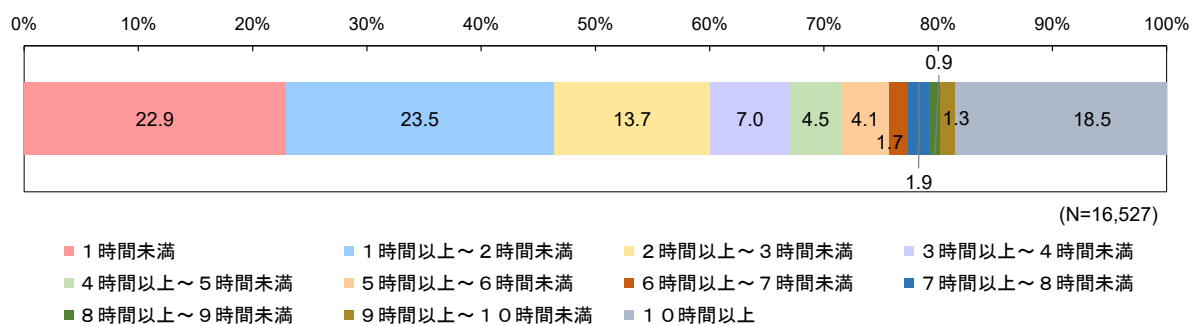
<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通3 あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。(複数回答)

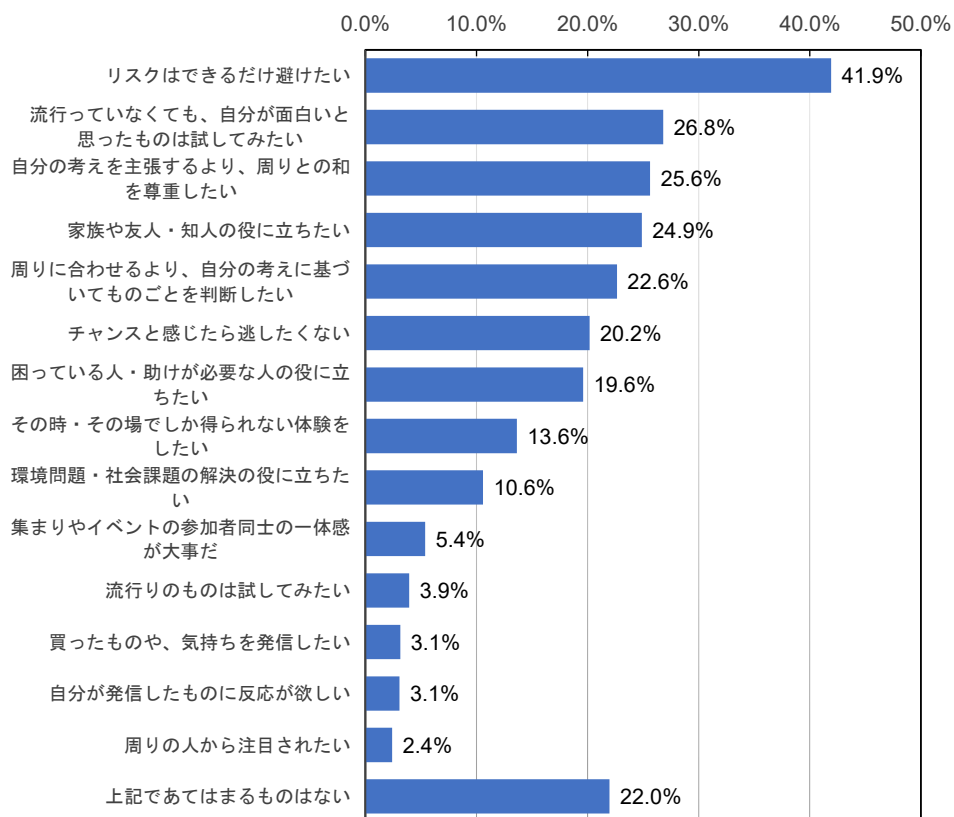


<共通1で「特に何もしていない」以外を回答した方>

共通4 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。

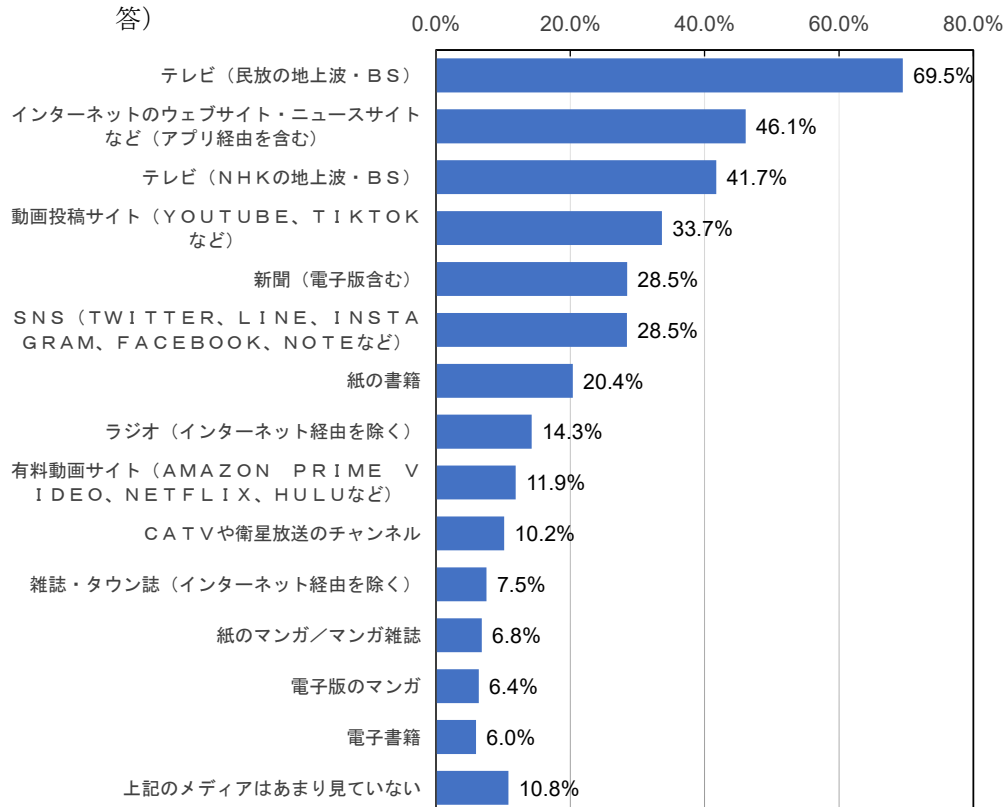


共通5 下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。(複数回答)



(N=20,000)

共通6 下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(複数回答)



(N=20,000)

3. 単純集計の結果について

■全調査対象者への設問（FQ1：煎茶道の経験・体験の有無）

煎茶道を経験した者、あるいは全く触れたことがない者がどの程度いるのかは、統計調査等では明らかとなっていない。加えて、煎茶道の「経験」にも深度があり、いわゆる稽古場や教室等で習った経験がある者や、稽古場や教室等で教える立場にいる者、あるいは、イベント等で煎茶会等に参加し体験をしたことがある者等がいて想定される。経験の有無を大別するならば、教室等で習ったあるいは教える立場にいる者、イベント等で体験をした者、そして経験をしたことがない者に分けることができると考えられる。

本設問では、上記の想定に基づき、煎茶道の経験の有無とあわせて、経験の深度を図る選択肢を設けて、実態の把握を行った。

FQ1 煎茶道の経験・体験の有無

煎茶道を「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」（以下、「経験あり」）比率は5.1%（1,019人）、「学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある」（以下、「参加体験あり」）13.6%（2,715人）、「今まで経験したことはない」（以下「未経験」）81.3%（16,266人）となった。

男女別では、女性の「経験あり」が7.7%、「参加体験あり」が17.2%と男性よりも高い。

年齢別では、「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者ともに70代以上が最も高い。また、全体の傾向を見ると、「経験あり」の60代以上、「参加体験あり」の18～20代と70代以上が全体平均より高く、40～50代は全体平均より低い回答比率である。

		n=	習っている(いた)、あるいは教える立場にいる(いた)		学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある	今まで経験したことはない
全体		20,000	5.1	13.6	81.3	
性別	男	9,645	2.4	9.9	87.7	
	女	10,202	7.7	17.2	75.2	
	それ以外／答えたくない	153	2.0	9.2	88.9	
年齢	18～20代	2,781	5.1	15.4	79.5	
	30代	2,691	3.7	13.6	82.7	
	40代	3,496	2.7	11.2	86.1	
	50代	3,178	3.2	11.2	85.6	
	60代	3,002	5.5	12.8	81.7	
	70代以上	4,852	8.6	16.3	75.1	

図1 FQ1：煎茶道の経験・体験の有無

■「煎茶道を習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問（AQ1～AQ8：経験者の実態把握）

本設問群では、煎茶道を経験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会に煎茶道を習い、興味関心を持っているのか等、経験者の実態を把握するためのアンケートを実施した。

AQ1 煎茶道を習い始めたきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」の28.7%で、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」24.2%、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」22.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（29.3%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（28.4%）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（17.7%）の回答比率は全体平均より高く、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（ともに19.0%）の回答比率が全体平均より低い。

次に、年齢別で見ると、10～40代で「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」と「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」が全体平均よりも回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」と「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」、「煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった」については、経験年数が長いほど回答比率が高くなっている。

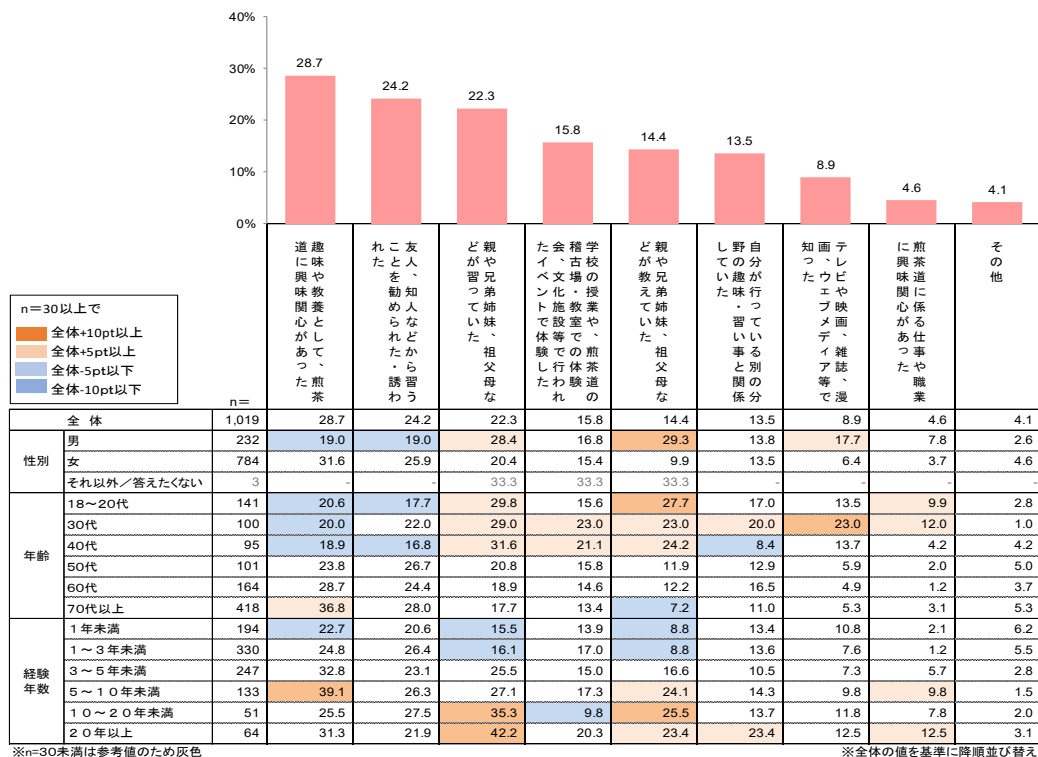


図2 AQ1：煎茶道を習い始めたきっかけ

(その他の内容) 職場に教室があった、親に勧められた、部活動

AQ2 煎茶道を始めた当初の習い方

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や知人等、身近な人に習っていた」の38.0%で、次いで「稽古場や教室で習っていた」35.1%、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」26.1%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」(36.2%)、「カルチャーセンターの講座で習っていた」(22.4%)が全体平均より回答比率が高く、「稽古場や教室で習っていた」(22.0%)が全体平均より回答比率が低い。

次に年齢別では、「稽古場や教室で習っていた」の回答比率は、10~40代までの者で全体平均の数値よりも低く、60代以上の高年齢の者では全体平均より高い回答比率が出ている。

経験年数別で見た場合、「家族や知人等、身近な人に習っていた」では、1年未満(45.9%)と10~20年未満(54.9%)の回答比率が高く、3~5年未満(32.0%)の回答比率が低い。また、「稽古場や教室で習っていた」と比べると、20年以上(56.3%)の回答比率が高く、「1年未満」(20.1%)の回答比率は低いことが分かる。

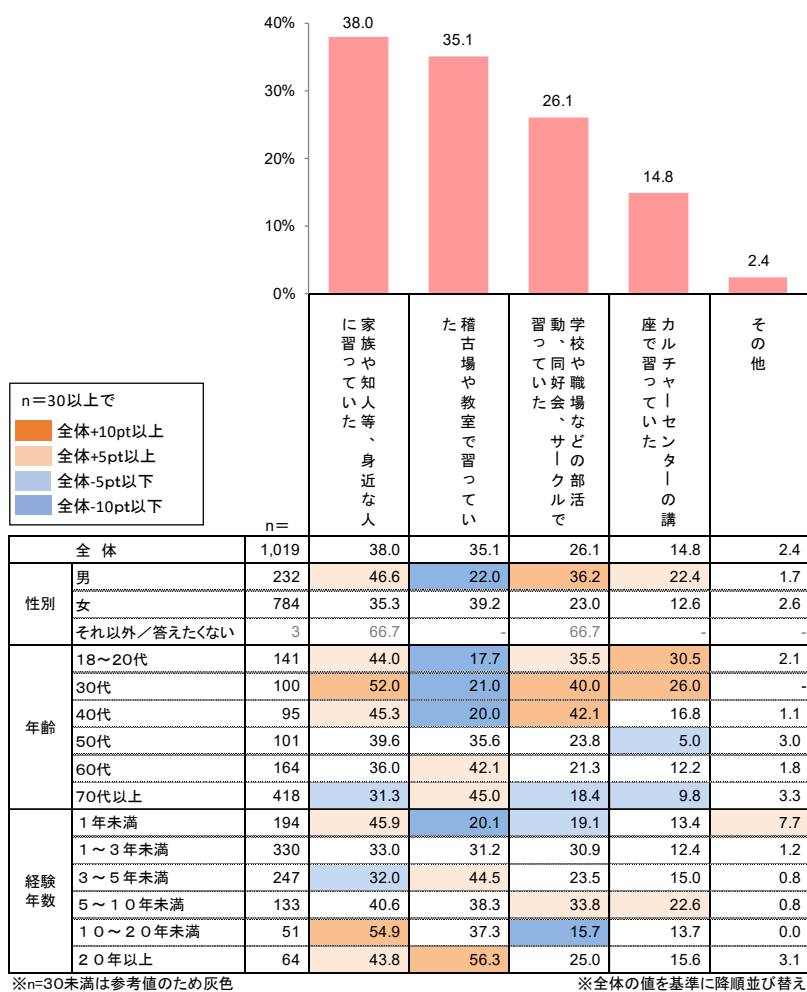


図3 AQ2：煎茶道を始めた当初の習い方

(その他の内容) 個人の先生、家に先生が来て習っていた

AQ2補問 当初の習い方を選んだ理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所だった」の41.2%で、次いで「家族や友人等と一緒に良かった」27.5%、「手軽に習ってみたかった」25.4%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では男性で「道具等が借りられた」(19.4%)の回答比率が高く、「手軽に習ってみたかった」(13.4%)の回答比率は低い。

年齢別では「指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた」では30代の回答比率が高く、「手軽に習ってみたかった」では、70代以上の回答比率が高い一方、10~30代の者ほど回答比率が低い傾向にある。

経験年数別では、経験年数が長いほど「家族や友人等と一緒に良かった」、「本格的に習ってみたかった」の回答比率が高くなる傾向が見られるほか、1年未満と20年以上の経験年数の者を除き、「通いやすい場所だった」との回答比率は高い。

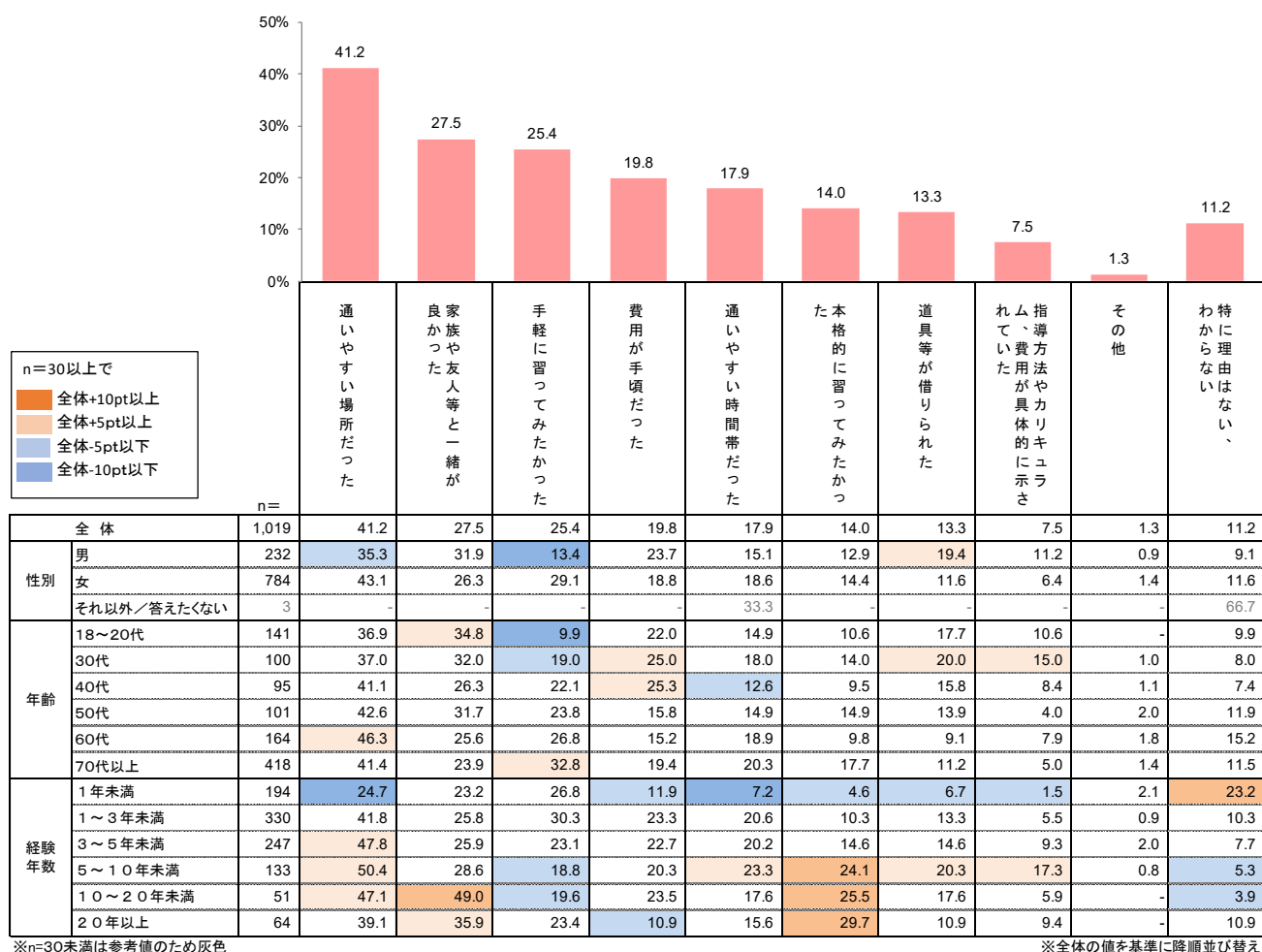


図4 AQ2補問：当初の習い方を選んだ理由

(その他の内容) 親の勧め、会社に入社すると入る、免許がもらえた

AQ3 現在の継続状況

「続けている」23.3% (237人)、「続けない」76.7% (782人)と、続けないとの回答比率が高い。

男女別で見た場合、男性で「続けている」が55.6%と高い一方、女性では13.8%と低く、年齢別では若年者ほど「続けている」への回答比率が高い。

経験年数別では、5年以上の人で「続けている」比率が全体平均の回答比率(23.3%)を上回っており、年数が多いほど「続けている」という回答比率が高くなる傾向が見られる。

また、世帯年収別で見た場合、800万円以上～900万円未満の家庭で「続けている」という回答比率が極めて高くなっている。

			(%)	
			続けている	続けない
n=				
全体		1,019	23.3	76.7
性別	男	232	55.6	44.4
	女	784	13.8	86.2
	それ以外/答えたくない	3		100.0
年齢	18～20代	141	61.7	38.3
	30代	100	55.0	45.0
	40代	95	35.8	64.2
	50代	101	19.8	80.2
	60代	164	9.1	90.9
	70代以上	418	6.2	93.8
経験年数	1年未満	194	10.3	89.7
	1～3年未満	330	15.8	84.2
	3～5年未満	247	22.7	77.3
	5～10年未満	133	31.6	68.4
	10～20年未満	51	45.1	54.9
	20年以上	64	68.8	31.3
昨年度の世帯年収	100万円未満	48	41.7	58.3
	100万円以上～200万円未満	86	16.3	83.7
	200万円以上～300万円未満	100	22.0	78.0
	300万円以上～400万円未満	126	25.4	74.6
	400万円以上～500万円未満	100	27.0	73.0
	500万円以上～600万円未満	76	19.7	80.3
	600万円以上～700万円未満	54	29.6	70.4
	700万円以上～800万円未満	43	20.9	79.1
	800万円以上～900万円未満	48	54.2	45.8
	900万円以上～1,000万円未満	34	29.4	70.6
	1,000万円以上	107	30.8	69.2
分からない	197	6.6	93.4	

※n=30未満は参考値のため灰色

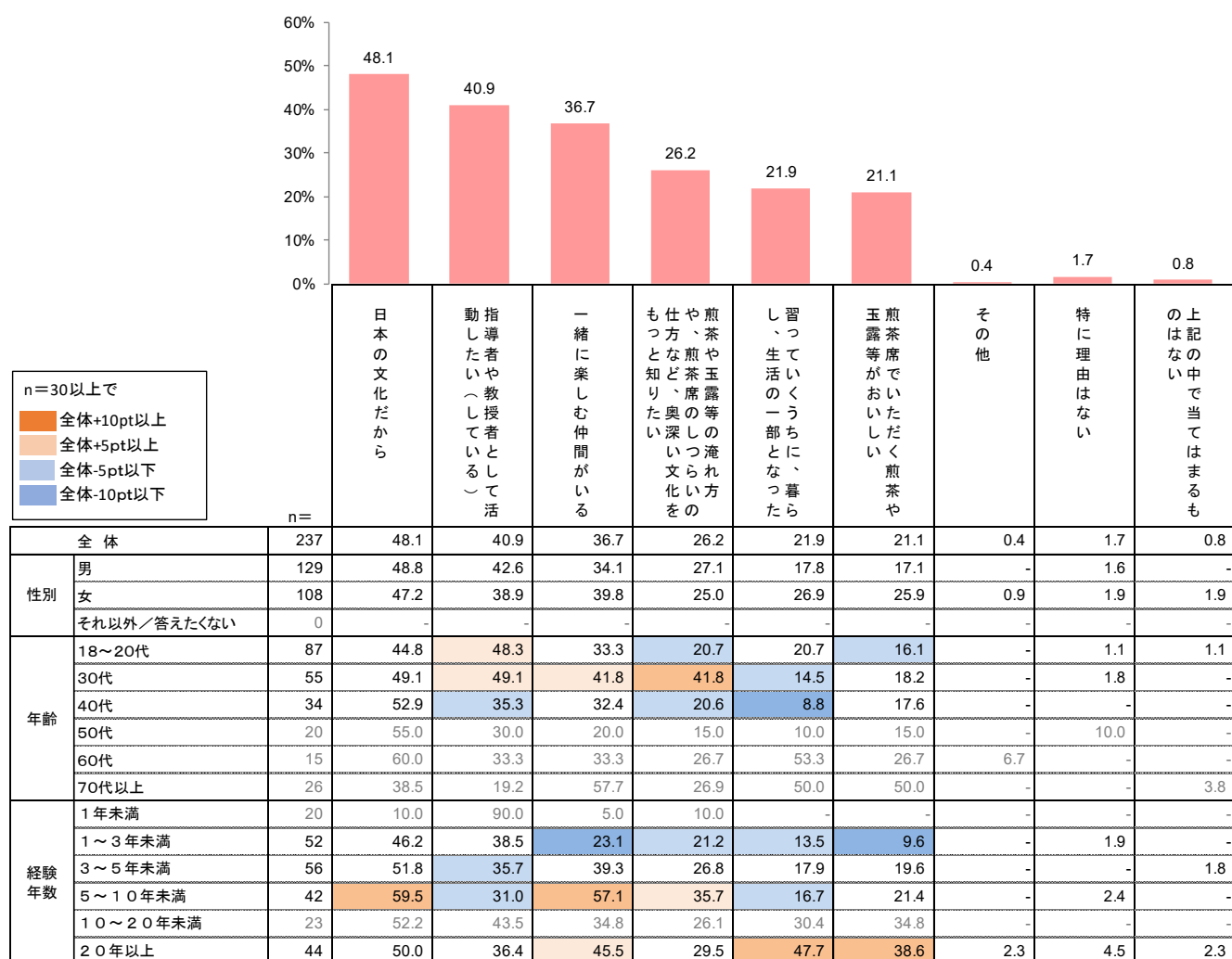
図5 AQ3：現在の継続状況

AQ3補問1 煎茶道を続けている理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の文化だから」の48.1%で、次に「指導者や教授者として活動したい（している）」40.9%、「一緒に楽しむ仲間がいる」36.7%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、年齢別で見た場合、「煎茶や玉露等の淹れ方や、煎茶席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」の回答比率が、「30代」(41.8%)で特に高く、「18~20代」(20.7%)、「40代」(20.6%)が低い。また、「30代」では、「指導者や教授者として活動したい（している）」(49.1%)、「一緒に楽しむ仲間がいる」(41.8%)の回答比率も全体平均より高い。

経験年数別で見た場合、経験年数が20年以上の者で、「習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった」(47.7%)、「煎茶席でいただく煎茶や玉露等がおいしい」(38.6%)、5~10年未満の者では、「日本の文化だから」(59.5%)、「一緒に楽しむ仲間がいる」(57.1%)の回答比率が高い。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図6 AQ3補問1：煎茶道を続けている理由

(その他の内容) 海外で便利

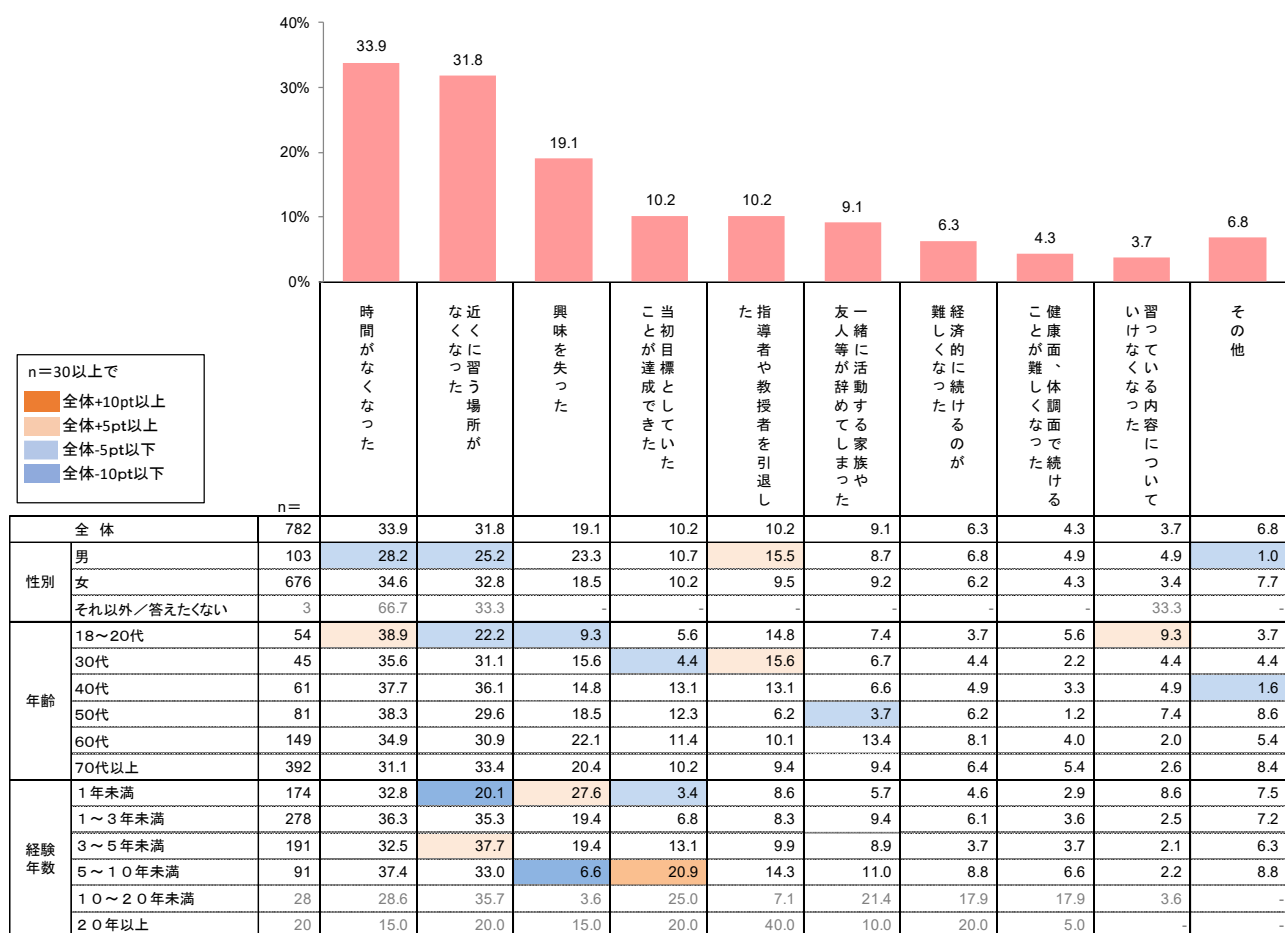
AQ3補問2 煎茶道から離れたきっかけや理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「時間がなくなった」の33.9%で、次いで「近くに習う場所がなくなった」31.8%、「興味を失った」19.1%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「時間がなくなった」(28.2%)、「近くに習う場所がなくなった」(25.2%)の回答比率が低く、「指導者や教授者を引退した」(15.5%)が高い。

次に年齢別で見た場合、18~20代の者では、「時間がなくなった」(38.9%)、「習っている内容についていけなくなった」(9.3%)の回答比率が高い一方、「近くに習う場所がなくなった」(22.2%)、「興味を失った」(9.3%)と回答比率が低いことが分かる。

経験年数別では、経験年数が5~10年未満の者で「当初目標としていたことが達成できた」(20.9%)の回答比率が高く、「興味を失った」(6.6%)が低い回答比率になっている。また、1年未満の者では、「興味を失った」(27.6%)の回答比率が高い一方、「近くに習う場所がなくなった」(20.1%)が低い回答比率となっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図7 AQ3補問2：煎茶道から離れたきっかけや理由

(その他の内容) 引っ越しをした、部活を卒業した、退職したので習えなくなった

AQ4 煎茶道を続けている（続けていた）年数

全体平均で最も回答比率が高いのは「1～3年未満」の32.4%で、次いで「3～5年未満」24.2%、「1年未満」19.0%と続く。全体で3年以上続けている（いた）人の比率は48.6%となっている。

男女別では、3年以上継続している回答者は男性で52.6%（232人中122人）、女性で47.4%（784人中372人）となっており、男性の方が長期に続けている（いた）人の割合が多いことが分かる。

		n=	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	(%)
全体		1,019	19.0	32.4	24.2	13.1	5.0	6.3	48.6
性別	男	232	23.3	24.1	26.7	13.4	5.2	7.3	52.6
	女	784	17.7	34.8	23.6	12.9	5.0	6.0	47.4
	それ以外／答えたくない	3	33.3	33.3	33.3				33.3
年齢	18～20代	141	19.9	34.8	27.0	11.3	3.5	3.5	45.4
	30代	100	14.0	31.0	22.0	19.0	6.0	8.0	55.0
	40代	95	22.1	25.3	18.9	14.7	7.4	11.6	52.6
	50代	101	21.8	31.7	21.8	11.9	5.9	6.9	46.5
	60代	164	20.7	29.3	24.4	12.8	7.3	5.5	50.0
	70代以上	418	17.9	34.9	25.6	12.2	3.6	5.7	47.1

※n=30未満は参考値のため灰色

図8 AQ4：煎茶道を続けている（続けていた）年数

AQ5 煎茶道に関する活動内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「教室や稽古場で習っている（いた）」の56.8%で、次いで「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」23.0%、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」20.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」(44.4%)、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」(29.3%)、「指導者や教授者として教えている（いた）」(12.1%)の回答比率が高い。女性の場合は、「教室や稽古場で習っている（いた）」(62.4%)の回答比率が高い。

次に年齢別では、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」で10～40代の者の回答比率が高く、「教室や稽古場で習っている（いた）」は年齢が高くなるにつれ回答比率が高くなっている。

経験年数別では、1年未満の者で、「教室や稽古場で習っている（いた）」(49.0%)、1～3年未満の者で、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」(17.9%)の回答比率が低い。

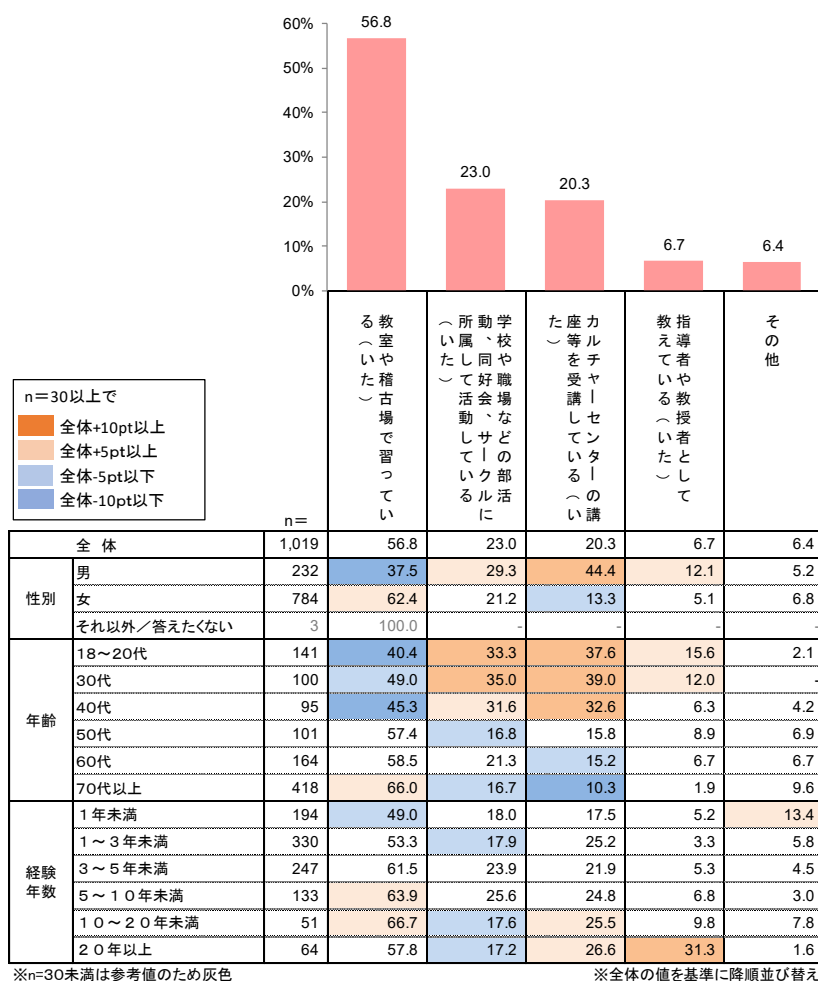


図9 AQ5：煎茶道に関する活動内容

（その他の内容）個人宅で習った、習っていない、独学、自宅で親が教えてい

AQ6 煎茶道に関する活動頻度

全体平均で最も回答比率が高いのは「週1回程度」の44.5%で、次いで「月数回程度」14.9%、「年1回程度」11.4%と続く。週1回以上活動している（いた）比率は61.3%（1,019人中625人）である。

年齢別では、18～20代で「ほぼ毎日」（19.1%）、「週に2～3回」（24.8%）と、回答比率が高い。その一方で、年齢が上がっていくと「週1回程度」の回答比率が上がっていく傾向が見える。

経験年数別で見ると、経験年数が1～10年未満の者で「週1回程度」の回答比率が高い。

また、1年未満で、週1回以上活動している（いた）と回答した比率が38.7%（194人中75人）と低い。

		n=	ほぼ毎日	週に2～3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度	(%)
全体		1,019	6.5	10.4	44.5	14.9	8.9	3.4	11.4	61.3
性別	男	232	14.7	18.1	29.7	15.5	8.6	4.3	9.1	62.5
	女	784	4.1	8.0	48.9	14.7	9.1	3.2	12.1	61.0
	それ以外／答えたくない	3		33.3	33.3		33.3			66.7
年齢	18～20代	141	19.1	24.8	25.5	13.5	7.1	2.8	7.1	69.5
	30代	100	14.0	24.0	29.0	12.0	9.0	4.0	8.0	67.0
	40代	95	9.5	10.5	34.7	17.9	9.5	3.2	14.7	54.7
	50代	101	2.0	7.9	39.6	15.8	9.9	5.0	19.8	49.5
	60代	164	2.4	6.1	59.1	9.1	10.4	3.7	9.1	67.7
	70代以上	418	2.4	4.5	52.2	17.5	8.6	3.1	11.7	59.1
経験年数	1年未満	194	10.3	1.5	26.8	12.9	14.4	5.2	28.9	38.7
	1～3年未満	330	4.2	13.6	50.3	13.0	7.0	2.4	9.4	68.2
	3～5年未満	247	2.8	12.6	52.2	17.0	6.9	1.6	6.9	67.6
	5～10年未満	133	3.0	8.3	56.4	17.3	9.0	2.3	3.8	67.7
	10～20年未満	51	9.8	21.6	33.3	9.8	9.8	11.8	3.9	64.7
	20年以上	64	25.0	7.8	21.9	21.9	9.4	6.3	7.8	54.7

※n=30未満は参考値のため灰色

図10 AQ6：煎茶道に関する活動頻度

AQ7 煎茶道に関する月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは月額「5,000円未満」の53.0%で、次いで「5,000円以上～10,000円未満」22.8%、「10,000円以上～15,000円未満」9.2%と続く。なお、月額1万円以上支出している（いた）と回答した比率は24.2%（1,019人中247人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較した場合、まず男女別では、男性で月額1万円以上支出している（いた）割合は51.3%（232人中119人）、女性は16.3%（784人中128人）と男女差が見られる。年齢別で見ると、年齢が低いほど、月額1万円以上支出している（いた）割合が高いことが分かる。

経験年数別では、年数が多いほど月額1万円以上支出している（いた）と回答している割合が高く、1年未満では10.3%（194人中20人）だが、20年以上では53.1%（64人中34人）となっている。

		n=	5,000円未満	5,000円未満	10,000円未満	10,000円未満	15,000円未満	15,000円未満	20,000円未満	20,000円未満	25,000円未満	25,000円未満	30,000円以上	合計
		n=	53.0	22.8	9.2	4.2	4.0	2.2	0.7	0.6	0.6	0.5	2.3	24.2
性別	全体	1,019	53.0	22.8	9.2	4.2	4.0	2.2	0.7	0.6	0.6	0.5	2.3	24.2
	男	232	28.9	19.8	16.4	9.9	9.5	5.6	1.7	1.7	1.3	1.3	3.9	51.3
	女	784	60.1	23.6	7.1	2.6	2.4	1.1	0.4	0.3	0.4	0.3	1.8	16.3
	それ以外／答えたくない	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢	18～20代	141	29.1	14.9	20.6	11.3	10.6	4.3	1.4	1.4	0.7	2.8	2.8	56.0
	30代	100	25.0	20.0	17.0	10.0	8.0	5.0	3.0	2.0	4.0	-	6.0	55.0
	40代	95	40.0	23.2	9.5	6.3	8.4	4.2	1.1	1.1	1.1	-	5.3	36.8
	50代	101	46.5	30.7	9.9	4.0	2.0	1.0	-	1.0	-	1.0	4.0	22.8
	60代	164	54.9	31.7	8.5	0.6	1.2	0.6	0.6	-	-	-	1.8	13.4
	70代以上	418	71.5	20.6	3.6	1.4	1.4	1.2	-	-	-	-	0.2	7.9
経験年数	1年未満	194	75.8	13.9	3.1	2.1	1.0	0.5	-	-	-	-	3.6	10.3
	1～3年未満	330	65.8	21.5	7.0	1.5	1.8	1.2	0.3	0.6	-	0.3	-	12.7
	3～5年未満	247	44.1	26.3	12.1	6.5	4.9	2.4	1.2	0.8	0.8	0.4	0.4	29.6
	5～10年未満	133	30.1	30.1	14.3	6.8	9.8	2.3	1.5	1.5	1.5	1.5	0.8	39.8
	10～20年未満	51	23.5	27.5	15.7	7.8	7.8	3.9	2.0	-	3.9	2.0	5.9	49.0
	20年以上	64	23.4	23.4	12.5	7.8	6.3	9.4	-	-	-	-	17.2	53.1

※n=30未満は参考値のため灰色

図11 AQ7：煎茶道に関する月額費用

AQ8 煎茶道に関する興味関心

全体平均で最も回答比率が高いのは「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」の50.3%で、次いで「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」45.9%、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」32.5%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別で見ると、男性では、女性に比べ、全ての項目で回答比率が低く、特に「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」では全体平均50.3%に対して、男性37.9%、女性54.1%と大きな差がある。

次に年齢別で見ると、18～20代で「主客の心の交流」(17.0%)の回答比率が高い一方、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」(10.6%)が特に低い回答比率となっている。30代では、「煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」(43.0%)の回答比率は高く、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」(27.0%)の回答比率が低い。なお、年代が上がると「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」の回答比率が高くなる傾向が見える。

経験年数別では、1年未満で「上記の中で当てはまるものはない」(22.7%)の回答比率が高い。一方、「煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」の3項目は、経験年数が増えるほど回答比率が上昇している。

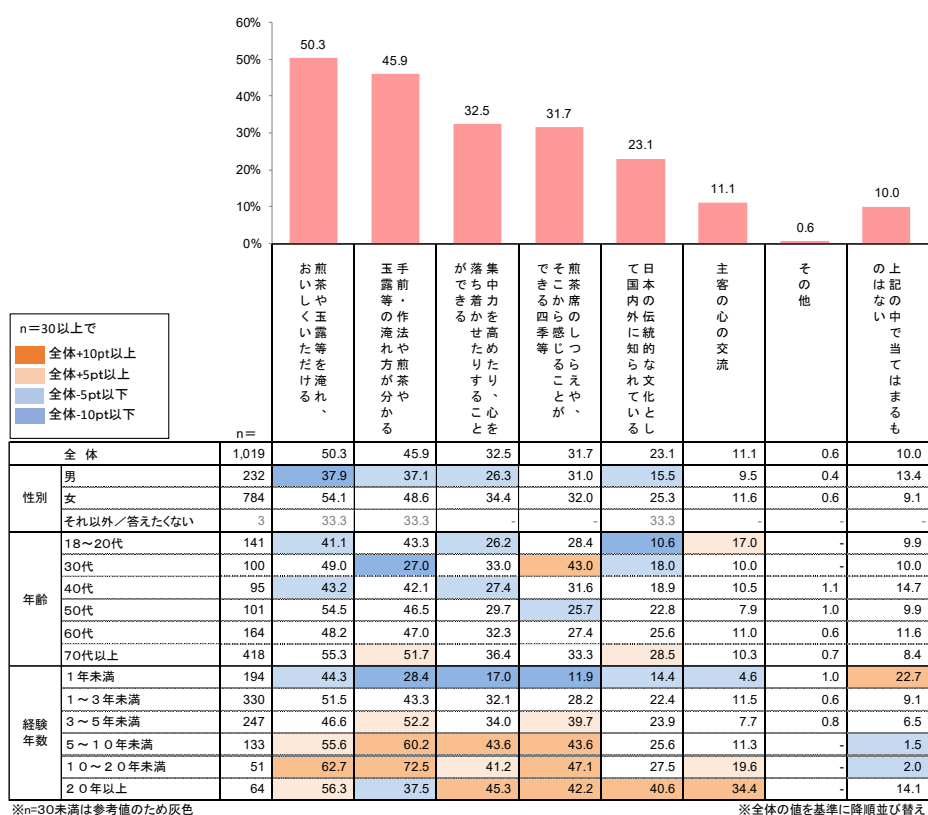


図12 AQ8：煎茶道に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 精神統一、色々な場面での所作に自信が持てる

■煎茶道を「学校の授業や職場の研修、イベント等で体験をしたことはある」と回答した者への設問（AQ9～AQ15：参加体験者の実態把握）

本設問では、煎茶道をイベント等で体験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会で作茶道を体験したのか、また、どの程度煎茶道に興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

AQ9 煎茶道を体験したきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」の58.7%で、次いで「友人、知人などから勧められた・誘われた」15.4%、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（ともに11.9%）と続く。

年齢別の回答比率と全体平均を比較すると、70代以上の者で「友人、知人などから勧められた・誘われた」（21.0%）の回答比率がやや高い一方、18～20代と40代の回答比率は全体平均を下回っている。また、60代以上では、「学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」の回答比率がやや低いことが分かる。

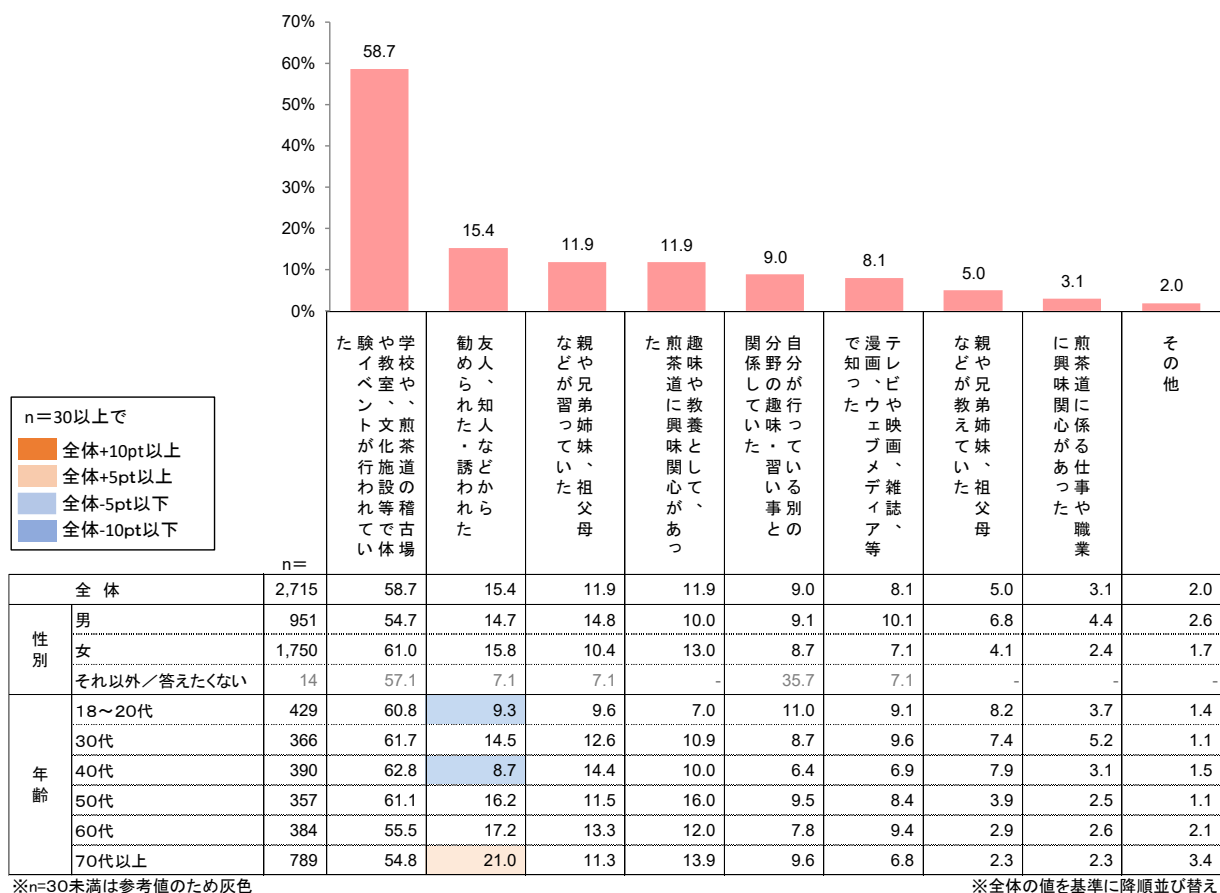


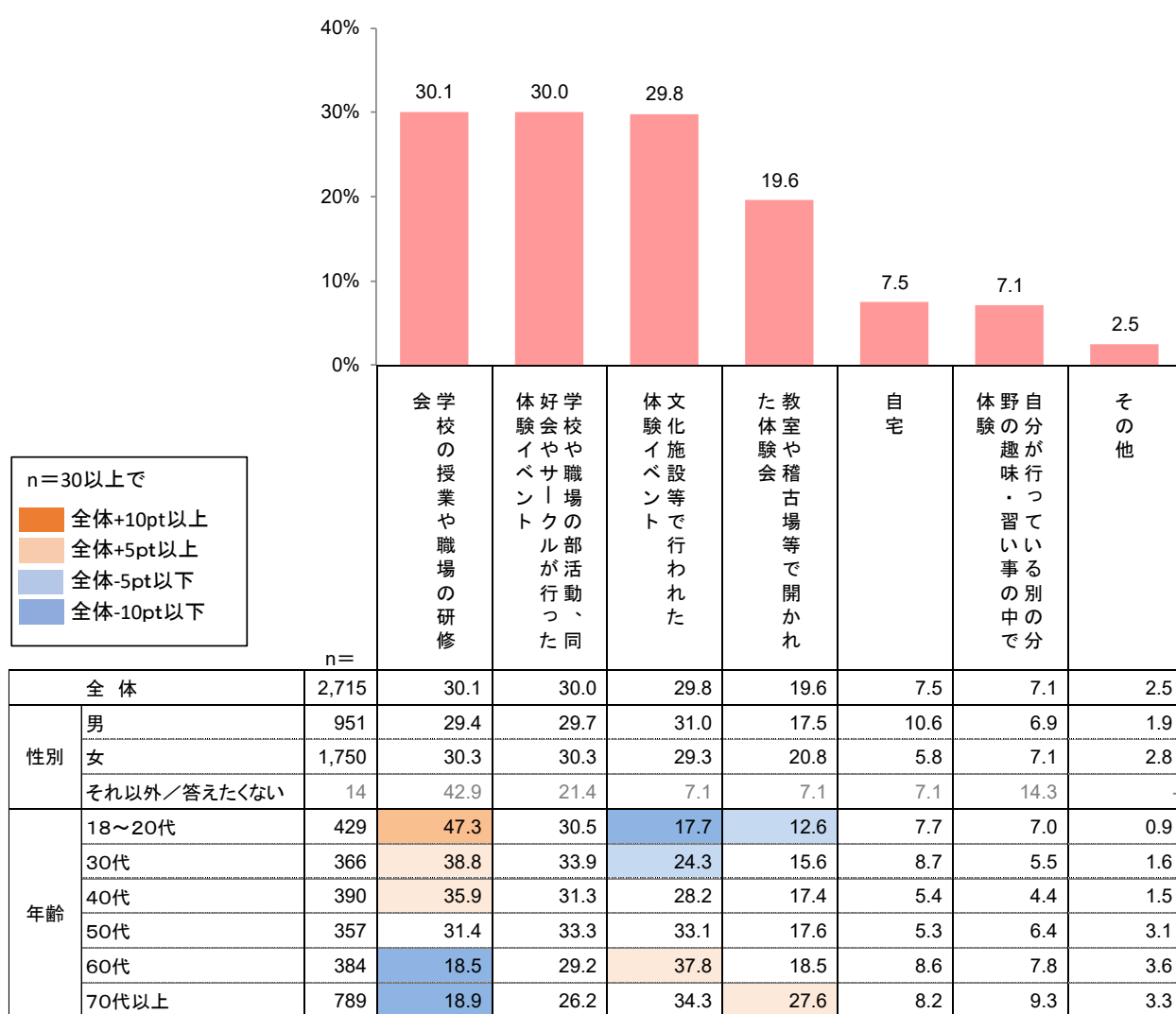
図13 AQ9：煎茶道を体験したきっかけ

（その他の内容）職場で体験、保育園・幼稚園で習った、娘が習っていた

A Q10 煎茶道を体験した場

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校の授業や職場の研修会」の30.1%で、次いで「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」30.0%、「文化施設等で行われた体験イベント」29.8%がほぼ同率で並ぶ。

年齢別の回答比率と全体平均を比較すると、18～20代の者が「学校の授業や職場の研修会」での体験を最も多く回答しており、次に30代、40代と続いている。また、60代以上は、「学校の授業や職場の研修会」の回答比率が全体平均を大きく下回っている一方、「文化施設等で行われた体験イベント」、「教室や稽古場等で開かれた体験会」の回答比率が高くなっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図14 A Q10：煎茶道を体験した場

(その他の内容) 友人宅、親戚の家、茶室、お寺

AQ11 煎茶道を習いやすい状況

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所で習えたら」の42.8%で、次いで「費用が手頃だったら」41.4%、少し離れて「必要な道具等が借りられたら」28.4%と並ぶ。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「通いやすい場所で習えたら」(36.2%)、「費用が手頃だったら」(36.0%)の2項目の回答比率が低い。

次に、年齢別で見ると、70代以上で「わからない」(26.0%)の回答比率が高いほか、30~50代では、「習う時間帯を調整してもらいやすかったら」の回答比率が高くなっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図15 AQ11：煎茶道を習いやすい状況

(その他の内容) 気軽に楽しめる雰囲気がある、正座をしなくてもよい、観光地やイベント

A Q12 煎茶道に支払える月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは「5,000円未満」の69.6%で、次いで「5,000円以上～10,000円未満」20.4%、「10,000円以上～15,000円未満」4.3%となった。月額1万円以上支払ってもいいと回答した比率は10.0%（2,715人中272人）である。

次に男女別を見ると、男性で月額1万円以上支払ってもいいという回答比率が17.7%（951人中168人）あったのに対し、女性は5.8%（1,750人中102人）にとどまり、男女で差が見られる。

また、年齢別では、年齢が低いほど月額1万円以上支払ってもいいという回答が増える傾向がある。

														(%)
		n=	5,000円未満	5,000円以上 10,000円未満	10,000円以上 15,000円未満	15,000円以上 20,000円未満	20,000円以上 25,000円未満	25,000円以上 30,000円未満	30,000円以上 35,000円未満	35,000円以上 40,000円未満	40,000円以上 45,000円未満	45,000円以上 50,000円未満	50,000円以上	合計
全体		2,715	69.6	20.4	4.3	2.2	1.2	0.8	0.5	0.1	0.1	-	0.6	10.0
性別	男	951	59.7	22.6	7.9	4.2	1.9	1.4	0.7	0.3	0.2	-	1.1	17.7
	女	1,750	74.9	19.3	2.5	1.2	0.8	0.5	0.3	0.1	0.1	0.1	0.4	5.8
	それ以外／答えたくない	14	71.4	14.3	-	-	-	7.1	7.1	-	-	-	-	14.3
年齢	18～20代	429	58.5	23.1	7.0	4.2	2.3	1.2	1.4	0.2	0.5	0.2	1.4	18.4
	30代	366	63.9	18.0	7.4	3.0	2.5	2.7	0.8	0.3	-	-	1.4	18.0
	40代	390	65.9	20.3	5.4	3.8	1.5	1.3	0.5	0.5	-	-	0.8	13.8
	50代	357	72.8	19.3	4.2	1.1	1.1	0.6	0.6	-	-	-	0.3	7.8
	60代	384	75.0	20.6	2.9	0.8	0.5	0.3	-	-	-	-	-	4.4
	70代以上	789	75.9	20.5	1.8	1.3	0.1	-	-	-	-	0.1	-	0.3

※n=30未満は参考値のため灰色

図 16 A Q12 : 煎茶道に支払える月額費用

A Q13 煎茶道を習っていない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「興味がなかった」の35.4%で、次いで「通しやすい場所に稽古場や教室がなかった」29.4%、「他の趣味や娯楽の方に興味が向いている」24.6%となった。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、18～40代で「習うための授業料等の費用が確保できなかった」という回答比率がやや高い。その一方で、60代以上では、「他の趣味や娯楽の方に興味が向いている」と回答する傾向が高まっている。

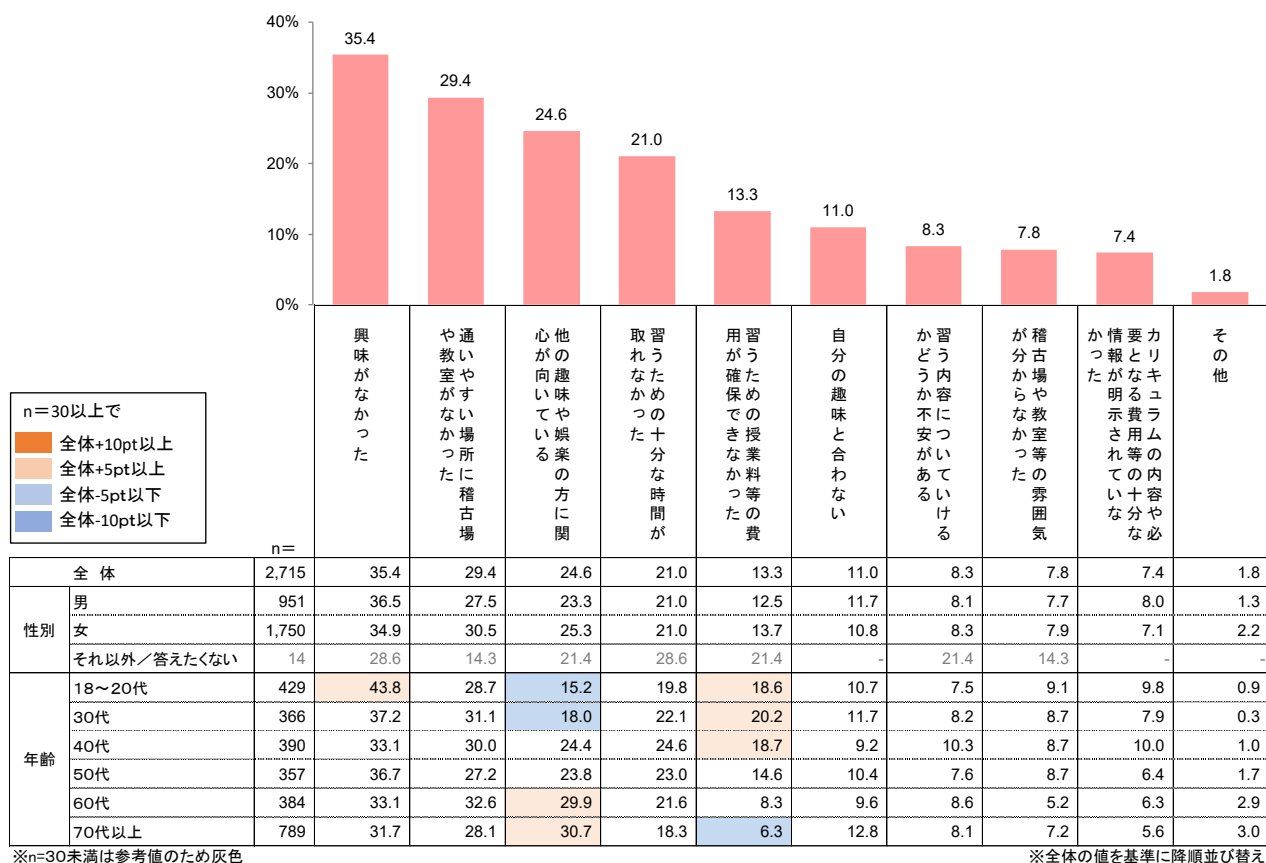


図17 A Q13：煎茶道を習っていない理由

(その他の内容) 正座が辛い、きっかけがなかった、習う必要性を感じなかった

A Q14 煎茶道に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の伝統文化への理解を深められる」の51.3%で、次いで「煎茶やお菓子を楽しめる」43.2%、「作法、しきたりなどが複雑」39.3%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「煎茶やお菓子を楽しめる」(37.4%)、「月謝や道具等にお金がかかる」(24.6%)の2項目で回答比率が低い。

次に年齢別では、18~20代で「煎茶やお菓子を楽しめる」(54.5%)の回答比率が高い一方、「日本の伝統文化への理解を深められる」、「月謝や道具等にお金がかかる」、「暮らし、生活を豊かにしてくれる」の3項目への回答比率が低い傾向にある。また、60代以上の者では、「煎茶やお菓子を楽しめる」の回答比率が全体平均よりも低い結果となっている。

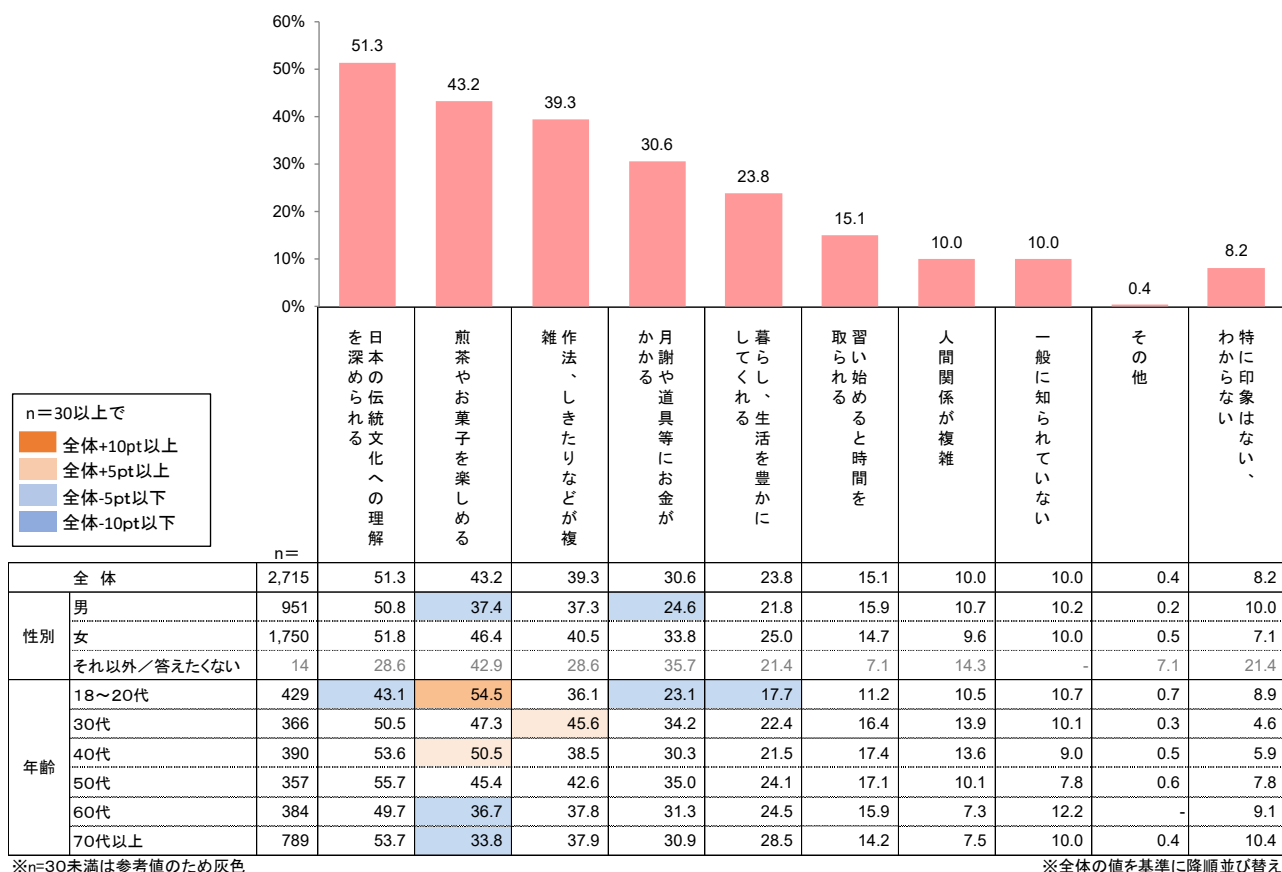


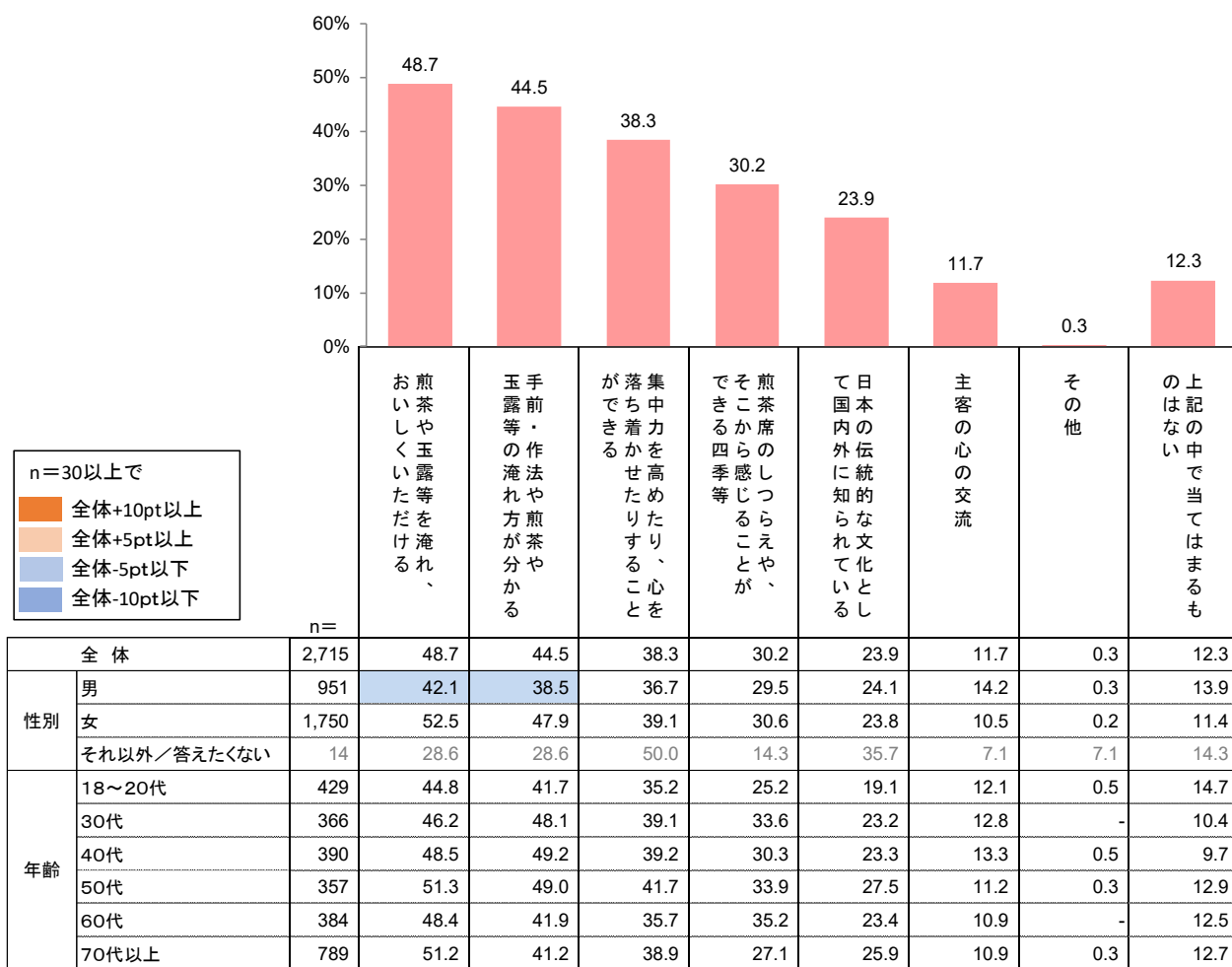
図 18 A Q14：煎茶道に対する印象やイメージ

(その他の内容) 正座をするのがつらい、精神的にゆとりができそう

A Q15 煎茶道に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」の48.7%で、次いで「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」44.5%、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」38.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別の回答比率とを比較すると、男性で「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」(42.1%)、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」(38.5%)の回答比率が低い傾向が見られる。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

図 19 A Q15：煎茶道に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 教養が身につく、ゆったりした時間を楽しめる、着物が着られる

■煎茶道を「今まで経験したことはない」と回答した者への設問（AQ16～AQ20：未経験者の実態把握）

本設問では、煎茶道を経験したことがないと回答した者が、もし煎茶道を体験するならば、どのような内容や機会なら参加したいか、また、煎茶道に対してどの程度、興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

AQ16 参加してみたい煎茶道の体験内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の66.3%で、次いで「普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる」23.8%、「煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる」16.4%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、「普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる」の回答比率が、男性で17.4%、女性で31.0%となっており、回答比率に大きな差が見られる。

次に年齢別で見ると、18～20代の者では「上記の中で当てはまるものはない」の回答比率が全体平均よりも高く、「普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる」の回答比率が低いことが分かる。

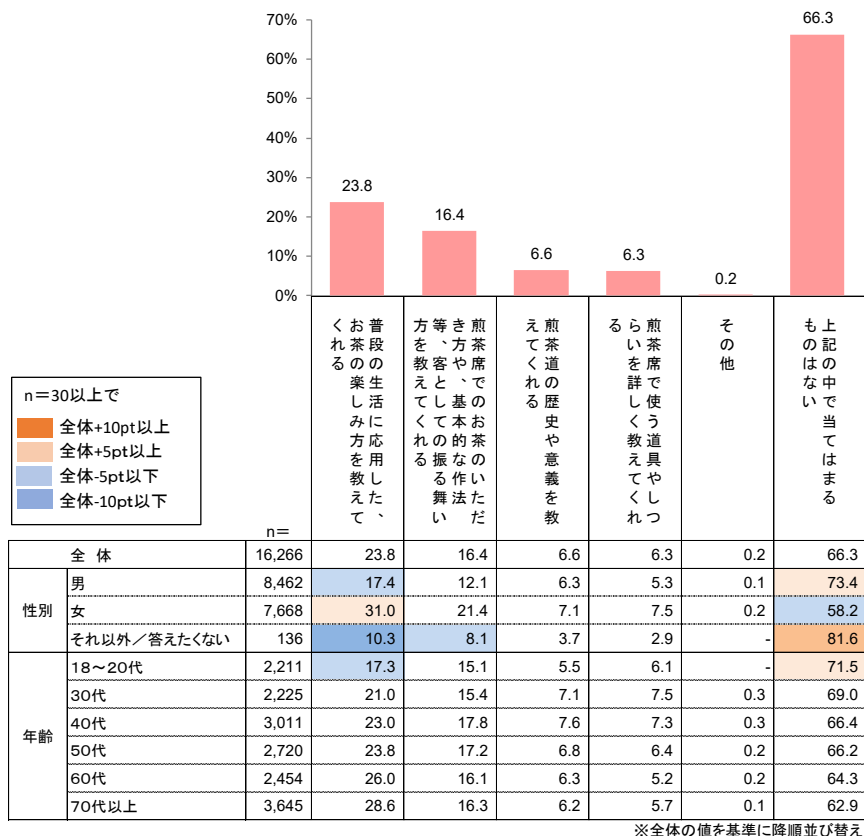


図 20 AQ16：参加してみたい煎茶道の体験内容

(その他の内容) 正座しなくてもよいなら、完全無料、普段非公開の美術品が見られる

A Q17 参加しやすい煎茶道の体験条件

全体平均で最も回答比率が高いのは「わからない」の51.4%で、次いで「行きやすい場所で体験できたら」28.3%、「手ごろな参加費で参加できたら」27.6%となる。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「わからない」(59.1%)という回答比率が高く、一方で「行きやすい場所で体験できたら」(21.6%)、「手ごろな参加費で参加できたら」(20.8%)と回答比率が低い。また、女性の場合、「行きやすい場所で体験できたら」(36.1%)、「手ごろな参加費で参加できたら」(35.5%)と、男性とは対照的に体験機会の条件に関する回答への回答比率が高い傾向が見られる。

次に年齢別では18～20代で「わからない」(58.2%)の回答比率が高く、「行きやすい場所で体験できたら」(21.5%)の回答比率は低いことが分かる。

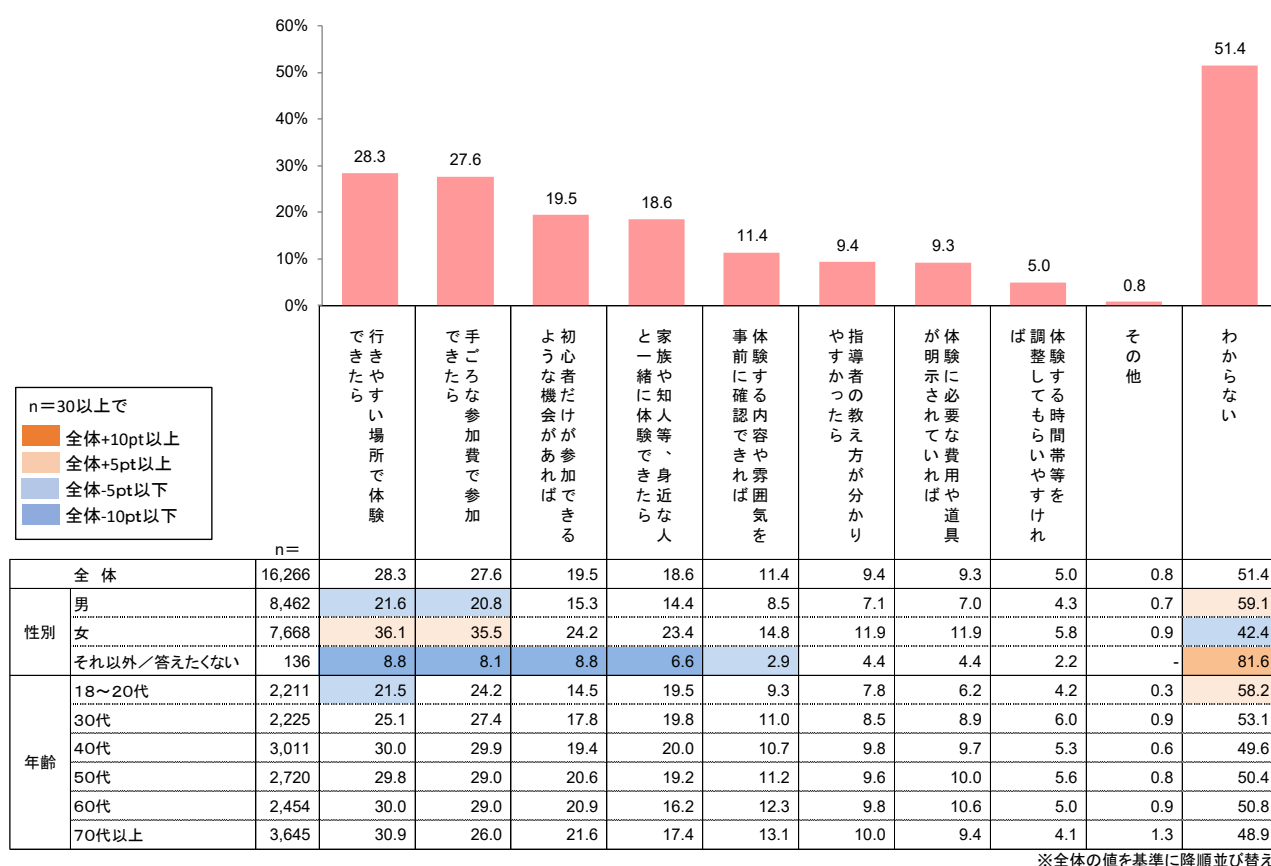


図 21 A Q17：参加しやすい煎茶道の体験条件

(その他の内容) 正座しなくてもよいなら、無料であれば、普段着で気軽に体験できれば

A Q18 煎茶道を体験したことがない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「そもそも知らなかった」の29.0%で、次いで「自分の趣味と合わない」27.1%、「興味がない」23.8%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では男性で「自分の趣味と合わない」(32.1%)の回答比率が高い一方で、女性では同じ項目の回答比率が低い傾向が見られる。

次に年齢別では、18~20代で「自分の趣味と合わない」(36.9%)の回答比率がやや高い。70代以上では「そもそも知らなかった」(22.6%)の回答比率が低いことから、高齢者の煎茶道に対する認知度がうかがえる。また、「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」の回答比率を見ると、18~20代で10.3%、70代以上で22.0%と全体平均と比較しても大きな開きがあることが確認できる。

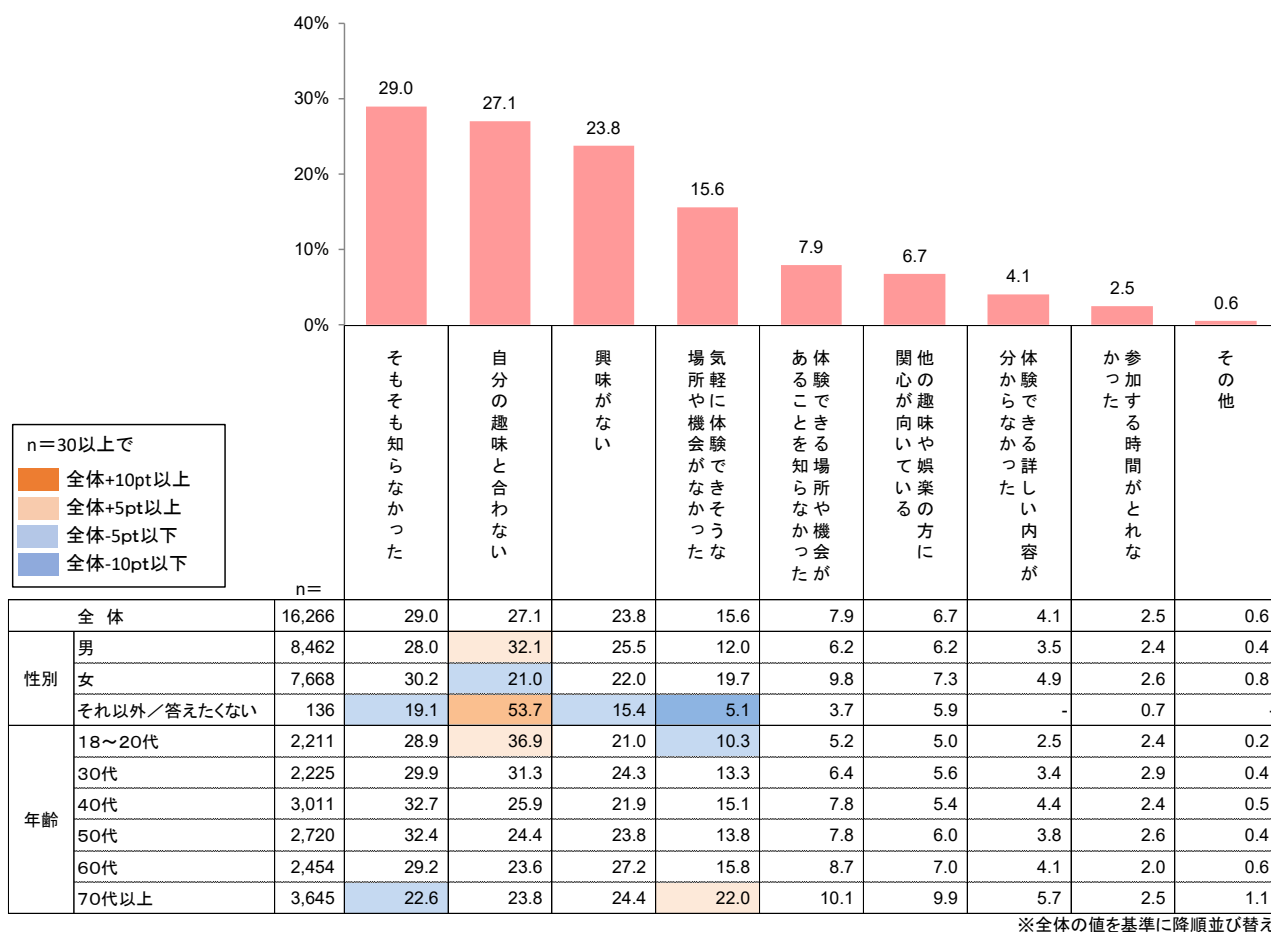


図 22 A Q18：煎茶道を体験したことがない理由

(その他の内容) 茶道を習っていたから、正座ができないから、お茶が飲めない

A Q19 煎茶道に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「特に印象はない、わからない」の43.1%で、次いで「作法、しきたりなどが複雑」24.7%、「日本の伝統文化への理解を深められる」23.0%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「特に印象はない、わからない」(51.3%)と回答比率が高く、「煎茶やお菓子を楽しめる」(14.2%)は低い。一方、女性の場合、「煎茶やお菓子を楽しめる」(26.1%)、「月謝や道具等にお金がかかる」(23.3%)の回答比率が高く、逆に「特に印象はない、わからない」(33.5%)は低い傾向が見られ、性別で傾向が異なっている。

次に年齢別では、18～20代で「煎茶やお菓子を楽しめる」(25.7%)、「特に印象はない、わからない」(49.4%)の回答比率が高く、「月謝や道具等にお金がかかる」(10.5%)の回答比率が低い傾向が見られる。



図 23 A Q19：煎茶道に対する印象やイメージ

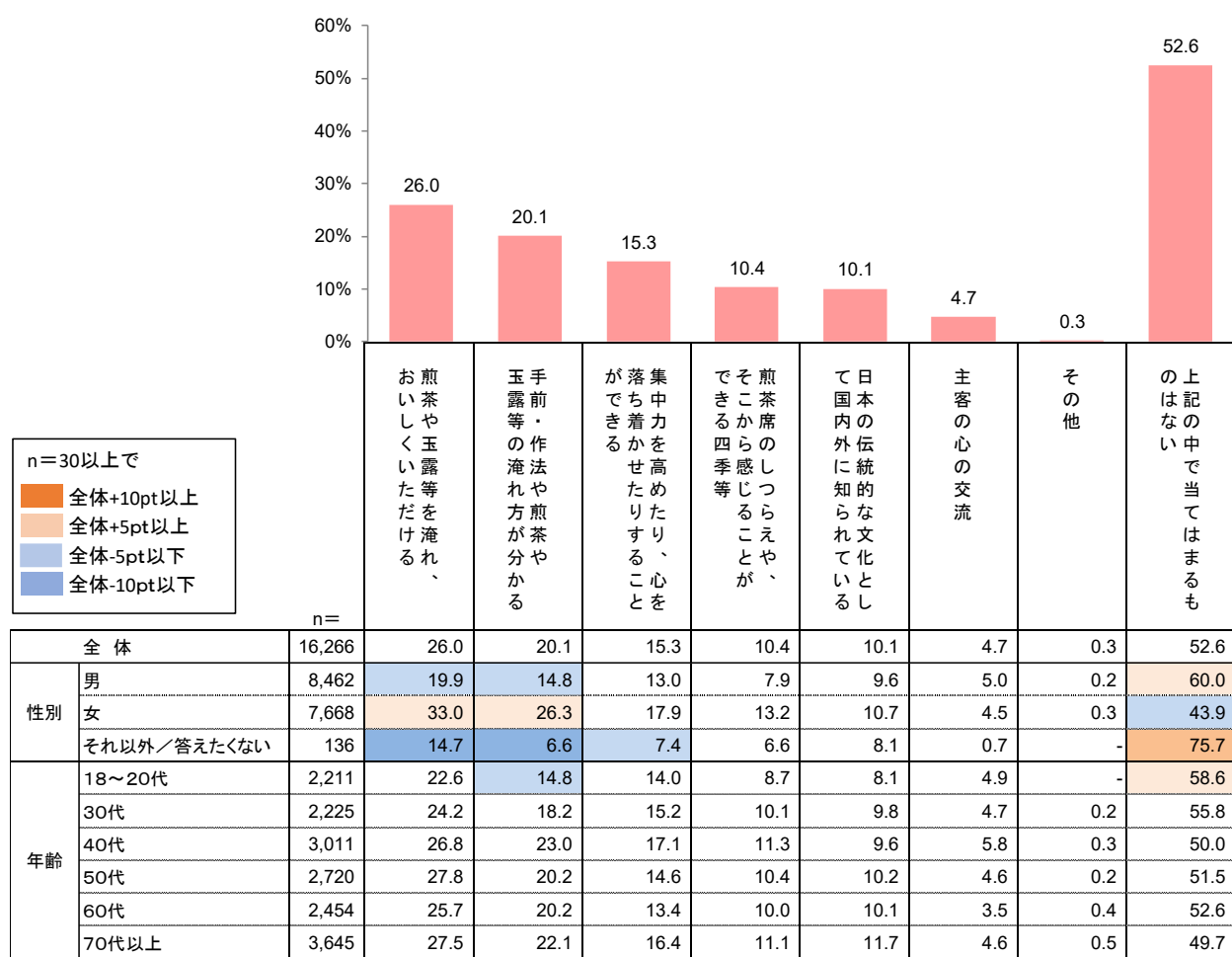
(その他の内容) 堅苦しい、敷居が高い、正座を続けるのが大変、服装に気を遣う

A Q20 煎茶道に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 52.6%で、次いで「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」の 26.0%、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」20.1%、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」15.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別で見ると、男性では、「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」(19.9%)、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」(14.8%)の回答比率が低く、「上記の中で当てはまるものはない」(60.0%)の回答比率が高い傾向が見られる。

次に年齢別で見ると、18~20代では、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」(14.8%)の回答比率が低く、「上記の中に当てはまるものはない」(58.6%)の回答比率が高い傾向が見られ、総じて、煎茶道の魅力が伝わっていない可能性がある。



※全体の値を基準に降順並び替え

図 24 A Q20 : 煎茶道に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 美味しいお菓子が食べられる、鑑賞する書や絵画等の情報、美しい所作が身に付く

(3) 調査結果に基づく分析と考察

本節では、煎茶道の振興施策の検討を主眼として、前掲の集計結果に加えてクロス集計等も行い、これらの結果について分析を行う。

煎茶道に関して「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」、それぞれの回答者にどのような特徴が見られるのかを分析するため、「居住地」、「職業」、「同居家族」、「世帯年収」、「子供の頃の習い事」等の設問とのクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

回答者の特性や傾向について

■居住地、職業、同居家族、世帯年収とのクロス集計結果

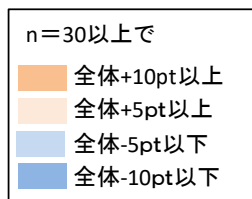
煎茶道の経験・体験の有無と居住地とのクロス集計の結果、北海道、東北、沖縄では、「未経験」の比率がやや高い傾向が見られる。

次に職業とのクロス集計の結果からは、「主婦・主夫」では「未経験」の回答比率がやや低い。その一方で、「学生」では「主婦・主夫」とは対照的に「参加体験あり」が全体平均よりやや高いことが分かる。なお、世帯年収とのクロス集計の結果としては、「1,000万円以上」で「経験あり」の回答比率がやや高いことが分かる。

以上のとおり、居住地、職業、同居家族、世帯年収のクロス集計からは、顕著な傾向や特徴等は見られなかった。

集計表 1 居住地×煎茶道の経験の有無

		n=	FQ フィルタリング・パート (%)		
			「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全体		20,000	5.1	13.6	81.3
居住地	北海道	852	3.6	9.9	86.5
	東北	1,385	4.0	12.4	83.6
	関東	7,422	5.3	13.7	81.0
	北陸	816	5.1	12.6	82.2
	東海(中部)	2,349	5.6	13.9	80.5
	近畿	3,247	5.5	13.7	80.8
	中国	1,140	5.3	14.0	80.7
	四国	584	4.3	16.3	79.5
	九州	1,987	4.8	14.6	80.6
	沖縄	218	1.4	11.5	87.2



集計表2 職業・同居家族・昨年度の世帯年収×煎茶道の経験の有無

(%)

		FQ フィルタリング・パート			
		「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層	
		n=			
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下 </div>			
職業	正規の職員・従業員	6,411	4.5	12.6	82.9
	非正規の職員・従業員	2,803	3.7	14.3	81.9
	自営業主・自由業	1,239	3.3	14.8	81.9
	家族従業者	135	6.7	15.6	77.8
	主婦・主夫	3,987	9.7	17.9	72.4
	学生	512	3.1	19.9	77.0
	リタイア、無職	4,141	3.5	10.2	86.2
	その他	772	3.8	7.6	88.6
	同居家族	ひとり暮らし	4,145	5.8	12.0
核家族		13,277	5.0	14.2	80.8
三世代家族		1,179	5.7	16.2	78.1
上記以外で同居している人がいる		1,399	3.3	10.5	86.2
昨年度の世帯年収	100万円未満	991	4.8	10.2	85.0
	100万円以上～200万円未満	1,325	6.5	12.3	81.2
	200万円以上～300万円未満	2,030	4.9	13.7	81.4
	300万円以上～400万円未満	2,367	5.3	14.2	80.5
	400万円以上～500万円未満	1,937	5.2	13.8	81.0
	500万円以上～600万円未満	1,457	5.2	13.4	81.4
	600万円以上～700万円未満	1,096	4.9	15.4	79.7
	700万円以上～800万円未満	1,024	4.2	13.5	82.3
	800万円以上～900万円未満	702	6.8	17.7	75.5
	900万円以上～1,000万円未満	653	5.2	15.5	79.3
	1,000万円以上	1,525	7.0	17.4	75.5
	分からない	4,893	4.0	11.8	84.2

■子供の頃の習い事とのクロス集計結果

次に、煎茶道の経験・体験の有無についての回答と、「子供の頃の習い事」に関する設問への回答とのクロス集計の結果を示す。

クロス集計を行った結果、「経験あり」と回答した者で、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」、「囲碁や将棋」、「バレエやダンス」、「美術」の順に高い回答比率を示しているほか、「参加体験あり」と回答した者でも近似する傾向が見られ、多くの習い事の項目での回答比率が高い。

集計表 3 子供の頃の習い事×煎茶道の経験の有無

		FQ フィルタリング・パート (%)		
		「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
n=30以上で				
全体+10pt以上				
全体+5pt以上				
全体-5pt以下				
全体-10pt以下				
	n=			
全体	20,000	5.1	13.6	81.3
楽器演奏(ピアノやバイオリンなど)や歌唱(コーラスや声楽など)	4,615	9.5	20.8	69.6
バレエやダンス(バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど)	755	21.2	25.2	53.6
美術(絵画や版画、彫刻、工芸など)	939	16.4	25.6	58.0
伝統芸能や茶道・華道等の芸事	743	28.8	24.5	46.7
囲碁や将棋	221	25.3	29.4	45.2
書道・習字・ペン字、そろばん	8,121	7.1	17.9	74.9
スポーツ・武道	3,661	5.4	18.9	75.7
その他	449	4.5	24.5	71.0
していない	7,852	1.9	6.4	91.7

■スポーツや趣味、娯楽等の活動とのクロス集計結果

次に、スポーツや趣味、娯楽等（以下、趣味・娯楽等）の活動の内容や、これらの活動に費やす時間やお金に関する回答結果とのクロス集計結果と、そこから見る事ができる特徴や傾向を示す。

趣味・娯楽等として行っている活動内容のクロス集計結果からは、これらの活動を「特に何もしていない」と回答した者が、全体平均の回答比率 17.4%に対し、経験ありの回答者で 7.6%、参加体験ありの回答者で 5.7%と全体平均よりも低く、経験あり・参加体験ありの回答者ともに、趣味・娯楽等と積極的な関わりを持っていることがうかがえる。

趣味・娯楽等の活動内容の傾向として、経験ありと回答した者は、「お茶」(10.2%)、「お花」(8.9%)、「書道」(7.9%)、「邦楽、民謡」(3.4%)、「おどり(日舞など)」(2.4%)と全体平均を上回る回答比率となっている。

また、参加体験ありと回答した者は、「特に何もしていない」が 5.7%と全体平均を下回っているのを除き、全ての種目で、全体平均以上か平均並の回答比率となっており、分野に関わらず趣味・娯楽の活動を幅広く行っていることが推察できる。日本の伝統的な文化に関しても全体平均の回答比率を上回っているものの、煎茶道を経験している者と比較した場合はいずれも回答比率が下回っている。このことから、経験した者の日本の伝統的な文化に係る習い事の経験率が高いことが分かる。

次に、1ヶ月に使える趣味・娯楽等にかかる費用や活動する時間帯、活動に費やす時間とのクロス集計結果を示す。

まず、趣味・娯楽等にかかる費用については、経験ありと回答した者については、5,000円未満の回答比率が低く、それ以外の項目の回答比率は全体平均をほぼ上回っていることが分かる。また、平均月2万円以上支出している割合は18.7%(942人中176人)と、「参加体験あり」と回答した者の13.4%(2,561人中344人)、「未経験」と回答した者の10.5%(13,024人中1,367人)に比べ、

集計表7 煎茶道の経験の有無×趣味・娯楽等に費やす時間

		共通設問4 趣味・余暇活動を行う時間 (%)										
		1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上4時間未満	4時間以上5時間未満	5時間以上6時間未満	6時間以上7時間未満	7時間以上8時間未満	8時間以上9時間未満	9時間以上10時間未満	10時間以上
n=30以上で												
	全体+10pt以上											
	全体+5pt以上											
	全体-5pt以下											
	全体-10pt以下											
n=												
全体	16,527	22.9	23.5	13.7	7.0	4.5	4.1	1.7	1.9	0.9	1.3	18.5
「経験あり」層	942	18.3	22.8	16.9	9.3	5.3	4.4	2.7	2.5	1.1	1.6	15.2
「参加体験あり」層	2,561	18.1	23.9	14.4	8.4	4.5	5.1	2.6	2.3	0.8	1.6	18.3
「未経験」層	13,024	24.2	23.4	13.3	6.5	4.5	3.9	1.5	1.8	0.9	1.3	18.8

■消費行動に関する意識や価値観に関するクロス集計結果

消費行動に関する意識や価値観の項目と煎茶道の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者では、「リスクはできるだけ避けたい」と「上記であてはまるものはない」を除いた全ての意見で回答比率が全体平均を上回っており、「自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい」(35.3%)と「集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ」

(11.8%)の回答比率では、「参加体験あり」と回答した者を押さえ、最も高くなっている。これに対し「参加体験あり」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」を除いた全項目で平均を上回るだけでなく、「自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい」「集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ」の2項目を除く項目で回答比率が高い。また、「流行っていないけれども、自分が面白いと思ったものは試してみたい」(36.8%)、「家族や友人・知人の役に立ちたい」(34.7%)、「困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい」(29.9%)、「その時・その場でしか得られない体験をしたい」(23.3%)の4項目では全体平均の回答比率を10%内外上回っている。

一方、「未経験」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」(25.2%)以外の全項目で回答比率が平均を下回っている。

集計表8 煎茶道の経験の有無×消費行動に対する価値観

		共通設問5 消費行動に対する価値観 (%)															
		た自分周りの考えを尊重しよ	ご分りに含ませるより、自	たチャンスを感したら逃し	たリスクはできるだけ避け	立家族や友人・知人の役に	決環の境問題に立ちたい	要困っている人への助けが必	い周りの人から注目された	者集まりやイベントの参加	らその時・その場でしたい	た流行りのものは試してみ	は試してみたいと思っても、自	流行っていないもの、自	発買ったものや、気持ちを	応自分が欲しいものに反	ない上記であてはまるもの
n=30以上で																	
	全体+10pt以上																
	全体+5pt以上																
	全体-5pt以下																
	全体-10pt以下																
n=																	
全体	20,000	25.6	22.6	20.2	41.9	24.9	10.6	19.6	2.4	5.4	13.6	3.9	26.8	3.1	3.1	22.0	
「経験あり」層	1,019	35.3	27.1	26.2	39.5	31.4	17.2	26.7	3.8	11.8	16.7	5.7	27.8	5.3	3.2	8.8	
「参加体験あり」層	2,715	31.6	30.9	27.4	47.6	34.7	18.2	29.9	3.5	9.4	23.3	6.7	36.8	5.5	4.9	7.3	
「未経験」層	16,266	24.0	21.0	18.6	41.1	22.8	8.9	17.4	2.2	4.3	11.8	3.4	25.1	2.6	2.8	25.2	

■ 普段接するメディアとのクロス集計結果

「経験あり」と回答した者では、「テレビ（NHK）」、「CATV や衛星放送」、「ラジオ」、「新聞」、「雑誌・タウン誌」、「紙の書籍」で回答比率が全体平均を5%以上上回る。一方、「テレビ（民放）」、「インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど」、「動画投稿サイト」、「SNS」、「紙のマンガ/マンガ雑誌」、「電子版のマンガ」、「有料動画サイト」では回答比率が全体平均を下回っており、民放のテレビを除く旧来のメディアや紙のメディアへの接触が高い傾向が見られる。

一方、「参加体験あり」と回答した者では、全てのメディアにおいて全体平均より回答比率が高い。

「未経験」と回答した者は、逆に、全てのメディアにおいて回答比率が低く、「上記のメディアはあまり見ていない」（12.5%）のみ全体の回答比率を上回るという結果になった。

集計表 9 煎茶道の経験の有無×接触メディア

	共通設問6 接触メディア (%)															
	Bテレビ (民放の地上波)	波・BS (NHKの地上)	チャンネルや衛星放送の	ラジオ (インターネットを除外)	新聞 (電子版含む)	雑誌・タウン誌 (インターネット経由を除く)	むなど (アプリ経由を含む)	インターネットのウェブサイト	動画投稿サイト (YouTubeなど)	o ar ' S N S (Twitter, Facebook, Line, etc.)	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ/マンガ雑誌	電子版のマンガ	x, Heo, P, N, etc. (有料動画サイト)	上記のメディアはあまり見ていない
全体	20,000	69.5	41.7	10.2	14.3	28.5	7.5	46.1	33.7	28.5	20.4	6.0	6.8	6.4	11.9	10.8
「経験あり」層	1,019	69.2	51.3	16.2	20.9	38.4	14.6	42.6	24.9	23.1	26.2	6.1	5.6	4.0	10.5	4.9
「参加体験あり」層	2,715	72.9	52.0	14.8	18.6	36.6	14.2	52.2	39.5	35.9	29.4	8.6	8.8	8.6	16.1	2.8
「未経験」層	16,266	69.0	39.4	9.0	13.1	26.5	6.0	45.3	33.2	27.6	18.5	5.5	6.6	6.1	11.3	12.5

以上のクロス集計結果と、「①単純集計の結果について」で示した回答者の年齢・性別とのクロス集計の結果も踏まえ、煎茶道の「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者の特徴や傾向は以下のとおりになる。

1) 煎茶道を経験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも経験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。年齢別で見た場合、70代以上が最も多く、次いで60代、18～20代と続く。

次に、経験者は、子供の頃の習い事として伝統的な文化に係る分野を習っていたと回答している者が多く、また、趣味・娯楽等の活動に積極性があり尚かつ伝統的な文化に係る趣味への嗜好性の高さがうかがえる。消費行動への意識については、周りとの協調や一体感を大切に、身近な人や社会の役に立ちたいという価値観を持っている者が全体平均と比べると多い傾向が見え、普段のメディア接触については、テレビやラジオ、新聞等のメディア媒体への接触率が高い傾向にあるといえる。

2) 煎茶道を参加体験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも参加体験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。また、年齢別で見た場合、70代以上が最も多く、次いで18～20代、30代と続く。

次に、子供の頃の習い事の経験があるとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して積極的な傾向にあることがうかがえる。消費行動への意識については、自分の考えに基づいた判断を重視し、リスクは避けつつも、面白いものを試したいという嗜好性が特徴として表れている。また、普段のメディア接触については、電子書籍や有料動画等のメディア媒体との接触率が高い傾向にある。

3) 煎茶道を未経験と回答した者の傾向

男女別、年齢別等では顕著な特徴は見られなかった。

子供の頃の習い事の経験については、経験がないとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して、特に何もしていないという回答比率が全体平均を上回っており、積極的に趣味・娯楽等を行うことがない回答者が多い傾向にある。消費行動への意識については、当てはまるものはないという回答比率が全体平均を上回っており、特徴的な傾向は見られない。また、メディア接触については、民放のテレビやウェブサイトとの接触率が高い傾向にあるといえる。

なお、回答者の居住地や職業、同居家族の構成、世帯年収に関する設問とのクロス集計を行ったが、特徴的な傾向は見られなかった。

未経験者の傾向と特徴

次に、上記の属性分析を踏まえ、「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者ごとに設けた設問の回答結果についてクロス集計を行い、回答者の特徴について更なる分析を行う。

まず、未経験と回答している者の設問の分析を行う。上述の回答者属性に関する分析では、未経験と回答した者については際立った特徴や傾向は見いだせなかった。加えて、今後の振興施策を考える上で、未経験と回答した者が、なぜ煎茶道を経験してこなかったのか、また、煎茶道を経験することに対してどのような意識を持っているのか、どのような体験方法や周知の実施をすれば参加体験等に繋げていく可能性を見いだすことができるのか、その検討のために分析を行う必要がある。

■未経験者の体験機会への参加意向

未経験と回答した者のうち、煎茶道を体験してみたいという意向を持つ回答者、体験意向がない回答者にはどのような特徴があるのか。趣味・娯楽等の活動内容、消費意識、メディア接触の設問とAQ16「参加してみたい煎茶道の体験内容」の回答結果のクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

AQ16では、体験内容として設定した選択肢には当てはまるものはないと66.3%が回答しており、残りの33.7%は、体験内容によっては煎茶道の体験に参加してみたいという意向を持っている

と推察される。

まず、煎茶道の体験に参加してみたい意向を示した回答者について、クロス集計結果からその特徴を確認する。趣味・娯楽等の活動全般に積極性があり、消費行動への明確な意見や嗜好性を持ち、メディア接触も多い傾向が見られる。また、趣味・娯楽の項目への回答比率を見ると、日本の伝統的な文化（「邦楽、民謡」「お茶」「お花」「書道」「おどり（日舞など）」）への参加率は、全体平均に比べてやや高い数値を示しているが、煎茶道の経験があると回答した者と比べると大きな差とはいえない。

次に、煎茶道の参加体験の意向がない者について、その特徴を確認する。A Q16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者の27.2%は、趣味・娯楽等の活動について「特に何もしていない」と回答しており、A Q16でいずれかの体験内容の選択肢を回答した人と顕著な差が見られる。また、消費行動に関する設問でも、メディア接触についても、当てはまらない、特にしていないという選択肢を選ぶ割合が高い。このように、煎茶道の参加体験の意向がない者の特徴として、趣味・娯楽活動やメディアへの接触に必ずしも積極的とはいえず、消費についての意識・意見をあまり明確に持っていない傾向がうかがえる。

集計表 10 参加してみたい煎茶道の体験内容×趣味・娯楽等の活動状況

		共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況 (%)													
		信 画 鑑 賞 （ レ ン タ ル 、 配 信 を 含 む ）	邦 楽 、 民 謡	音 楽 鑑 賞 （ レ コ ー ド 、 テ レ ビ 、 C D 、 F M 、 等 ）	書 道	お 茶	お 花	お ど り （ 日 舞 な ど ）	読 書 （ 仕 事 、 勉 強 な ど を 除 く ）	テ レ ビ ゲ ー ム （ 家 庭 で ）	ソ ー シ ヤ ル ゲ ー ム な ど の オ ン ラ イ ン ゲ ー ム	中 央 競 馬	複 合 シ ョ ウ ト レ ッ グ セ ン ト モ ー	特 に 何 も し て い な い	
n=30以上で	n=														
全体+10pt以上															
全体+5pt以上															
全体-5pt以下															
全体-10pt以下															
全 体	16,266	13.1	1.2	16.7	1.0	0.8	1.0	0.2	14.9	7.6	4.9	4.6	14.3	19.9	
煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる	2,671	21.9	2.7	27.4	1.8	2.4	2.0	0.5	27.8	10.6	7.9	5.6	26.0	5.7	
煎茶道の歴史や意義を教えてくれる	1,076	23.0	3.5	31.1	2.1	3.1	3.1	0.7	33.6	13.4	9.5	6.7	24.7	3.9	
煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる	1,030	24.2	3.7	32.1	1.9	3.4	2.4	0.6	29.4	12.2	10.0	6.0	26.2	4.2	
普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる	3,868	19.6	1.9	25.6	1.8	1.6	2.0	0.4	24.7	9.6	7.7	5.2	26.0	5.1	
その他	30	23.3	-	36.7	3.3	3.3	3.3	-	33.3	26.7	16.7	6.7	23.3	-	
上記の中で当てはまるものはない	10,785	10.0	0.8	12.6	0.6	0.2	0.4	0.1	10.2	6.5	3.7	4.1	9.1	27.2	

集計表 11 参加してみたい煎茶道の体験内容×消費行動に対する価値観

		共通設問5 消費行動に対する価値観 (%)														
		自 分 の 考 え を 主 張 す る よ し	自 分 の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	周 り の 考 え を 主 張 す る よ し	
n=30以上で	n=															
全体+10pt以上																
全体+5pt以上																
全体-5pt以下																
全体-10pt以下																
全 体	16,266	24.0	21.0	18.6	41.1	22.8	8.9	17.4	2.2	4.3	11.8	3.4	25.1	2.6	2.8	25.2
煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる	2,671	34.3	31.8	31.8	58.6	39.2	18.0	32.9	3.6	7.9	26.4	6.2	47.3	4.6	4.7	4.5
煎茶道の歴史や意義を教えてくれる	1,076	35.3	36.8	37.2	53.3	41.3	26.5	39.0	4.6	10.1	29.0	8.2	51.2	6.7	5.2	4.4
煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる	1,030	33.0	38.5	37.0	58.1	40.6	24.0	37.6	4.1	10.2	30.2	6.9	52.3	7.7	6.4	3.2
普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる	3,868	33.7	29.2	26.6	57.9	38.6	16.5	30.7	2.9	7.9	22.6	5.5	43.1	4.2	4.2	5.3
その他	30	20.0	50.0	43.3	73.3	30.0	13.3	43.3	13.3	3.3	26.7	10.0	73.3	10.0	13.3	3.3
上記の中で当てはまるものはない	10,785	19.3	16.7	13.9	33.7	16.1	5.6	11.3	1.6	2.8	6.8	2.3	16.9	1.8	2.0	35.4

集計表 12 参加してみたい煎茶道の体験内容×接触メディア

	n=	共通設問6 接触メディア (%)															
		Bテレビ (地上波・ BS)	テレビ (NHKの 地上波)	CATVや 衛星放送の チャンネル	ラジオ (インターネット を除く)	新聞 (電子版含む)	雑誌・ タウン誌 (インターネット を除く)	サイ ンター ネット (アプリ 経由を 含む)	動画 投稿サ イト (You Tube など)	動 画サ イト (You Tube など)	SNS (Twitter 、LINE 、Facebook 、Instagram など)	紙 の 書 籍	電 子 書 籍	紙 の マ ン ガ / マ ン ガ 雑 誌	電 子 版 の マ ン ガ	x i d o n 、 H o u l i n e 、 N e t f l i v e など	有 料 動 画 サ イト (Amazon Prime など)
全 体	16,266	69.0	39.4	9.0	13.1	26.5	6.0	45.3	33.2	27.6	18.5	5.5	6.6	6.1	11.3	12.5	
煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる	2,671	80.2	53.7	11.8	18.2	36.3	11.5	63.3	46.1	42.3	33.7	9.8	11.8	11.5	17.3	0.7	
煎茶道の歴史や意義を教えてくれる	1,076	77.4	59.4	14.1	22.1	38.6	14.3	64.5	49.2	43.7	40.5	12.8	14.1	12.7	19.1	0.5	
煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる	1,030	76.1	53.6	14.6	20.2	36.0	15.0	64.8	49.3	44.5	38.3	12.8	16.4	14.2	19.0	1.0	
普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる	3,868	80.3	52.9	12.2	18.5	37.3	10.4	60.2	42.6	36.5	30.3	8.6	10.0	9.8	15.9	1.1	
その他	30	66.7	40.0	16.7	13.3	23.3	10.0	76.7	70.0	60.0	46.7	23.3	10.0	26.7	26.7	-	
上記の中で当てはまるものはない	10,785	63.7	33.5	7.7	11.0	22.2	4.0	38.5	28.5	22.4	13.1	4.1	5.0	4.3	9.0	18.3	

■参加したい体験機会別に見た参加条件

次に、煎茶道は未経験と回答した者が体験したい内容、また、体験条件にはどのような特徴があるのかについて、AQ16「参加してみたい煎茶道の体験内容」の各種の参加体験とAQ17「参加しやすい煎茶道の体験条件」の回答結果をクロス集計し、未経験者の考える体験しやすい内容と条件の傾向について分析を行う。

まず、AQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者の75.2%が、AQ17で「わからない」と回答している。一方、実際に希望する体験機会がある者では、「わからない」という回答は極めて少ない。

具体的な体験内容を選択した者の参加条件への回答比率は、全体平均より非常に高い。体験条件の選択肢の回答比率を見ると、「行きやすい場所で体験できたら」、「手ごろな参加費で参加できたら」の2項目は回答比率が60%台後半から70%台と高く、特に重視されている傾向が分かる。

そのほか、「煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる」という体験内容を希望する者は、必要な費用や道具、体験する時間帯等の調整、初心者だけの参加機会、体験する内容や雰囲気の前確認、指導者の教え方の分かりやすさと言った選択肢の回答比率が他の回答比率に比べて高い傾向にあり、体験する際の内容や条件について気にかけている傾向が見られる。

以上のように、煎茶道を未経験であると回答した者は、AQ16で具体的な体験内容を答えた者の多くは、AQ17の体験を行う際の条件についても具体的な条件を選択していることから、体験内容及び条件が明確な方が未経験者への参加体験を促しやすいものと推察できる。

集計表 13 参加してみたい煎茶道の体験内容×参加しやすい煎茶道の体験条件

		AQ17 参加しやすい煎茶道体験の条件 (%)									
		と家族一緒に体験できた人	行きやすい場所で体験できたら	手ごろな参加費で参加できたら	が体験に必要な費用や道具が明示されていれば	し体験する時間帯を調整できる	よ初心者が参加できる機会があれば	事前確認できれや雰囲気	やすかつたなら	その他	わからない
n=30以上で											
全体+10pt以上											
全体+5pt以上											
全体-5pt以下											
全体-10pt以下											
n=											
全体	16,266	18.6	28.3	27.6	9.3	5.0	19.5	11.4	9.4	0.8	51.4
煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる	2,671	47.2	73.7	73.0	28.9	15.1	47.4	29.8	25.5	0.9	1.8
煎茶道の歴史や意義を教えてくれる	1,076	44.2	78.1	77.0	35.4	22.5	48.9	36.9	32.4	1.1	1.9
煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる	1,030	42.9	76.8	77.7	39.1	24.7	53.2	38.9	35.6	1.5	1.7
普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる	3,868	40.0	64.1	63.1	22.3	12.4	45.3	29.5	23.6	0.7	5.2
その他	30	26.7	56.7	43.3	26.7	26.7	30.0	10.0	10.0	56.7	13.3
上記の中で当てはまるものはない	10,785	8.0	10.8	10.5	3.2	1.6	8.1	4.2	3.6	0.8	75.2

■これまで煎茶道を経験してこなかった理由と参加したい体験機会

煎茶道を未経験と回答した者には、これまでに煎茶道を体験してこなかった理由（AQ18）に関する問いを設けている。この設問を設けた理由として、未経験者のうちには、体験機会が身近になかった、特定の事情で体験することができなかつた者や、そもそも全く興味がなかつた等、回答者によって個々の事情や理由があることを想定したためである。

既に、回答者の中には興味関心がなかつたわけではなく、体験できなかつた事情や理由があると回答した者がいることがAQ18の回答結果から判明しているが、体験できなかつた事情や理由があると回答した者はどのような体験機会があれば参加しやすいと考えているのか。AQ18の回答と参加してみたい体験内容を問う設問（AQ16）のクロス集計を行い、その傾向を分析する。

まず、煎茶道をこれまで体験してこなかった理由として「そもそも知らなかつた」が回答比率として最も高く（29.0%）、次点で「自分の趣味と合わない」（27.1%）、「興味がない」（23.8%）と続いている。AQ16とのクロス集計の結果を見ると、AQ16で「上記の中で当てはまるものがない」と回答した者では、AQ18で「自分の趣味と合わない」（37.6%）、「興味がない」（28.1%）の回答比率が全体平均よりも高い。

一方、具体的な体験内容についての選択肢を回答した者は、「そもそも知らなかつた」が全体平均を越える30%台、逆に「興味がない」が10%台、「自分の趣味と合わない」が一桁台と、全体平均を下回っていることから、煎茶道自体を知らなかつた者の中に、機会があれば参加体験を希望する者が一定数いると推察できる。また、AQ18で「気軽に体験できそうな場所や機会がなかつた」、「体験できる場所や機会があることを知らなかつた」の回答比率が全体平均を大きく上回っており、体験機会そのものが身近になかつた場合や、体験機会があつても体験機会を希望する者に情報として届いていなかつたと回答結果から推察することができる。

集計表 14 参加してみたい煎茶道の体験内容×煎茶道を体験したことがない理由

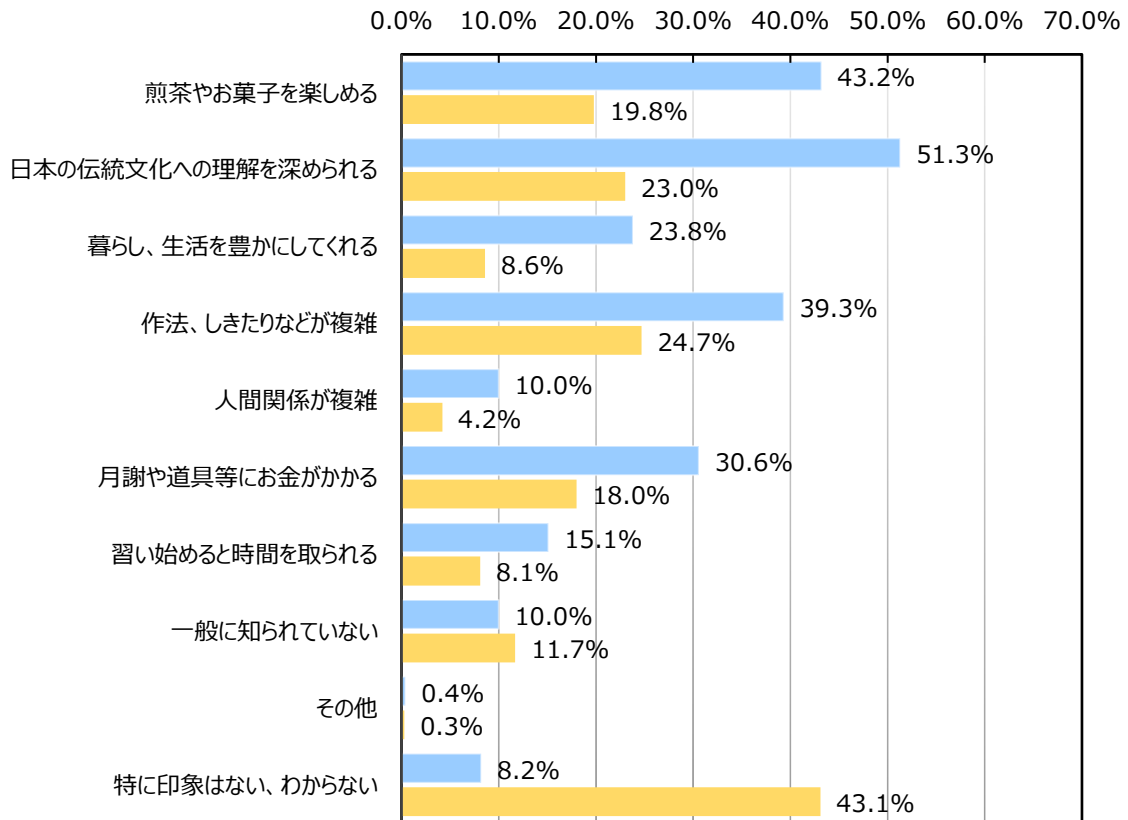
		AQ18 煎茶道を体験したことがない理由 (%)									
		そもそも知らなかった	興味がない	所や機会がなかった	気軽な体験できなかった	参加する時間がとれない	体験できる場所や機会が	体験できなかった	他の趣味や娯楽の方に	自分の趣味と合わない	その他
n=30以上で											
全体+10pt以上											
全体+5pt以上											
全体-5pt以下											
全体-10pt以下											
n=											
全体	16,266	29.0	23.8	15.6	2.5	7.9	4.1	6.7	27.1	0.6	
煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる	2,671	35.0	12.1	41.3	5.3	21.7	10.4	11.4	4.3	0.8	
煎茶道の歴史や意義を教えてくれる	1,076	35.6	10.8	41.5	8.1	25.7	15.4	12.5	3.5	0.5	
煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる	1,030	32.0	11.3	43.4	8.7	27.7	15.6	13.1	5.3	0.4	
普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる	3,868	36.3	15.0	32.1	4.6	18.2	9.5	13.0	6.4	0.8	
その他	30	33.3	23.3	20.0	3.3	20.0	6.7	10.0	13.3	20.0	
上記の中で当てはまるものはない	10,785	25.8	28.1	6.6	1.4	3.0	1.8	4.1	37.6	0.4	

■「未経験」層と「参加体験あり」層の煎茶道へのイメージの違い

煎茶道を未経験と回答した者が持つ煎茶道のイメージについてAQ19の結果では、「特に印象はない、わからない」(43.1%)、「作法、しきたりなどが複雑」(24.7%)、「日本の伝統文化への理解を深められる」(23.0%)と、そもそもイメージや印象を持っていない者が最も多く、また、複雑なもの、伝統的な文化であると印象を持たれている。これは、回答者が煎茶道の未経験者であることから、具体的な内容や体験を経た上での印象を持っていないためと考えられる。

下のグラフは、煎茶道の参加体験をしたことがある者のイメージ(AQ14)と未経験者のイメージ(AQ19)の回答結果を比較したものである。未経験者で最も回答比率が高かった「特に印象はない、わからない」の回答比率は参加体験を行うことで大幅に減っている一方、「日本の伝統文化への理解を深められる」、「作法、しきたりなどが複雑」の回答比率が未経験と比べて、参加体験したの方が回答比率は高くなっており、他の選択肢についてもほぼ同様のことが指摘できる。

煎茶道の参加体験をすることで、煎茶道が持つ魅力はもちろんのこと、作法等の複雑さや時間や費用がかかることも明確なイメージを描けるようになってきていることが分かる。



■ 学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある (N=2,715)

■ 今まで経験したことはない (N=16,266)

図 25 未経験者と参加体験者の煎茶道に対する印象やイメージの違い

■ 「未経験」層と「参加体験あり」層、「経験あり」層の煎茶道の魅力についての評価の違い

未経験者が煎茶道に対する印象やイメージを具体的に描けないように、煎茶道の魅力に対する設問 (AQ 8、AQ15、AQ20) にも同様の傾向が見られる。

下のグラフを見ても分かるように、煎茶道未経験者の回答者の半数が、「上記の中で当てはまるものはない」(52.6%) と回答し、経験者と参加体験者の場合の回答比率と比較しても大きな差があることから、イメージや印象と同じく実際に体験することの重要性がうかがえる。

また、経験者、参加体験者、未経験者ともに、「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」の順で回答比率が高いことが分かる。

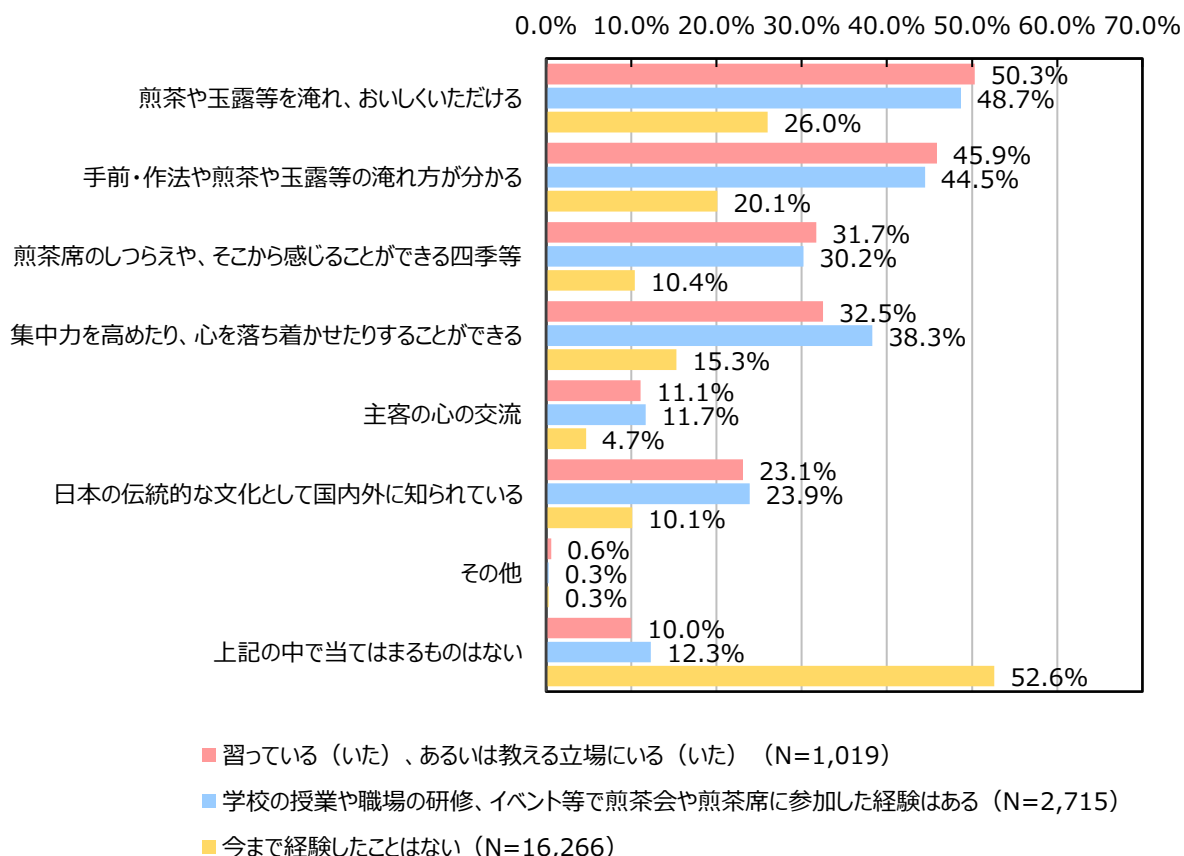


図 26 各回答者における煎茶道に対する興味関心や魅力の違い

上記のクロス集計の結果から、煎茶道を未体験と回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 煎茶道に興味関心がある者の属性に関する傾向と特徴

煎茶道を未体験であると回答した者のうち、参加体験の意向を示さない者が 66.3%いる一方、33.7%が体験内容に関する選択肢をいずれか選択しており、未経験者の中でも機会があれば参加したという意向を持つ者がいる。

これら参加意向を示す者は、趣味・娯楽等の活動全般に対して積極性を持ち、消費行動への明確な意見があり、メディア接触も多い傾向にある。ただし、煎茶道の経験者と比べた場合、茶道や華道、邦楽などの日本の伝統的な文化への参加率はあまり高くないことから、趣味・娯楽の活動として伝統的な文化への接触はやや低い傾向にある。

2) 未経験者が考える参加しやすい体験の条件と内容についての傾向と特徴

AQ16、AQ17 のクロス集計の結果から、未経験者のうち、参加体験をしたいとの意向を示した者の 60~70%が、行きやすい場所と手頃な参加費用の 2 点を参加体験の条件としてとりわけ重視している傾向が見えてくる。また、AQ16 と AQ18 とのクロス集計の結果からは、体験

できなかつた事情・理由として「気軽に体験できそうな場所や機会がなかつた」「そもそも知らなかつた」と回答し、参加体験の意向を持つ者の多くが、煎茶道を知る機会や、体験する機会を得ることができなかつたことが分かる。

3) 煎茶道の印象や魅力に関する傾向と特徴

未経験者の場合、煎茶道に対する印象や魅力について、未経験であるが故に、具体的なイメージや魅力は分からないという当然の結果が導かれた。その点を踏まえて、経験者や参加体験者との印象や魅力への回答の差を見ると、参加体験や経験を重ねることで、具体的な印象やイメージ、魅力を描くことができるようになること、また、経験を重ねた者ほど、手前や煎茶の美味しさなどの具体的な行為等と魅力が結びつけられるようになっている。

参加体験ありと回答した者の傾向と特徴

次に、参加体験ありと回答した者の回答傾向を分析する。参加体験をした者は、何らかのきっかけがあつて煎茶道を体験する機会を得ており、しかし、習うまでには至つてはいない者と捉えることができる。ではどのような状況で体験機会を得たのか、また、習うまでには至らない事情や理由等があるのかをクロス集計を用いてその傾向と特徴を分析する。

■参加体験者の体験のきっかけと機会

体験のきっかけ（AQ9）を問う設問の結果から、学校や稽古場、文化施設等で行われた体験イベントがきっかけであるという回答比率が58.7%と最も多く、次いで、友人や知人などから勧められたとの回答比率が15.4%と、参加体験者の半数以上は体験イベントをきっかけに煎茶道の参加体験をしている傾向が見られる。また、煎茶道を体験した場（AQ10）については、学校の授業や職場での研修、部活動やサークル活動のイベントの回答比率が高く、学校や職場における体験イベントが中心となっている。

体験したきっかけと体験機会の関係性の特徴や傾向を明らかにするため、AQ9とAQ10のクロス集計の結果が下の表である。前述のとおり、体験したきっかけについて、学校や稽古場、文化施設等での体験イベント（58.7%）と回答した者のうち、「学校の授業や職場の研修会」（74.2%）、「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行つた体験イベント」（73.0%）で体験を行つたとの回答比率が高い。

他方、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習つていた」（11.9%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（5.0%）を選択した者では、「自宅」で、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があつた」（11.9%）と回答した者は、「文化施設等で行われた体験イベント」（19.4%）、「教室や稽古場で開かれた体験会」（19.0%）で体験を行つていたことが確認できる。

このような結果から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけに、その場で行われた体験イベントで体験をした回答者が比率として高い傾向にあり、イベント等での体験機会に

よる参加体験の提供が、煎茶道を見知る場として大きい位置を占めているものと推察される。

集計表 15 煎茶道を体験した場×煎茶道を体験したきっかけ

		AQ9煎茶道を体験したきっかけ (%)									
		ど親 が習 つて 姉妹 た、 祖父 母な	ど親 が教 えて 姉妹 た、 祖父 母な	ら友 人た 、知 誘わ れな どた から 勧め	た験 や学 校や ベ室 ン、 煎茶 道が 化施 道わ れ設 れ等 てで い体 場	知画 つ、 レビ エや 映画 メデ ィア 誌、 漫	道趣 に味 興や 味教 関養 心と があ つ、 煎茶	に煎 茶道 に関 心が ある 仕事 たや 職業	し野 のの 趣味 がた ・習 てい 事と 別の 係分	自 分が 行っ つて いる 事別 の係 分	そ の他
全体	n=2,715	11.9	5.0	15.4	58.7	8.1	11.9	3.1	9.0	2.0	
教室や稽古場等で開かれた体験会	531	23.4	6.0	24.9	55.4	6.6	19.0	3.6	7.5	0.9	
学校の授業や職場の研修会	817	10.6	5.8	10.8	74.2	7.2	9.2	2.8	4.8	1.6	
学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント	815	8.5	5.2	16.3	73.0	10.3	12.3	3.8	5.4	1.6	
文化施設等で行われた体験イベント	809	12.7	4.8	22.1	60.8	11.6	19.4	3.2	7.7	1.1	
自宅	203	39.9	18.7	16.7	28.6	12.8	16.7	10.3	11.8	3.4	
自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験	193	9.3	6.7	16.6	21.8	7.8	15.0	8.8	56.5	-	
その他	67	16.4	3.0	20.9	31.3	4.5	6.0	-	6.0	35.8	

■煎茶道を習いやすい状況

煎茶道を習いやすい状況（AQ11）に関する設問の結果では、通いやすい場所（42.8%）、費用の手頃さ（41.4%）の2つが主な条件となっている。一方、煎茶道に支払える月額費用（AQ12）を見ると、「5,000円未満」（69.6%）、「5,000円以上～10,000円未満」（20.4%）と続き、回答者の90.0%が1万円未満の費用であれば習いやすいと回答している。

AQ11とAQ12のクロス集計の結果を見ると、「5,000円未満」を選択した者の中で、習いやすい条件として「その他」「わからない」以外を選択している者は、全体平均に近い回答比率が出ており、5,000円未満の費用であれば払いやすいと考えていることが分かる。また、5,000円未満の費用を選択した者の中でも、「習う時間帯を調整してもらいやすかったら」「指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら」「指導で教本やテキストを使っていたら」を選択した者は、全体平均の69.6%より回答比率が下回っている上、5,000円以上の選択肢の全体平均をやや上回っており、習うに際して具体的な疑問点を持っている者ほど、高い費用の選択肢を回答している傾向が見える。

煎茶道を習っていない理由（AQ13）に関する設問の結果では、「興味がなかった」（35.4%）が最も多く、次いで「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（29.4%）、「他の趣味や娯楽の方に関心が向いている」（24.6%）と続く。AQ11の習う条件とのクロス集計を行い、参加体験者が習いやすい条件について分析を行う。

参加しやすい状況について「わからない」（19.6%）と回答した者のうち、習わなかった理由について「自分の趣味と合わない」（38.3%）、「興味がなかった」（33.0%）の回答比率が高く、体験をしても興味関心が湧かなかつたことが分かる。

一方、参加しやすい状況として、「通いやすい場所で習えたら」（42.8%）と回答した者が習って

上記のクロス集計の結果から、煎茶道の参加体験ありと回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 参加体験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

AQ9とAQ10のクロス集計結果の分析から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけに、その場で行われた体験イベントで体験をした回答者が比率として高い傾向にあり、他方、親族が煎茶道を習ったり教えていたりした場合は自宅が体験機会の場に、興味関心があった者は、文化施設等の体験イベントに参加して体験する等、きっかけの違いが、体験の機会に関係していることが分かる。

2) 参加体験者が考える習いやすい状況や内容についての傾向と特徴

参加体験者が煎茶道を習いやすい状況や内容について、月に支払える費用と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、月額費用として5,000円以上を支払うと回答した者ほど、習いやすい具体的な状況について回答している傾向にあり、煎茶道を習っても良いと考える者と捉えることができる。

習っていない理由と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、参加体験をしても煎茶道に興味を持てなかった者が一定数いる一方で、興味関心があっても通える場所がない等の事情があることが分かる。加えて、習うための時間の確保や、習う場所の雰囲気分からない等も回答として多く、参加体験者にとって、習う内容や機会に関する詳しい情報があつた方が、習い始めやすいと考えていることが、回答結果の分析からうかがえる。

経験ありと回答した者の傾向と特徴

経験ありと回答した者の回答傾向について分析を行う。経験者がどのような経緯や場所で煎茶道を習い始め、どの程度の者が継続してきたのかを分析することで、参加体験者と未経験者との違いを明らかにする。

■始めたきっかけと継続性及び継続理由

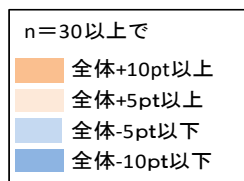
煎茶道を習い始めたきっかけ(AQ1)の結果では、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があつた」(28.7%)が最も高く、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」(24.2%)、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」(22.3%)、「学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」(15.8%)と続いている。また、興味関心があると回答した者は、親族が習っていた、友人・知人から誘われた、イベント等で体験したとの選択肢もあわせて選択している場合もある。以上の点から、経験ありと回答した者の身近には、煎茶道に関わる者がいたり、煎茶道に関する情報やイベントがあつたりしたことで、煎茶道

を習い始めるきっかけが生み出される背景があったことが推察される。

次に、習い始めたきっかけ（AQ1）と現在の継続状況（AQ3）についてクロス集計を行い、始めたきっかけと継続率の関係を分析する。継続率の全体平均（23.3%）に対し、「煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった」（59.6%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（52.4%）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（44.0%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（42.3%）との回答者の継続率は平均を上回っており、反対に、非継続率の全体平均（76.7%）を比べると、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（81.9%）が全体平均を上回っているほか、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（79.8%）、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（78.9%）も全体平均をやや上回っている。親族などが煎茶道に関わっていることをきっかけとして習い始めた回答者の方が、継続率が高い傾向にあり、反対に、自分の趣味との関わりや教養として関心を持った者、あるいは友人・知人から誘われた者については、何らかの理由で継続できていない傾向にあることが分かる。

集計表 18 煎茶道を習い始めたきっかけ×現在の継続状況

	n=	AQ3 現在の継続状況 (%)	
		続けている	続けない
		全体	23.3
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	227	42.3	57.7
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	147	52.4	47.6
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	247	21.1	78.9
学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	161	29.8	70.2
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	91	44.0	56.0
趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった	292	20.2	79.8
煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった	47	59.6	40.4
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	138	18.1	81.9
その他	42	4.8	95.2



継続理由に関する設問（AQ3補問1）では、「日本の文化だから」（48.1%）の回答比率が最も高く、次いで「指導者や教授者として活動したい（している）」（40.9%）、「一緒に楽しむ仲間がいる」（36.7%）と続いている。始めたきっかけ（AQ1）とのクロス集計を行い、継続する理由ときっかけの関係性について分析を行うと、まず継続理由として最も回答比率が高かった「日本の文化だから」（全体平均 48.1%）と回答した者の中でも「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（68.8%）、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（62.7%）の選択肢を、煎茶道を習

い始めたきっかけであると回答している者の比率が高い。また、「指導者や教授者として活動したい（している）」（全体平均 40.9%）と回答した者の場合は、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（64.6%）と回答している比率が高い一方、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（28.8%）の回答比率が全体平均を大きく下回っている。

集計表 19 煎茶道を習い始めたきっかけ×煎茶道を続けている理由

		AQ3補問1 煎茶道を続けている理由 (%)									
		動指 した 者 や 教 授 者 と し て 活	日 本 の 文 化 だ か ら	一 緒 に 楽 し む 仲 間 が い る	も 仕 や 煎 茶 や 煎 茶 席 の 奥 深 い 文 化 を	玉 煎 茶 等 が お い し い 淹 れ 方 を	し 習 っ て 生 活 の 一 部 と な っ た 暮 ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い	の 上 記 の 中 で 当 て は ま る も	
n=30以上で											
全体+10pt以上											
全体+5pt以上											
全体-5pt以下											
全体-10pt以下											
n=											
全体	237	40.9	48.1	36.7	26.2	21.1	21.9	0.4	1.7	0.8	
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	96	64.6	49.0	43.8	26.0	24.0	21.9	-	-	-	
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	77	39.0	68.8	44.2	42.9	27.3	28.6	1.3	-	-	
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	52	50.0	57.7	55.8	36.5	28.8	26.9	-	5.8	-	
学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	48	41.7	60.4	62.5	56.3	43.8	37.5	-	-	-	
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	40	47.5	50.0	65.0	50.0	32.5	30.0	-	-	2.5	
趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった	59	28.8	62.7	52.5	45.8	42.4	42.4	1.7	-	-	
煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった	28	60.7	46.4	60.7	57.1	60.7	42.9	-	-	-	
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	25	56.0	60.0	36.0	52.0	48.0	48.0	4.0	-	4.0	
その他	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0	-	

※n=30未満は参考値のため灰色

煎茶道から離れたきっかけや理由（AQ3補問2）を見ると、「時間がなくなった」（33.9%）と「近くに習う場所がなくなった」（31.8%）が大きな理由となっている。始めたきっかけ（AQ1）と離れたきっかけをクロス集計しその関係を分析すると、回答比率が最も高い「時間がなくなった」（33.9%）と回答した者のうち、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（44.3%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（40.0%）と続いている。次点の「近くに習う場所がなくなった」（31.8%）の回答者の場合、「学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」（41.6%）、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（37.8%）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（37.3%）と続いており、興味関心を持って習い始めたとしても、一度習える場所が失われてしまうと継続できなくなってしまう傾向が見えてくる。また、「当初目標としていたことが達成できた」（全体平均 10.2%）と回答した者のうち、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（15.9%）をきっかけとした回答者の比率が高く、目的を持って習い始めそして辞めたという回答者もいることが分かる。

以上のような結果から、親族が煎茶道を習っていたり、教えていたりしたことを契機として習い始めた者については、継続性が高く、特に親族が教えている場合、自身が教授者として活動している（いた）傾向が見られる。

一方、煎茶道に対して趣味や教養の観点から興味関心を持ったり、友人・知人から誘われたりし

た場合の継続性は決して高い傾向とはいえない。これは、習う場所が失われてしまう場合があったり、目標を達成できたから辞めたりした、という事情もあることが結果からうかがえる。

集計表 20 煎茶道を習い始めたきっかけ×煎茶道から離れたきっかけや理由

	n=	AQ3補問2 煎茶道から離れたきっかけ									
		時間がなくなった	近くに習う場所がなくなった	当初目標としていたことが達成できなかった	興味を失った	経済的に続けるのが難しい	健康面、体調面で続けることが難しい	一人等が辞めてしまった家族や友人と一緒に活動する機会がなくなった	習っている内容について	指導者や教授者を引退した	その他
全体	782	33.9	31.8	10.2	19.1	6.3	4.3	9.1	3.7	10.2	6.8
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	131	44.3	35.9	12.2	17.6	6.9	2.3	11.5	1.5	9.9	3.1
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	70	40.0	25.7	8.6	24.3	4.3	5.7	18.6	2.9	11.4	2.9
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	195	39.5	33.3	12.8	19.5	9.7	6.7	12.3	6.7	11.8	8.2
学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	113	36.3	41.6	9.7	20.4	6.2	3.5	11.5	3.5	6.2	4.4
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	51	37.3	37.3	11.8	21.6	2.0	5.9	3.9	7.8	3.9	-
趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった	233	36.5	37.8	15.9	17.6	6.0	7.3	6.4	2.6	9.4	5.6
煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった	19	26.3	15.8	31.6	10.5	10.5	5.3	5.3	10.5	15.8	5.3
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	113	28.3	25.7	4.4	10.6	8.8	6.2	8.0	3.5	23.0	5.3
その他	40	27.5	27.5	2.5	15.0	-	-	5.0	2.5	-	37.5

※n=30未満は参考値のため灰色

■活動内容

煎茶道に関する活動内容（AQ5）では、「教室や稽古場で習っている（いた）」（56.8%）の回答比率が最も高く、次いで「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」（23.0%）、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（20.3%）と続く。

まず、活動内容（AQ5）と現在の継続状況（AQ3）についてクロス集計を行い、活動内容と継続率の関係を分析する。このうち継続していると回答した者（23.3%）の中で、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（54.1%）の回答比率が最も高く、次いで「指導者や教授者として教えている（いた）」（44.1%）と続く。

集計表 21 煎茶道に関する活動内容×現在の継続状況

	n=	AQ3 現在の継続状況 (%)	
		続けている	続けない
全体	1,019	23.3	76.7
教室や稽古場で習っている(いた)	579	19.2	80.8
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	207	54.1	45.9
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	234	34.2	65.8
指導者や教授者として教えている(いた)	68	44.1	55.9
その他	65	3.1	96.9

次に、活動内容（AQ5）と経験年数（AQ4）についてクロス集計を行い、その特徴や傾向について分析する。全体平均と回答比率に大きな差があるのは、経験年数「20年以上」（6.3%）と回答した者のうち、「指導者や教授者として教えている（いた）」（29.4%）の回答比率は全体平均を大きく上回っていることが確認できる。このほか、「教室や稽古場で習っている（いた）」と回答している者の継続率を見ると、3年以上になると全体平均と比べて回答比率が上がっていることが分かる。

集計表 22 煎茶道に関する活動内容×煎茶道を続けている年数

	n=	AQ4 煎茶道を続けている年数 (%)						
		1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~10年未満	10~20年未満	20年以上	3年以上合計
全体	1,019	19.0	32.4	24.2	13.1	5.0	6.3	48.6
教室や稽古場で習っている(いた)	579	16.4	30.4	26.3	14.7	5.9	6.4	53.2
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	207	16.9	28.5	28.5	16.4	4.3	5.3	54.6
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	234	14.5	35.5	23.1	14.1	5.6	7.3	50.0
指導者や教授者として教えている(いた)	68	14.7	16.2	19.1	13.2	7.4	29.4	69.1
その他	65	40.0	29.2	16.9	6.2	6.2	1.5	30.8

活動内容（AQ5）と活動頻度（AQ6）についてクロス集計を行い、その特徴や傾向を分析する。AQ6で最も回答が多かった「週に1回程度」（44.5%）と回答した者のうち、「教室や稽古場で習っている（いた）」（51.8%）が全体平均を大きく上回っており、教室や稽古場で習っている者の場合、週1回程度通っていることが分かる。このほか、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」の項目でも、「週1回程度」の回答比率が他の活動頻度と比べても高く、煎茶道を習う者の場合週1回程度の活動頻度が最も多いことが分かる。また、「指導者や教授者として教えている（いた）」と回答した者でも「週1回程度」（20.6%）の回答比率が他の活用頻度の回答比率と比べても高いことから、指導者や教授者も週1回程度の頻度で教室を開いている者が多いものと推察される。

集計表 23 煎茶道に関する活動内容×煎茶道に関する活動頻度

	n=	AQ6 煎茶道に関する活動頻度 (%)						
		ほぼ毎日	週に2~3回	週1回程度	月1回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度
全体	1,019	6.5	10.4	44.5	14.9	8.9	3.4	11.4
教室や稽古場で習っている(いた)	579	7.6	6.2	51.8	13.8	8.5	2.8	9.3
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	207	7.7	22.2	38.2	16.9	7.2	3.9	3.9
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	234	9.0	18.8	38.0	15.4	9.4	2.6	6.8
指導者や教授者として教えている(いた)	68	13.2	14.7	20.6	14.7	14.7	5.9	16.2
その他	65	4.6	3.1	23.1	9.2	6.2	6.2	47.7

活動内容（AQ5）と毎月使う費用（AQ7）についてクロス集計を行い、その特徴や傾向を分析する。月額費用の中で最も回答比率が高い「5,000円未満」（53.0%）と回答した者の回答比率は、各活動内容においても最も回答比率が高いことが分かる。また、「教室や稽古場で習っている（いた）」（54.6%）、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」（49.6%）の2項目は、他の月額費用の回答比率よりも高い。

次に月額費用で回答比率の高かった「5,000円以上～10,000円未満」（22.8%）の項目では、「教室や稽古場で習っている（いた）」（25.6%）、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（25.1%）の2項目が全体平均を少し上回っている。また、「10,000円以上～15,000円未満」（9.2%）の項目では、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（16.9%）、「指導者や教授者として教えている（いた）」（16.2%）と全体平均を上回る回答比率になっていることから、カルチャーセンターで受講する者、指導者・教授者として活動している者で月額費用の傾向にばらつきが見られる。

集計表 24 煎茶道に関する活動内容×煎茶道に関する月額費用

		AQ7 煎茶道に関する月額費用 (%)											
		5000円未満	5000円以上～10000円未満	10000円以上～15000円未満	15000円以上～20000円未満	20000円以上～25000円未満	25000円以上～30000円未満	30000円以上～35000円未満	35000円以上～40000円未満	40000円以上～45000円未満	45000円以上～50000円未満	50000円以上	合計
	n=	53.0	22.8	9.2	4.2	4.0	2.2	0.7	0.6	0.6	0.5	2.3	24.2
全体	1,019	53.0	22.8	9.2	4.2	4.0	2.2	0.7	0.6	0.6	0.5	2.3	24.2
教室や稽古場で習っている(いた)	579	54.6	25.6	8.8	2.9	3.3	1.2	0.3	0.3	0.3	0.7	1.9	19.9
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	207	29.5	25.1	16.9	8.7	6.8	5.8	1.4	1.0	1.4	1.0	2.4	45.4
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	234	49.6	16.7	6.4	4.7	9.8	4.3	1.3	1.3	1.7	0.9	3.4	33.8
指導者や教授者として教えている(いた)	68	22.1	11.8	16.2	10.3	10.3	5.9	1.5	1.5	1.5	1.5	17.6	66.2
その他	65	89.2	6.2	1.5	-	3.1	-	-	-	-	-	-	4.6

■ 経験年数

煎茶道を続けている（続けていた）年数（AQ4）の結果では、「1～3年未満」（32.4%）の回答比率が最も高く、次いで「3～5年未満」（24.2%）、「1年未満」（19.0%）と続いている。

経験年数（AQ4）と習い始めたきっかけ（AQ1）のクロス集計を行い、傾向と特徴について分析する。全体平均と回答比率の差が大きいところに着目すると、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（22.3%）と回答した者の中では、「20年以上」（42.2%）、「10～20年未満」（35.3%）の回答比率が高いほか、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（14.4%）と回答した者の中で、「10～20年未満」（25.5%）の回答比率が高く、「5～10年未満」（24.1%）、「20年以上」（23.4%）も全体平均を上回っている。このほか、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（28.7%）を回答した者のうち、「5～10年未満」（39.1%）が全体平均を大きく上回っている。

集計表 25 煎茶道を続けている年数×煎茶道を習い始めたきっかけ

(%)

		AQ1 煎茶道を習い始めたきっかけ											
		ど親 がや 習つ てい 姉妹 た、 祖父 父母 な	ど親 がや 教え てい 姉妹 た、 祖父 父母 な	れこ 友た を、 勧め られ たか ら誘 習わ う	た会 イ、 ベン トで 設室 等、 験し たわ れ	稽古 場の 授業 や、 煎茶 道の	学校 の授 業で 、煎 茶道 の	知画 つ、 たウ ェビ エ映 画メ ディ ア誌 等、 で漫	テレ ビや 映画 、雑 誌、 等、 漫	道趣 に興 味関 心と して 、煎 茶	に煎 茶道 に関 心が あつ た、 仕事 や職 業	し野 ての 趣味 、習 い事 と別 関の 係分	そ の他
	n=												
	全体	1,019	22.3	14.4	24.2	15.8	8.9	28.7	4.6	13.5	4.1		
	1年未満	194	15.5	8.8	20.6	13.9	10.8	22.7	2.1	13.4	6.2		
	1～3年未満	330	16.1	8.8	26.4	17.0	7.6	24.8	1.2	13.6	5.5		
	3～5年未満	247	25.5	16.6	23.1	15.0	7.3	32.8	5.7	10.5	2.8		
	5～10年未満	133	27.1	24.1	26.3	17.3	9.8	39.1	9.8	14.3	1.5		
	10～20年未満	51	35.3	25.5	27.5	9.8	11.8	25.5	7.8	13.7	2.0		
	20年以上	64	42.2	23.4	21.9	20.3	12.5	31.3	12.5	23.4	3.1		

n=30以上で
 全体+10pt以上
 全体+5pt以上
 全体-5pt以下
 全体-10pt以下

次に経験年数（AQ4）と習い始めた当初の習い方を選んだ理由（AQ2補問）のクロス集計を行い特徴及び傾向について分析する。

全体平均よりも回答比率が高い箇所として、「本格的に習ってみたかった」（14.0%）で5年以上の経験年数の回答比率が全体平均と比べて高いことが分かる。そこで経験年数が長いと回答した者で、回答比率が高いところに着目すると、「家族や友人等と一緒に良かった」（27.5%）で、「10～20年未満」（49.0%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「20年以上」（35.9%）の回答比率も全体平均を上回っている。また、「通いやすい場所だった」（41.2%）と回答した者のうち、「5～10年未満」（50.4%）、「10～20年未満」（47.1%）の回答比率が全体平均を上回っていることから、経験年数が長い者が当初の習い方を選んだ理由の傾向として、本格的に習うことに加えて、家族や友人と一緒に通いやすい場所で習い始めていた傾向が見える。

一方、経験年数が短い者に注目すると、「特に理由はない、わからない」（11.2%）と回答した者の中で、「1年未満」（23.2%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「手軽に習ってみたかった」（25.4%）を選んだ回答者の中では、「1～3年未満」（30.3%）、「1年未満」（26.8%）と、全体平均を少し上回っている。また、「通いやすい場所だった」（41.2%）では、「1～3年未満」（41.8%）は全体平均を少し上回る回答比率であるが、「1年未満」は（24.7%）と全体平均を大きく下回っている。このことから、1年未満、1年以上3年未満と回答した者は、習い始めは手軽に習いたい、また、家族や友人と一緒に習えればと考えていた傾向がうかがえる。

集計表 26 煎茶道を続けている年数×当初の習い方を選んだ理由

		AQ2補問 その方法を選んだ理由 (%)										
		か家族や友人等と一緒に良かった	通いややすい場所だった	費用が手頃だった	道具等が借りられた	通いややすい時間帯だった	れム指、導法や器具の具体的な指示	た本格的に習ってみたいかつ	手軽に習ってみたいかつ	その他	ない理由はない、わから	
n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下	n=											
	全 体	1,019	27.5	41.2	19.8	13.3	17.9	7.5	14.0	25.4	1.3	11.2
	1年未満	194	23.2	24.7	11.9	6.7	7.2	1.5	4.6	26.8	2.1	23.2
	1～3年未満	330	25.8	41.8	23.3	13.3	20.6	5.5	10.3	30.3	0.9	10.3
	3～5年未満	247	25.9	47.8	22.7	14.6	20.2	9.3	14.6	23.1	2.0	7.7
	5～10年未満	133	28.6	50.4	20.3	20.3	23.3	17.3	24.1	18.8	0.8	5.3
	10～20年未満	51	49.0	47.1	23.5	17.6	17.6	5.9	25.5	19.6	-	3.9
	20年以上	64	35.9	39.1	10.9	10.9	15.6	9.4	29.7	23.4	-	10.9

経験年数（AQ4）と煎茶道に関する興味関心や魅力（AQ8）のクロス集計を行い、特徴や傾向について分析する。

興味関心や魅力として最も回答比率が高かった「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」（50.3%）については、全体平均と比べる低い回答比率があるものの、どの経験年数の中でも比較的高い回答比率であることが分かる。

次に全体平均と回答比率の差がある箇所に注目すると、経験年数が「1年未満」と回答している者で、「上記の中で当てはまるものはない」（22.7%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「その他」を除く魅力・興味関心の回答比率が全体平均を全て下回っていることが確認できる。

その一方、経験年数が5年以上と回答している者に注目すると、「20年以上」と回答した者で魅力や興味関心について「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」を除き、全ての項目が全体平均を上回っている。また、「10～20年未満」、「5～10年未満」と回答している者については、「上記の中で当てはまるものはない」を除き、全ての項目で全体平均を上回っていることが確認できる。

以上のとおり、経験年数が短い者の場合、魅力や興味関心の選択肢で当てはまるものがないとの回答比率が高い上、経験年数に依拠することなく感じる事ができる「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」に回答が集中している。一方で経験年数が長くなると、煎茶や玉露の美味しさはもちろんのこと、煎茶席のしつらいや、主客の心の交わり等の魅力や興味関心へ回答比率が高くなっていることから、経験年数の長さによって魅力や興味関心を捉える幅が異なるものと推察される。

集計表 27 煎茶道を続けている年数×煎茶道に関する興味関心や魅力

(%)

		AQ8 煎茶道に関する興味関心や魅力							
		い煎 し茶 くや い玉 た露 だけ を淹 れ、 お	等手 の前 淹れ れ作 方法 がや 分煎 か茶 や玉 露	るこ 四か 季感 等の じし るつ こら とえ がや で、 きそ	が落 でち でき るか せ高 めた りた りす る、 こ心 とを	主客 の心 の交 流	て日 国内 の外 伝に 統的 なら なれ て化 いと し	そ 他	の上 は記 の中 で当 ては まる も
	n=								
全体	1,019	50.3	45.9	31.7	32.5	11.1	23.1	0.6	10.0
1年未満	194	44.3	28.4	11.9	17.0	4.6	14.4	1.0	22.7
1～3年未満	330	51.5	43.3	28.2	32.1	11.5	22.4	0.6	9.1
3～5年未満	247	46.6	52.2	39.7	34.0	7.7	23.9	0.8	6.5
5～10年未満	133	55.6	60.2	43.6	43.6	11.3	25.6	-	1.5
10～20年未満	51	62.7	72.5	47.1	41.2	19.6	27.5	-	2.0
20年以上	64	56.3	37.5	42.2	45.3	34.4	40.6	-	14.1

上記のクロス集計の結果から、煎茶道を習ったことがあると回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 習い始めたきっかけと継続率に見える傾向と特徴

煎茶道に関わる仕事や職業に興味があった者や、親族等が煎茶道を教えていたり、習っていたりしたことをきっかけで煎茶道を始めた者、テレビ等のメディア等で知って煎茶道を始めたと回答している者の継続率が高い傾向にあり、このうち、親族が煎茶道を習っていた者は、指導者や教授者として活動したい（している）との回答比率が全体平均より高い傾向にある。

一方で、趣味や教養として興味関心を持った者の継続率は低い傾向にあるが、習う時間がなくなったり、習う場所がなくなったり、あるいは目標を達成したりして辞めたりといった、継続していない理由や事情があることが見えてくる。

2) 活動内容と継続している状況や年数から見える傾向と特徴

カルチャーセンターで煎茶道の講座を受講している者や、指導者・教授者として活動している者の継続率が高い傾向が見られる。このうち、指導者・教授者として活動している者は、20年以上の経験年数である者が多い。また、教室や稽古場で習っている者の場合、経験年数3年以上の回答比率が全体平均より少し高い傾向にあることが分かる。

次に活動頻度については、教室等で習っている者、カルチャーセンターで受講している者、同好会やサークルで活動している者、指導者・教授者、いずれの活動内容を回答している者も、「週1回程度」の回答比率が高い。特に教室や稽古場で習っている者の多くは週1回との回答

比率が高い。その一方、カルチャーセンターで受講している者や同好会やサークルで活動している者は、週1回、週2～3回程度、月数回程度の回答に分散しており、各活動内容による頻度の違いが見られる。また、月額費用については、教室や稽古場で習っている者の多くが「5,000円未満」「5,000円以上～10,000円未満」の回答比率が高く、月額費用として10,000円未満で習っている者が多いことが分かる。一方、カルチャーセンターで受講している者や指導者・教授者として活動している者は月額10,000円以上を払っている者が多くいることが回答比率の傾向から見え、活動内容によって月額費用の傾向が異なることが分かる。

3) 経験年数と習い始めたきっかけや魅力から見える傾向と特徴

経験年数と習い始めたきっかけとの関係を見た場合、親族等が煎茶道を習っていたあるいは教えていたと回答した者では10年以上の経験年数を回答する者が多い傾向にある。

次に当初の習い方を選んだ理由と経験年数と関係については、経験年数が10年以上の者で、本格的に習いたい、家族や友人と一緒に習いたい、の2項目について回答比率が高い傾向にある。一方、経験年数が1年未満の者は、手軽に習いたい、通いやすい場所を重視している傾向にあるが、習う方法を選んだ理由は特にないという回答比率も高い傾向が見られる。

経験年数と興味関心や魅力との関係を見た場合、煎茶や玉露等の美味しさについては、どの経験年数の中でも比較的高い回答比率であり、経験を問わずに魅力として感じられていることが分かる。一方、経験年数が長くなると、しつらいや心の交わり等の項目の回答比率が高くなる傾向にあり、経験を重ねていくことで魅力や興味関心の捉え方が変化していることが推察される。

(4) 分析結果のまとめ

煎茶道の経験・体験の有無や、経験者や参加体験者、未経験者の煎茶道に関する活動状況や興味関心の度合いを把握することを目的としてウェブアンケートを利用した調査を実施した。

調査結果からは、煎茶道の未経験者が圧倒的に多いことが分かった。未経験者が多いことについては、設問群の回答結果からも見えるように、煎茶道に興味関心が持てなかった者がいる一方で、そもそも煎茶道を知らなかった者が多くいること、また、煎茶道を知っていたとしても、体験できる場がなかった、あるいは場を知らなかった事情があり、参加体験には至らなかったことが明らかになった。

反対に、経験者や参加体験者の場合は、煎茶道について知る機会や体験をする場に接する機会があったことから、煎茶道を経験することができたことが分かる。経験者の場合は、煎茶道に対して興味関心があった、友人・知人に誘われた、親族が煎茶道を習ったりしていたことが煎茶道を習い始めるきっかけとなっている。一方、参加体験者の場合は、学校や稽古場、文化施設等での体験イベントをきっかけとして体験をしており、経験者・参加体験者・未経験者のそれぞれに、煎茶道を

知る機会、接することができる機会や環境に大きな開きがあることが、調査結果の分析から見えてくる。

経験者の活動状況等については、約8割は継続していない状況で、継続している者については若い世代の方が継続しているほか、経験年数が長いほど継続している。一方で、継続していない者が続けられなかった事情からは、習う場所がなくなった、時間がなくなった等の事情があることが傾向として見え、回答者の環境を整えば再開する可能性があることも推察される。

参加体験者の活動状況等については、参加体験をしたきっかけと体験した機会のクロス集計から、学校や職場等で体験機会を得たとの回答比率が高い傾向にあり、煎茶道の指導者・教授者がこれらの場において、体験機会の醸成などを図っている事例もあることから、煎茶道を参加体験する大きなきっかけとして作用していることが分かる。また、参加体験者がこれまで煎茶道を習うに至らなかった理由や事情からは、参加体験をしても興味関心を持てなかった者もいる一方で、通いやすい場所や時間帯、習う内容の明示等がされていれば習いたいと考えている者がいることから、習う内容等の情報を明示するなどの工夫をすることで、習いに通いたい人に機会を提供できる可能性があることが分かる。

上記の結果から、煎茶道の経験者や参加体験者を増やしていく場合、学校や職場等での体験機会のみならず、煎茶道を体験できるイベントなどを広く行うと共に、これらの体験機会自体を広く周知していくことで、経験者や体験者を増やす可能性が広がるものと考えられる。また、習うことができる場所の周知をはじめ、習う内容や時間帯など、習いたいと考えている者に適切に情報を伝えていくことも有効な取組として考えられる。

2-3 海外からの評価と国際発信

海外から見た煎茶道の評価

外国人が煎茶道をどのように捉えていたのかについては、まず、外国語の文献から推察することが可能である。

文政6年(1823)に来日したシーボルトは、オランダに日本茶を輸入することを目的とし、製茶法について高野長英に報告書を作成させ、製茶図巻を購入したり、日本茶を収集したりしていた。この日本茶は、蒸し製、釜炒りあわせて25種もあり、現在、1830年以前の貴重な葉茶資料として、オランダのライデン民族学博物館に所蔵されている¹³。

また、明治6年(1873)に英語教師として訪日したバジル・ホール・チェンバレンの“Things Japanese”(邦題『日本事物誌』1890年刊)の「茶(Tea)」の項目では、日本での緑茶や番茶、麦茶の飲まれ方等について広く紹介されている。その中に日本茶の淹れ方として、茶葉の質が良い物であればあるほど湯の温度が大事になり熱いお湯を用いないこと、必要に応じて、湯冷ましを用いて茶を入れることもあると記載されている¹⁴。1930年頃、魯迅は上海の内山書店に日参し、店内の「雁ヶ音茶館」で玉露の茎茶、すなわち雁ヶ音を飲んで、友人たちと交流していたことが伝えられている¹⁵。

現代における煎茶道の海外での受け止め方については、台湾の国立故宮博物院の例が挙げられる。同院の南部院区・亜洲藝術文化博物館には、中国・日本・台湾の茶文化に関係した品が収められている。日本は茶道と煎茶の2部門あり、海外で煎茶道を紹介する貴重な展示が行われる。収蔵品には、煎茶具はもちろん、茗謙図録や煎茶書もみられ、関心の高さをうかがわせる¹⁶。

煎茶道の国際発信について

煎茶道に係る国際発信の取組については、流派横断的な団体が主体となって行われている場合と、流派独自に取組が実施されている場合がある。

一般社団法人全日本煎茶道連盟は、昭和45年(1970)の大阪万博において煎茶席を設け、国内外からの来場者に対して煎茶の普及活動を行ったことをはじめ、昭和48年から5年間、ハワイへ代表団の派遣を実施している。平成2年(1990)には連盟設立35周年を記念した豪華客船「ふじ丸」での台湾訪問、平成18年の連盟結成50周年記念事業では韓国・ソウルで日韓煎茶道交流会を開催し交流会や研修会を行っているほか、平成21年に中国杭州で日中茶文化交流会を実施し、中国国際茶文化研究会と交流を図っている。平成24年には台湾で日台親善交流茶会を開催¹⁷、さらに平成26年

13 熊倉功夫「シーボルトと茶」(ヨーゼフ・クライナー編『黄昏のトクガワ・ジャパニーズシーボルト父子の見た日本一』日本放送出版協会、平成10年)

14 バジル・ホール・チェンバレン著、高梨健吉訳『日本事物誌2』平凡社、昭和44年 p.240-241

15 本庄豊『魯迅の愛した内山書店 上海雁ヶ音茶館をめぐる国際連帯の物語』かもがわ出版、平成26年

16 「単元II 茶道—日本文化 二、煎茶茗謙」(国立故宮博物院図録『芳茗遠播—亜洲茶文化』国立故宮博物院南部院区・亜洲藝術文化博物館、平成27年) p.248-255、279-283

17 『煎茶道』第659号 全日本煎茶道連盟、平成24年 p.38-42

にはベトナムで「日本・ベトナム茶文化交流茶会」を開催¹⁸している。なお、平成 29 年度事業報告書によれば、全国煎茶道大会における海外団体への参加誘致等の活動も行っている。

一方、各流派による国際的な発信の事例としては、中国、韓国、北米、南米、ヨーロッパの各地域において、国際交流を目的とした煎茶会の開催が行われてきた。また、一部流派では、海外支部を拠点に活動や発信を行っている。

〈主要参考文献〉

- ・ヨーゼフ・クライナー編『黄昏のトクガワ・ジャパニーシーボルト父子の見た日本一』日本放送出版協会、平成 10 年
- ・本庄豊『魯迅の愛した内山書店 上海雁ヶ音茶館をめぐる国際連帯の物語』かもがわ出版、平成 26 年
- ・国立故宫博物院『芳茗遠播—亜洲茶文化』図録、国立故宫博物院南部院區・亜州藝術文化博物館、平成 27 年
- ・『煎茶道』全日本煎茶道連盟、平成 24 年、平成 27 年

18 『煎茶道』第 690 号 全日本煎茶道連盟、平成 27 年 p. 38-48

2章 煎茶道団体・煎茶道教室の活動について

1. 本章の主旨

本章では、令和5年度に煎茶道団体、煎茶道教室に対して実施したアンケート調査の結果を中心に、煎茶道の文化継承の担い手である団体及び煎茶道教室の活動について現状を分析する。

2. 令和元年度調査の概要

煎茶道の団体については、「令和元年度生活文化調査事業」において、32 団体について調査を実施している。その結果を見ると、まず規模面では全体の 59.4%が支部を有し、また、1 団体が団体会員制度、その他の団体が個人会員制度を取っている。事業予算の額は、「500 万円未満」が 59.4%と最も多く、次いで「500～2,500 万円」と「2,500～5,000 万円未満」の 12.5%が続く。

事業活動としては、87.1%が資格制度を有しており、21.9%の団体が団体内顕彰制度やコンテストを有していると回答している。煎茶道の振興活動としては、博物館・美術館の企画展と連携した茶会や講座の開催、加盟する統括団体や文化団体と連携した茶会や講座の開催、地方公共団体と連携した茶会や講座の開催、学校での煎茶道体験の実施などが行われている。現状の課題としては団体の7割が会員の高齢化、会員数の減少を挙げている。煎茶道の文化の継承についての考え方では、和室がなくとも楽しめるような現代社会に対応した方策を模索している団体もあれば、煎茶道のルーツである江戸期の「文人茶」の芸術性を保った普及が大切としている団体もある。

今回のアンケートでは、こうした令和元年度の調査の実績を踏まえ、さらに詳細な実態把握を行っていくものとする。

1 節 煎茶道団体の活動について

1-1 煎茶道団体へのアンケート調査の実施概要

煎茶道の活動の詳細な実態を把握することを目的として、煎茶道の普及啓発や継承等を掲げて活動を行っている煎茶道に関する団体を対象とし、各団体の活動内容や、その現状と課題、煎茶道のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのか等を知ることが目的としたアンケートを実施した。

なお、調査年度（令和 5 年度）においてはいまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	66 団体・流派（配布先は巻末参考資料を参照）
調査期間	令和 5 年（2023）11 月 29 日（水）～令和 5 年（2023）12 月 25 日（月）
回収数	20 団体・流派（回収率：30.3%）
設問項目	<p>Q 1：団体・流派について（概要、主な目的・定款等、沿革）</p> <p>Q 2：団体・流派の活動（直近 3 年）について</p> <p>①「茶会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>②「会員向け研修会、講習会」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>④「機関誌の発行」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑤「広報活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>⑥「その他活動」の実施（活動概要、課題、今後の展望等）</p> <p>Q 3：煎茶道の継承について</p> <p>①「煎茶道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由</p> <p>②①で選択した要素に関して、煎茶道団体・流派としての現状及び守っていく上で必要な取組</p> <p>③煎茶道を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例</p> <p>Q 4：新型コロナウイルス感染症の影響について</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響の程度</p> <p>②具体的な影響</p> <p>③実施した対応策</p> <p>④復旧の程度</p>

（調査結果を参照する際の注意事項）

- ・集計は小数点第 2 位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

1-2 煎茶道団体・流派へのアンケート調査の結果概要

(1) 煎茶道団体・流派の活動(直近3年)について

① 「茶会」の実施について

○ 活動概要

(活動の種類や内容)

アンケート回答のあった20団体のうち、未記入の2団体及び直近3年で茶会を開催していないと回答のあった2団体を除く16団体(80.0%)が茶会を実施している。

茶会の主催毎に分けると、横断的団体や流派が主催となって行われる茶会や、複数の流派で共同開催を行う茶会、流派支部が独自に主催する茶会の例があるほか、神社や寺院において行う献茶式にあわせて茶会を実施している例、自治体や文化芸術団体が主催する催事や茶会に席を設けていると言った例があることが確認できる。

茶会の内容としては、正月に行う初煎会・初煮会のように季節の折節に催される茶会があるほか、門人や会員の研修を目的として行われる茶会、チャリティー茶会のように慈善目的で行われる例も確認できる。

(開催頻度及び参加人数)

茶会の開催頻度については、年間に5回程度が平均となっている。頻度の少ない団体でも年に1～2回程度、多いところでは流派主催の茶会だけではなく催事への参加も含めて10回以上、茶会を開いている。

次に参加人数については、茶会の規模感によって異なり、流派主催の茶会の場合80人から150名程度の参加人数であると回答している場合が多い。また、自治体や文化団体が主催する茶会等の場合は、200～300人、多い場合は600人程度が茶会に参加していることが確認できる。なお、煎茶道の横断的団体が主催している大規模な茶会では、2,000人程度の参加者が報告されている。

(活動の成果)

活動の成果については、茶会を開催することで、門人や会員が日頃から稽古を重ねてきた成果を確かめる場として、また、一般の来客者への煎茶道の周知にもつながり、煎茶道そのものに関心を持ってもらえている、と一定の成果があったとの回答が確認できる。

○ 現状と課題

回答の中で課題として多く挙げられているのは、茶会への参加者数の減少である。これは、流派が催す茶会に客として参加する者が減少していることに加えて、茶会を催すために必要な人員が不足しがちになっている点を挙げている場合もある。

このような状況が発生している理由として、流派の門人・会員の高齢化が進んでおり茶会等に参加しにくくなっている点やそもそも門人・会員を辞めてしまう人が増えたことに加えて、若年層の入門者が減少している点が背景にあることが、回答内容から確認できる。また、横断的団体の回答には、流派の門人等の高齢化や若年層の減少等の課題や背景を踏まえ、次の世代を担う者

をどのように確保していくかという点に加えて、どのような方法で煎茶道の魅力を発信していくかが大きな課題であると回答している。

なお、上記以外の課題としては、茶会の参加者数の減少に関連することとして、茶会についての広報や情報発信が不足している点を挙げている流派もある。回答の中には、WEBサイトに茶会の参加申し込みフォームを設けているものの、WEBサイトまでの誘導が上手くいっていないと言った具体的な問題点について記載しているものも見られる。

○ 今後の展望等

前述の課題を踏まえた今後の展望として、一般参加者への茶会への参加を増やすために茶会開催についてWEBやSNS等を積極的に活用して広報を展開したという回答や、会員が減少しているため会員の募集活動をしっかりと行いたいという回答が見みられる。このほか、参加者を増やす取組として、高齢の会員でも参加しやすいように茶会を立礼席とすることを検討している流派もある。また、会員の減少に対応する取組としては、多数の門人・会員がいることを前提として流派の活動を行ってきたその仕組み自体を見直していくことを検討しているところもある。

② 「会員向け研修会、講習会」の実施について

○ 活動概要

（研修会等の種類）

アンケート回答のあった20団体のうち、未記入だった4団体及び実施していないと回答のあった2団体を除く、14団体（70.0%）が会員向けの研修会や講習会を実施していると回答している。

まず、研修会や講習会の種類については、流派において教授者資格を持つ者等、受講対象を限定しているものと、流派の門人や会員であればだれでも参加できるものに大きく分けることが出来る。教授者資格等を有する者を対象とした講習会や研修会については、受講者の手前や所作、作法等の習熟、指導者としての質的な向上を主な目的として開催されている例が多い。一方、教授者資格の有無にかかわらず参加できる講習会や研修会では、受講者が煎茶に係る知識や教養を幅広く身に付けることを目的として開催されており、中には盛物の勉強会を開いている流派も見受けられる。なお、指導教授者がいない門人・会員向けに指導を行うことを目的とした研修会を開いている例もある。

このような研修会や講習会は、横断的団体も開催しており、団体に所属する流派はもちろんのこと、一般の人でもオンラインから申し込みをすれば参加可能となっている。

これらの研修会や講習会の開催場所については、流派の教場において行われる場合や、流派の支部に家元や講師が赴いて開催される場合があるほか、中にはオンラインで講座を開催している例も見られる。

（開催の頻度・規模）

研修会及び講習会の頻度については、多いところで毎月1回教授者・指導者向けの研修会を開催している流派もあるが、年4～5回程度開催している流派がほとんどである。

次に規模については、1回の研修会・講習会で10～20人程度参加しているとの回答が多い。横断的団体の場合は、各流派や一般の参加者も含めるため、200～300人ほど参加していると回答し

ている。

(活動の成果)

活動の成果については、研修会や講習会の内容によって異なるが、受講者の手前や所作の習熟や、煎茶に係る知識や教養の習得が出来ているとの回答があるほか、研修会や講習会を通じて参加者同士の交流や、家元と会員同士の交流につながっているとの回答も見られる。

(免許制度の活用)

免許制度の活用については、研修会の受講を一定程度経ることで免状などの取得が可能となっているとの回答がみられた。

○ 現状と課題

回答の中で課題として多く挙げられているのは、研修会や講習会への参加者の減少である。これには、流派の門人・会員自体が減少していることに加えて、教授者の高齢化が進み遠方からの参加が難しくなっている等の理由もあり、研修会や講習会に参加しにくくなっていることが要因として示されている。このほか、勉強会の開催日が平日のみとなっているため、仕事等で参加できない方がいるなどの理由を挙げている例もある。

このほかの課題としては、煎茶を教授し普及する者として魅力ある人を育成していくことを課題として掲げている場合や、年齢差や習熟度により手前や所作、煎茶に関する知識の差があるので、講習会や研修会の開催でそれらを是正したいといった回答、研修会や講習会を受けた受講者の習熟度の評価の仕方や、習熟度に応じた研修会や講習会の設定やフォローアップを課題としている流派も見受けられる。

○ 今後の展望等

前述の課題を踏まえた今後の展望としては、研修会や講習会への参加者数を増やす取組として、遠隔地の門人・会員が参加しやすいようにオンラインでの研修会等の開催について検討しているところもあるほか、流派の門人等の高齢化と会員数の減少を、研修会等の参加者数減少の根本的な理由として捉えている流派は、体験茶会を数多く開催し煎茶道の愛好者自体を増やすといった取組を検討しているところもある。

このほか、教授者の育成等を課題と掲げているところでは、研修会や講習会で取り扱う項目の見直しを検討している。

③ 「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施について

○ 活動概要

(講演会等の種類や内容)

アンケート回答のあった20団体のうち、未記入の9団体及び実施していないと回答のあった2団体を除く9団体(45.0%)が一般や学校向けに講演会や講師の派遣を実施している。なお、流派本部では実施していないが、所属する門人や会員が独自に実施しているとの回答が1団体から寄せられている。

実施内容については、大学や高等学校、小学校等で学生向けに講習と体験茶会を組み合わせ

開催されている例が多く、その他の例としては、自治体が主催している催事において講演を行っている例や、大学や専門学校において講義を行っている例も見られる。

また、3団体からは小学生や高等学校の部活動に講師派遣をしているとの回答があったほか、横断的団体では講師依頼があった場合、所属流派を講師として依頼者に紹介する取組が行われている。

（開催頻度及び参加人数）

開催頻度については、年に5～6回程度行っているとの回答が2団体からあり、いずれの団体も大学や小学校での講習と体験茶会を実施している。また、自治体が主催する催事での講演については年1回毎年行っているとの回答があるほか、依頼があれば依頼内容に応じて実施内容を決めて講師派遣等を行っているため不定期に実施をしている場合も見られる。

（活動の成果）

活動の成果については、講演等に参加した方からおおむね好評を得ているとの回答が見られる。

○ 現状と課題

回答の中で課題として多く挙げられているのは、今後、講演会等を行う機会をどのように増やしていくのか、という点である。中には、恒常的な講演開催を目指して、講義を主催する大学等の機関における講演費用の予算化について意識している回答も見られる。

このほか、学校の部活動に講師派遣をしている流派では、部活動自体の継続を課題として挙げていることから、講演や講師派遣を行う機会や場所の確保が課題の共通点となっている。

○ 今後の展望等

今後の展望等については、学校の授業等で子供たちに体験してもらいたい機会を作ってもらいたいが、教育現場は時間的余裕がないので働きかけることが難しい、との声が聞かれるものの、講演等の依頼等あれば積極的に受けていきたい、若い人達に講演会などの取り組みを通じてアプローチをしたい等、一般の人や学校向けに講演等を実施することに対して前向きな回答が多く見られる。

④ 「機関誌の発行」の実施について

○ 活動概要

（機関誌等の内容及び目的）

アンケート回答のあった20団体のうち、未記入の8団体及び実施していないと回答のあった5団体を除く7団体（35.0%）が機関紙や会誌などの発行と配布を行っている。なお、現在実施していないと回答があった5団体のうち、2団体は直近3年では発行を行っていないと回答している。

機関誌等の内容については、各団体が実施している行事などの報告や茶会等の予定について案内する記事が主で、一部では煎茶道に関する様々な情報を取り上げて掲載しており、門人・会員への情報提供を目的として記事内容が構成されている。

（発行回数及び部数）

次に発行回数や部数については、多いところでは毎月発行している団体もあるが、年4～6回

程度発行している団体が多く、年1回という団体もある。発行部数については、最も多い部数で毎月2,000部程度の発行、そのほかには、年4回発行で各号1300部程度との回答や、年間で300～1000部程度と団体の規模によって様々である。

○ 現状と課題

課題点として、機関誌等のウェブ上での展開や電子化への移行が難しい、紙媒体のため費用や手間がかかるとの回答が見られた。また、機関誌等に煎茶道に関する記事を書いてくれる専門家や煎茶道関係者が減少していることを課題として挙げている団体もある。

○ 今後の展望等

今後の展望等については、課題として多く上がっていた機関誌や広報誌のWEB上での展開や電子化への移行を検討していくという回答が多く見られ、デジタル機器に不慣れな会員等もいることを配慮して、紙媒体と電子媒体の併用も視野に入れている回答も確認できる。

⑤ 「広報活動」の実施について

○ 活動概要

（広報媒体等）

アンケート回答のあった20団体のうち、未記入の7団体及び実施していないと回答のあった1団体を除く12団体（60.0%）が広報活動を行っている。

広報活動を行っているという回答のあった中で、7団体はホームページの運営を通じた広報を行っている。またこのうち3団体はホームページと併用してSNS（Facebook、X（旧：Twitter）、Instagram、YouTubeなど）を利用した広報発信を行っている。

このほかの例として、月刊誌の発行や、一般書籍や雑誌等の執筆を広報活動の一環として行っている場合、新聞やテレビ等の媒体で広報している例、地域の神社や寺院、大学、カルチャーセンターを通じて広報を行っている例も確認できる。

（広報活動の目的・効果）

広報活動の目的については、団体の活動内容や状況等を団体会員のみならず広く一般に知ってもらう目的で広報活動が行われている。また、複数のSNSを利用している流派では、茶会などの活動内容等をFacebookやInstagramで公開したり、手前の動画等をYouTubeで公開する等しており、広報内容や目的に即してSNSの媒体を使い分けが行われている例もある。

広報活動の効果については、茶会や行事の告知や参加等について即時性が求められる場合にSNSによる発信が有効であるとの回答が見られ、SNSによる広報を通じて新規に入門する人がいたとの回答も見られた。

○ 現状と課題

広報活動についての課題点として、まず、HPやSNSにアップロードするためのコンテンツや動画等の作成に時間がかかってしまい、更新頻度を上げられないといった課題が見られる。また、HPがスマートフォンの閲覧に対応できていない、多言語対応できていない等の課題が挙げられている。

一方、現在 SNS を利用していない団体は、SNS の活用を視野に入れており、SNS を利用する際にアップロードするコンテンツの構成や、更新を続けていくための方法が今後の検討課題であるとしている。

○ 今後の展望等

今後の展望等については、すでに HP や SNS での発信を行っている団体では、更新頻度を上げていき、閲覧者やフォロワーを増やしていくことで一般の人が煎茶道を知る機会を増やしていきたいといった回答が多く見られるほか、SNS の目的別の使い分けについて検討をしている団体もある。また、SNS を新しく広報発信のツールとして活用しようと検討している団体も見られる

⑥ 「その他活動」の実施について

○ 活動概要

①～⑤に含まれない活動については、2025 年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）に茶席を開くことを検討している例や、博物館の企画展示に自流が保有している煎茶道具を出品したり、美術館とのタイアップを行う中で動画等の提供を行ったりなど、一般の方が煎茶道を知る機会を創出するための取り組みが行われていることがわかる。また、茶会の開催に適した施設（茶室）を保有している団体は、施設の管理と保全を継続的に行っていると回答している。

○活動における課題及び展望

煎茶道を知る機会を創出するための取り組みを進めている団体は、それらの取り組みを如何に周知し、人を集め、煎茶道を知る・体験する機会を創出できるかを課題として挙げている。また、茶室の保全に取り組んでいる団体からは、大規模な修理や修繕となると専門性の問題から、団体の事業費から修理費用の捻出が難しいため、修理等の実施が困難であるが、積み立てなどの方法で実現できないか検討を進めていると回答している。

(2) 煎茶道の継承について

① 継承すべき要素

今日までの煎茶道の継承において、何が守り伝えられてきたのかを具体的に特定していくために、煎茶道の団体向けのアンケート調査において、「煎茶道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、団体において特に大事だと思われる要素を3点選んでもらった。

1. 流派等に代々伝わる型や技(手前や所作など)
2. 茶会の実践(煎茶を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること)
3. 床飾りやしつらえなどの伝統的な空間
4. 多様な煎茶道具
5. 文房飾などの文房具
6. 煎茶を嗜む、愉しむために大事にされてきた考え方や精神性
7. 季節感や自然観を重視すること

上記はいずれも煎茶道の構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、煎茶道の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、煎茶道団体が大事だと考える要素についてどのような取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った。その上で、(1)「煎茶道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、(2)(1)で選択した要素に対して、煎茶道団体としての現状及び守っていく上で必要な取組、(3)煎茶道を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。その結果、(1)についての煎茶道団体の選択は次のグラフ(図1)のとおりであった。

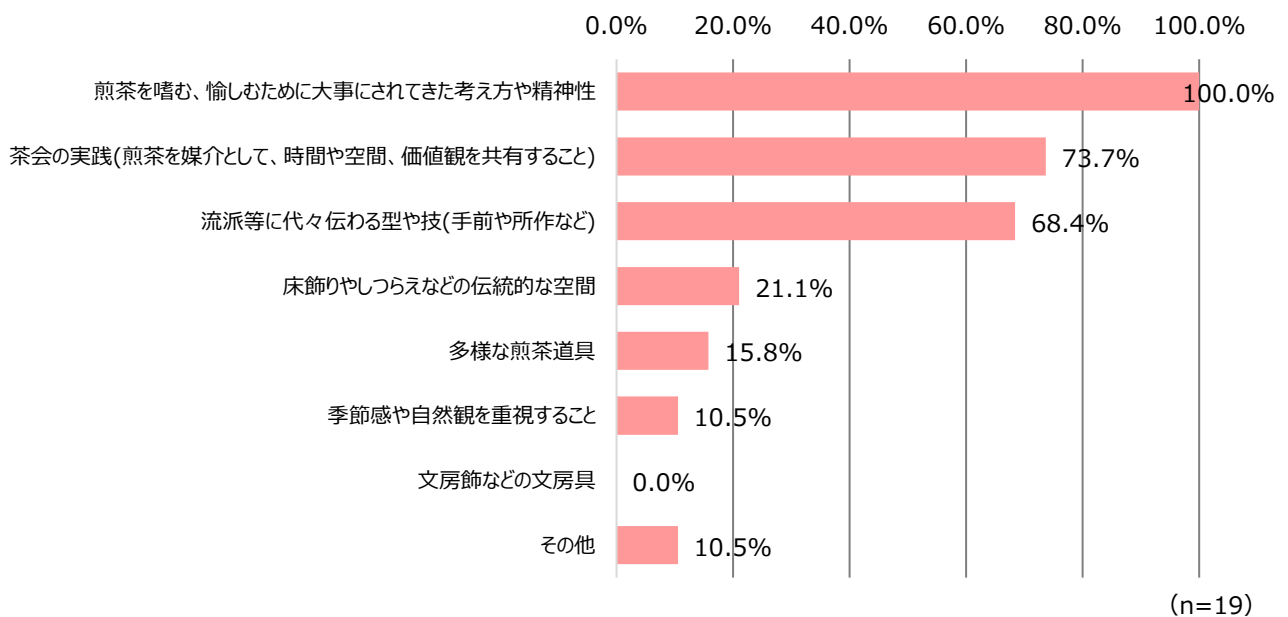


図1 「煎茶道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素

図1のとおり、「6. 煎茶を嗜む、愉しむために大事にされてきた考え方や精神性」について全団体が選択しており、次いで「2. 茶会の実践(煎茶を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること)」14団体(73.7%)、「1. 流派等に代々伝わる型や技(手前や所作など)」13団体(68.4%)と続き、あとの回答は比較的回答率が低くなっている。なお、「5. 文房飾などの文房具」を選んだ団体はない。

以下、各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答記述をまとめると、下記のようになる(回答がなかった「5. 文房飾などの文房具」を除く)。

「1. 流派等に代々伝わる型や技(手前や所作など)」13団体(68.4%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・煎茶を淹れるための手前や所作は、流派によって、また、用いる茶葉によってもそれぞれ全く異なるものである。これらは先人たちが、美味しい煎茶を淹れるために合理性や清潔さを基調としつつも、流派それぞれの煎茶に対する考え方や精神性に沿って整えられてきたものが、今日まで伝承されてきたものである。
- ・上記のような背景から、継承されてきた手前や所作を伝承していくことは、それぞれの流派の精神性や歴史を繋いでいく観点において、また、日本文化を継承していく上でも大事にしていく必要があるとされている。

【現状】

- ・各流派においては、自派において継承されてきた手前や所作などについて、定期的に講習会や研修会を開催するなどの機会を設けるなどして実践を続けており、継承に取り組んでいる。
- ・上記のような取り組みを行う中でも、現役で活躍する教授者・指導者の高齢化が進む一方で、若年者の入門が減少していることもあり、教授者・指導者の育成が人数の面や質の面で追いついていない、といった課題を抱えている。
- ・このほか、門人等への手前や所作についての指導が行き届いていない点や、門人等が自派の手前や所作の特質をうまく認識できていない点、門人等が手前を覚えることだけに追われてしまっている点を課題として挙げている。

【必要な取組】

- ・教授者及び指導者の育成に関する課題を挙げている流派においては、次世代の教授者を育成するその素地として、若年者が入門しやすいように夜の時間帯にも教室を開催するようなことを検討している場合や、現在行っている講習会や研修会を継続して行い、教授者・指導者の質を高めていきたいと考えている場合もある。
- ・この他、門人の指導方法について、テキストや動画などの教材を活用することで指導内容の質を高めていくことを検討している例や、自派の手前の特質を再確認するためのほかの流派の茶会への参加を門人に勧めているような取組例もある。

「2. 茶会の実践(煎茶を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること)」14 団体 (73.7%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・茶会は、日常から離れ、席主と客同士が対話を行う中で美的な感覚や感動を共有する場であり、それらは、先人たちが茶会や茶席を積み重ねてきたことで文化として高められてきたものと認識されている。
- ・また、茶会は煎茶を習う者にとって、実践を通じて客への心構えや手前や所作など煎茶にまつわる様々な事柄を学ぶ場であり、煎茶に関する様々な事柄を伝承していく上で重要な場としても捉えられている。それと同時に茶会は、広く一般に、煎茶に触れる機会を提供する場としても機能しており、煎茶を普及するために欠かせない場としての側面においても重要視されている。

【現状】

- ・各流派や団体において、規模の縮小などの変化はあるが、茶会は絶えず行われている。
- ・上記のような状況において、茶会を実施するにあたり、若い門人や会員への指導が行き届かない点や、席主を務めるだけの学習が足りていないといった点を課題として挙げ、その結果、茶会の実施や内容の充実が図ることが出来ていないと考える流派がある。
- ・また、茶会への関心が薄く一般客の来場が少なくなっている点が課題として挙げられているほか、茶会を開催するに適した会場が少ない現状について挙げている流派もある。

【必要な取組】

- ・門人や会員の指導不足等を課題として挙げる流派では、手前や所作などの習熟を行うための稽古の見直しや学習機会の充実が必要と考えている。
- ・茶会への参加者減少については、茶会の広報の充実を図ることを掲げている。また、茶会の会場についての課題を挙げる流派では公共施設に茶会を行うのに適した空間の設置について呼びかけることが出来ないか検討している。

「3. 床飾りやしつらえなどの伝統的な空間」4 団体 (21.1%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・煎茶道における床飾りやしつらえなどは、文人書画の掛幅や文人花、文房飾りなど、茶道とは異なる文人文化を総合的に表現するものであり、日本文化として継承されてきた伝統的な空間であるとされている。

【現状】

- ・床飾りやしつらえなどについては常に実践しているとの回答があったほか、茶会や茶席を開くのに適した伝統的な空間が見当たらないといった意見がある。

【必要な取組】

- ・現在続けているような床飾りやしつらえを継続しているとの回答のほか、研修会や講習会を開くことで質的な向上を目指していくといった回答がみられた。

「4. 多様な煎茶道具」3 団体 (15.8%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・流派において伝承されてきた多様な煎茶道具には、文人や作家の伝統的な美意識を反映したものが数多くあり、大事にしていく必要があるという意見とともに、茶会において煎茶道具を用いることで、実生活に活かす知識や工夫を学ぶことが出来る点も重視されている。

【現状】

- ・流派で伝承され、煎茶文化を支えてきた煎茶道具は一般にあまり知られていない現状にある。
- ・煎茶道具については、茶会などの実践の場等において用いているとのこと。

【必要な取組】

- ・煎茶文化や文人文化を支えてきた煎茶道具については、散逸を防ぐために美術館や博物館などに寄託し、見学会を開催する際は煎茶道具の展示解説を学芸員にお願いするなどして、煎茶に関する文化を一般に知ってもらうような取組を実施している例がある。

「6. 煎茶を嗜む、愉しむために大事にされてきた考え方や精神性」19 団体 (100.0%)

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・煎茶の精神は、売茶翁をはじめ文人達等、先人の煎茶家たちによって育まれてきたものであり、煎茶を喫するとともに、席に集う人々が会話や趣味を共有し、なごやかに清談を楽しむための考え方や精神性が受け継がれてきた、茶道と異なる喫茶の文化である。
- ・また、煎茶を喫することは、その茶味を楽しむだけでなく清談を通じた人と人の関係性や自我を大事にするものであることから、精神的な豊かさや心のゆとりを学ぶことが出来る。

【現状】

- ・各流派それぞれに、流儀の精神性や考え方に基づいて茶会の実践が行われている。また、門人や会員に対して、稽古や茶会の折に煎茶道の精神性や考え方を伝える機会を設けている。
- ・その一方で、時代の変化とともに精神性の捉え方や学ぶ姿勢などの変化、表面的な美しさ等に囚われがちになってしまうことなどもあり、精神性や考え方をしっかり伝えていくのが難しい状況にあると認識されている。また、煎茶道の独特の精神性や考え方自体が、世間一般にはあまり伝わっていないという現状も示唆されている。

【必要な取組】

- ・流派それぞれの煎茶道に関する精神性や考え方はいずれも大事なものであり、各流派において、伝承されてきた精神性や考え方を伝承・発信するための取組が進められている。
- ・流儀内における精神性や考え方の伝達については、しっかり活動ができる門人や会員を発掘していくことや、稽古や茶会を楽しむ中でも精神性や考え方の大事さを伝えることが出来る教授者の育成に取り組もうとしている。このほか、若い門人や会員に対して、稽古

において掛軸や古い文献を題材として、精神性や考え方の大切さやその内容を伝えていくことを検討している流派や、手前や所作を覚えるだけではなく、それらの背景にある精神性や考え方についても目を向けるために、研修会や講習会を通じて門人や会員に伝えていこうと取り組んでいる流派もある。

- ・また、世間一般にも煎茶道の精神性や考え方を伝える機会を増やしたいと考えている流派もあり、体験茶会などの取り組みを増やして若い人達にそれらを伝える取り組みを進めたり、大学の講義や社会人向けの講習に取り組んだりしている。

「7. 季節感や自然観を重視すること」2団体（10.5%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・煎茶を嗜んできた文人達が好んだ日本の季節感や自然感を学び、感じることを通じて、心の自由さやあり方、四季の大事さを現代に生きる人にも感じてもらえる。

【現状】

- ・流儀の中で季節特有の手前がある中で、その意味などを説明しているほか、季節の菓子や盛物等から季節感や自然感を学ぶ機会を設けている。
- ・一方、花屋に行くと、日本の四季を感じることが出来る和花を取り扱っていることが少なくなっていることが指摘されている。

【必要な取組】

- ・手前や所作などの上達は稽古の回数により深めていくことができる一方、季節感や自然感の在りようについては、門人や会員がどのように深めていくことができるのかを検討する必要がある
- ・季節感や自然感を感じる上で、和花の栽培や販売の拡大が必要ではと考える流派もある。

「8. その他」2団体（10.5%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- ・煎茶道を通じて日本文化を学ぶことで豊かな人間性の育成が図られるとともに、国際人としての日本のアイデンティティを守る一つの形になっているとの回答のほか、設問3全ての選択肢が複合的に関連しあうことで煎茶道を形成しているものであり、いずれも次世代へ継承していく上で重要な要素であるという回答もみられた。

【現状】

- ・以前に比べて、日本人が煎茶道等を含めた日本文化を学ぶ機会が減少しているとの現状が示唆されている。

【必要な取組】

- ・日本文化の大切さを日本人が再認識する機会を作るためにも、海外における日本文化の発信が取り組みとして必要だという回答もあるほか、煎茶文化について様々な視点が煎茶道を形作るものであり、複合的に煎茶を楽しむための環境を創造していく取り組みが必要という回答も見られる。

② 煎茶道を次世代へ伝えていく上で、課題だと感じていること

「煎茶道を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、アンケート回答のあった 20 団体のうち 18 団体から回答が得られた。回答としては、「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」という回答が 10 団体 (55.6%) で最も多く、次いで「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」の 9 団体 (50.0%) となった。「課題はない (解決した場合を含む)」との回答は 1 団体 (5.6%) にとどまった。

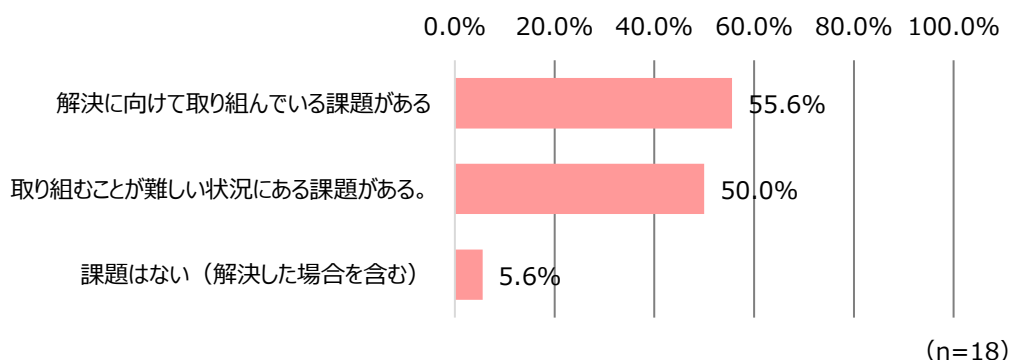


図 2 煎茶道を次世代に伝えていく上で、課題だと感じていること

上記を選択した団体が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容もしくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「1. 解決に向けて取り組んでいる課題がある」10 団体 (55.6%)

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

・会員の高齢化や会員数の減少

流派会員の高齢化や入門者数の減少に伴う会員数の減少を課題としており、それらの課題について、高齢化した会員でも茶会に参加しやすいように立礼席の導入を検討している場合や、入門者数を増やす取組として、Instagram や YouTube での広報を行うほか、体験茶会等も開いている。

・次世代の育成や門人や会員への指導の充実

次の世代を見据えた門人・会員の育成や指導内容の充実を課題としており、教授者の育成に力を入れ個別指導を行っている場合や、特別研修会等を開催するなどの取り組みが行われている。

・煎茶文化の発信

お茶そのものに対する文化としての認識の低さや、煎茶文化自体があまり知られていない点を課題としており、大学等の機関での講演活動や、SNS やデジタルコンテンツを用いた煎茶道の情報発信に取り組んでいる。

「2. 取り組むことが難しい状況にある課題がある」9団体（50.0%）

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

・ 門人や会員等、煎茶道を学ぶ人や機会の減少

煎茶道を学ぶために入門する人が減少していることに加え、会社等でのサークル活動等も行われなくなっているなど、煎茶文化に触れる機会自体が減少していることを課題として挙げている。取り組み等については、煎茶道を体験してもらう前に、煎茶自体を美味しくいただくことに関心を向けてもらう必要があるが、すぐには煎茶道への入門につながるものではないので、暗中模索しながら検討を進めているとの回答があった。

・ 一般の方が参加可能な催事の開催

広く煎茶道や煎茶文化を知ってもらうために、一般参加可能な催事（茶会）を開くことを課題として挙げているが、単独での開催は難しいため、文化芸術団体等に所属して催事に参画や、ほかの伝統文化とのコラボレーションした催事の開催が可能かどうか検討しているが、具体的な行動までには至っていない。

（3）新型コロナウイルス感染症の影響について

① 影響の程度

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、アンケート回答のあった20団体のうち19団体から回答が得られた。回答としては、「2. 大きな影響はあったが、団体の存続にまでの影響ではなかった」が11団体（57.9%）と多く、次いで「3. ある程度影響があった」、「1. 極めて大きく団体・流派の存続にまで影響があった」が共に4団体（21.1%）と続く。「4. あまり／ほとんど影響はなかった」という回答は無かった。

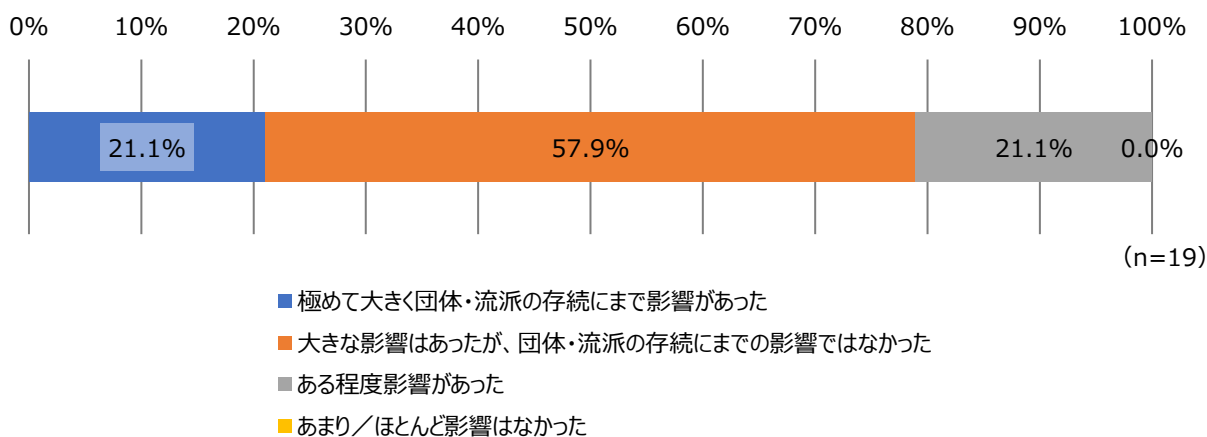


図3 新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか

② 具体的な影響

- ・アンケート回答のあった19団体のうち、12団体（63.2%）が茶会などの催事や稽古、講習会を中止したと回答している。
- ・10団体（55.6%）は、コロナ禍を機に稽古をやめてしまったと門人・会員がいると回答しており、流派支部の解散や社中の解散してしまったとの回答もあり、流派の活動に大きな影響を及ぼしていることがわかる。
- ・茶会や稽古が出来なかった影響は、門人・会員の指導や育成が滞ってしまったことや、茶会等が中止になり煎茶道具の発注がなくなったことで、煎茶道具を製作する職人が活動停止した、廃業した等の事態にまで及んでいたことが回答から確認できる。
- ・コロナ禍が落ち着いたころに、感染症対策を行いながら茶会や稽古、講習会等を再開した団体が多いが、平時と比べて参加者ははるかに少なかったとの回答が多い。

③ 実施した対応策

- ・コロナ禍が落ち着いたころから、マスクの着用、消毒液の設置や空気清浄機の導入等の対策を行いながら、茶会や稽古、講習会が行われていたことがわかる。
- ・また、オンラインを活用した稽古や講習会も開催されており、コロナ禍以前に比べるとオンラインでの参加者は増えたと回答している団体がある一方、会員が高齢であるため、デジタル機器に苦手意識があり、オンラインで実施した講習会は参加者が減少したと回答している団体もある。

④ 復旧の程度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた団体に対し、現状（令和5年末）における復旧の程度を聞いたところ、回答未記入であった2団体を除く18団体からの回答は、「ある程度影響は残っている」が8団体（44.4%）で最も多く、「いまだに大きな影響が残っている」、「影響は概ね払拭されている」が共に5団体（27.8%）となっており、いまだに新型コロナウイルス感染症の影響が残っているという結果になった。

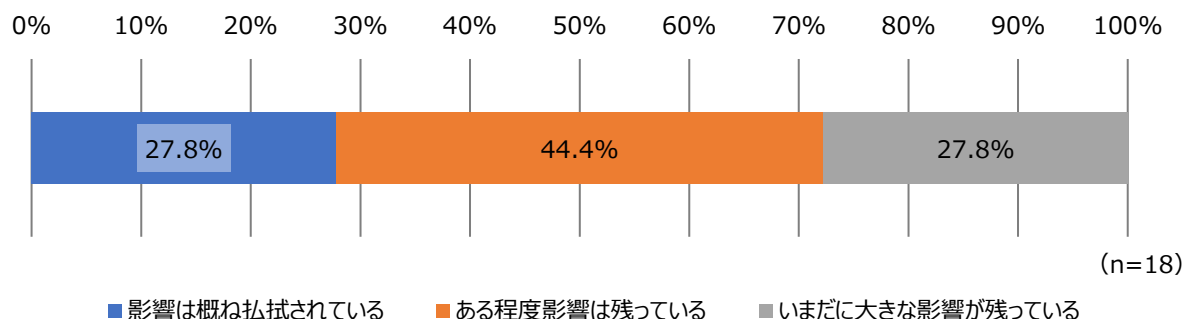


図4 復旧の程度について

1-3 まとめ

団体の活動内容

今回の煎茶道に係る横断的団体及び流派を対象として実施したアンケート調査の結果、様々な活動が行われていることが回答からうかがえる。

まず、煎茶道に係る団体の多くが茶会を開催しており、団体単独で開催するものから、流派同士での共同開催、自治体が主催する催事への参加等、開催の形式はさまざまにあるが、各団体ともに年に数回程度開催している。また、多くの団体で、主に門人・会員等を主な対象とした研修会等を実施しており、教場や教室で行う稽古以外に、手前や作法、所作をはじめ煎茶道に係る様々な文化について学び習得する機会を設けている。この他、煎茶道に係る文化を一般の人へ知ってもらうための講演会や講師派遣を行っている団体もあり、大学や高等学校、小学校等で体験茶会や講演を実施している場合や、部活動の指導を目的として講師派遣を行っている。

上記のような活動に加えて、団体の門人・会員向けの機関誌や会報誌等を発行することで、団体の行事や催事等の周知を行っている。また、HP を設け団体の概要や教室の紹介、催事や行事の案内・報告を行う団体や、SNS などを活用して催事の紹介や手前の動画配信を行う等、一般の方に煎茶道を知ってもらうために様々な形式で広報活動が行われている。

これらの活動を行っていくにあたり、各団体における課題の共通点として、門人・会員の高齢化に伴う引退や入門者の減少に伴う、門人や会員総数の減少が挙げられる。多くの回答で、門人・会員の高齢化が進んでおり、教授者が引退したりしていること、これに加え、若い世代の入門者が減少していることによって、流派の門人・会員の総数が減少していることが指摘されており、団体が行っている様々な活動や団体そのものの運営にも支障が出て始めていることが回答結果に表れている。

このような課題を踏まえて、多くの団体では、煎茶道に係る文化を一般の方に広く知ってもらうことを通じて、煎茶道の愛好者や入門者や会員となる人を増やすための取組を実施・検討している。例えば、茶会などの催事の周知に力を入れ参加者数を増やす取組や、一般向けの講演会や体験茶会等の機会を増やすことで、煎茶道自体を知ってもらう、体験してもらうような機会の創出をしようとしている。また、HP や SNS の活用による広報発信を進めていき、一般の方に煎茶文化を知ってもらう等の取組も実施されている例も多く、未実施の団体でも今後の実施を検討している場合がある。

煎茶道の継承について

「煎茶道を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、「煎茶を嗜む、愉しむために大事にされてきた考え方や精神性」、「茶会の実践(煎茶を媒介として、時間や空間、価値観を共有すること)」、「流派等に代々伝わる型や技(手前や所作など)」、「床飾りやしつらえなどの伝統的な空間」、「多様な煎茶道具」、「季節感や自然観を重視する

こと」の順で回答の割合が高い。各要素について、大切であるとする理由はおおよそ以下のとおりであった。

- ・煎茶を嗜む、楽しむための考え方や精神性については、茶道と異なる喫茶の文化として、売茶翁をはじめ先人の文人達によって育まれてきたもので、茶味を楽しみ、清談を通じて人と人の関係性や自我を大切にする文化である。
- ・茶会の実践については、席主と客が対話する中で美的な感覚や感動を共有する場として文人たちにより文化として高められてきたものとして重要であり、また、門人や会員にとっては実践の場、一般への普及機会としての側面もある点においても重要である。
- ・流派等に伝わる型や技については、先人たちが美味しい煎茶を喫するために、合理性や清潔さ、精神性に沿って整えられ伝承されてきたものであり、それらを継承していくことは、それぞれの流派の精神性や歴史を次世代へつないでいく観点においても重要である。
- ・床飾りやしつらえについては、文人書画の掛幅や文人花、文房飾りなど文人文化を総合的に表現するものであり、日本文化として継承されてきた伝統的な空間として大事である。
- ・多様な煎茶道具については、文人や作家の伝統的な美意識を反映したものであり、実生活に活かす知識や工夫を道具の扱いから学ぶことが出来る点についても重要なものと捉えられている。
- ・季節感や自然感については、四季を忘れがちな現代において、煎茶を嗜んできた文人達が好んできた日本の季節感や自然感に触れることで、四季の大事さや心の自由さを感じることが出来るため重要であると捉えられている。

これらの要素を次世代に守り伝えていく必要がある中で課題としては、団体に所属する門人や会員の高齢化と会員数の減少について回答している団体が多い。また、これに関連して、次世代の門人や会員への指導の充実や、煎茶文化の世間一般への発信についても課題と感じている団体が多い。

課題を解決するための取組としては、煎茶文化を広く周知し、入門者を増やして行くために、体験茶会などの開催や SNS を活用した広報活動の展開が行われているほか、既に門人や会員として活動している人々向けに特別研修会等を開催することで、煎茶文化を深く学ぶための機会の提供が行われている。

新型コロナウイルス感染症の影響

アンケート回答では、新型コロナウイルス感染症の影響について、6割以上の団体が活動等に大きな影響はあったが、団体・流派の存続にまでの影響ではなかったと回答している。また、具体的

な影響としては、茶会などの催事や稽古、講習会等を中止したとの回答が多く見られる。

なお、半数近くの団体は、コロナ禍に伴う団体の活動等の休止に伴う形で、門人や会員を辞めてしまう、支部や社中が解散した、といった事態が発生したことが回答結果から確認できる。コロナ禍以降の団体活動等への影響については、7割以上の団体でいまだに影響を拭き切れていない状況にあることも分かった。

2 節 煎茶道教室の活動について

2-1 煎茶道教室へのアンケート調査の実施概要

煎茶道の活動の詳細な実態を把握するため、煎茶道の教室を対象とし、各教室の具体的な活動状況や、指導内容とその成果、教室の運営、教室外との関わりについての概況把握を目的としたアンケートを実施した。

また、調査年度（令和5年度）においてははまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	199 教室
調査期間	令和5年（2023）12月4日（月）～令和5年（2023）12月25日（月）
回収数	90 教室（回収率：45.2%）
設問項目	<p>Q 1：教室の概要</p> <p>Q 2：教室の活動状況について</p> <p>①教室の開催場所</p> <p>②座礼または立礼</p> <p>③炭の使用について</p> <p>④講師の人数</p> <p>⑤講師の属性</p> <p>⑥教室で指導を受けている生徒の人数</p> <p>⑦教室で指導を受けている生徒の属性（性別・人数）</p> <p>⑧教室で指導を受けている生徒の平均受講回数</p> <p>⑨教室で指導を受けている生徒の平均受講金額</p> <p>Q 3：教室での指導について</p> <p>①指導内容</p> <p>②煎茶道とあわせて指導している内容</p> <p>③教材等の利用</p> <p>④煎茶道の教育や指導の目的</p> <p>⑤④の目的達成のために実施している教育や指導、工夫している点</p> <p>⑥⑤による効果や成果</p> <p>Q 4：教室の運営について</p> <p>①生徒の募集方法</p> <p>②教室見学や体験する機会の提供等</p> <p>③②の具体的な取組内容</p> <p>④教室運営上の課題、解決のために行っている対策</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症の影響と実施した対策</p> <p>Q 5：教室外との関わりについて</p> <p>①教室の外で行う活動内容</p> <p>②連携している団体や組織</p> <p>③教室所在地の地域コミュニティとの連携</p>

（調査結果を参照する際の注意事項）

- ・集計は小数点第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

2-2 煎茶道教室へのアンケート調査の結果概要

(1) 教室の活動状況について

① 教室の開催場所

教室の開催場所については、回答のあった88教室のうち、「自宅」が53教室(60.2%)で最も多く、次いで「自宅以外に稽古場を借りている」34教室(38.6%)、「カルチャーセンターの講座として教室を開催している」17教室(19.3%)、「自宅以外に稽古場を所有している」16教室(18.2%)、「オンラインで講座を開いている」6教室(6.8%)となっている。「その他」と回答した教室は全体の8教室(9.1%)である。

「その他」の回答として、寺院の部屋を借りている例や、ビルの一つの階を借りそこに茶室を設えて稽古場としている例が見られる。

なお、88教室のうち28教室(31.8%)は複数の場所において教室を開いている。

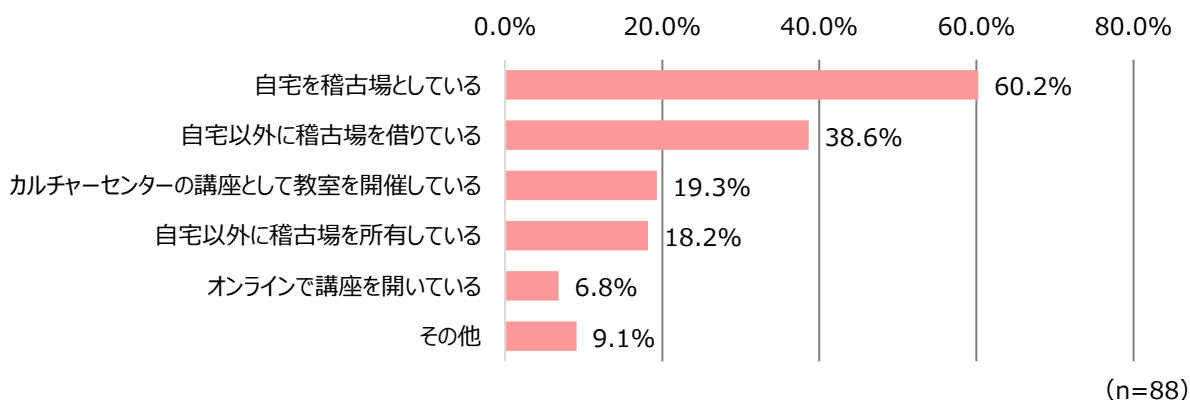


図5 教室の開催場所

② 座礼または立礼

「座礼(畳・和室)を中心に指導・稽古をしている」教室が61教室(70.1%)、「立礼(机・洋室)を中心に指導・稽古をしている」教室が48教室(55.2%)、「その他」が13教室(14.9%)という回答結果となった。

なお、座礼・立礼どちらの選択肢にも回答している教室は30教室(34.5%)あることに加え、「その他」の回答において座礼と立礼どちらの指導も行っているとの回答している8教室(9.2%)も含めると、決して少なくない教室において、どちらの方式でも指導していること確認できる。

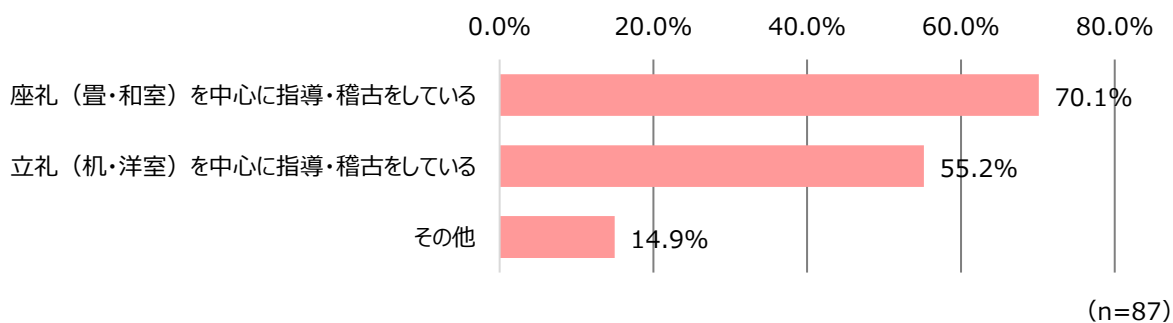


図6 座礼・立礼の実施状況

③ 炭の使用について

炭を使用している教室は、回答のあった 86 教室のうち 52 教室（60.5%）となっており、全体の半数以上の教室で炭を用いて稽古が行われている。なお、炭を使用しないと回答している教室からは、稽古場の事情で火器を使用できないため、電熱器などを使用しているとの回答も見られたことから、何らかの事情で炭を使用して稽古が出来ない場合があることが確認できる。

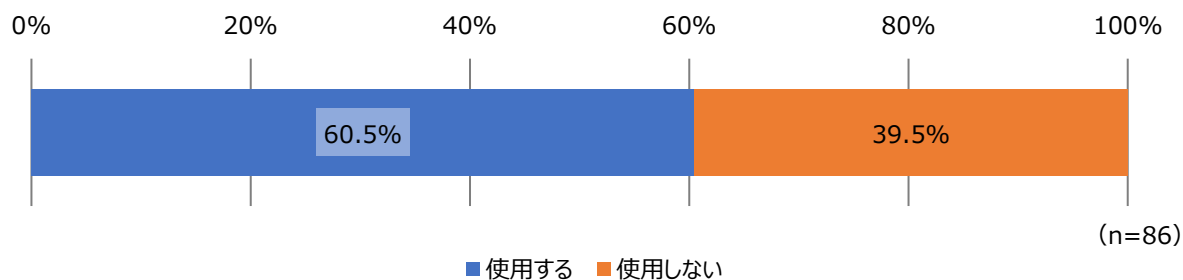


図 7 炭の使用状況

④ 指導者の人数

教室での指導者の人数については、回答のあった 85 教室のうち、53 教室（62.4%）の教室が指導者は 1 人であると回答しており、2 人以上で指導を行っている教室が多くないことがわかる。

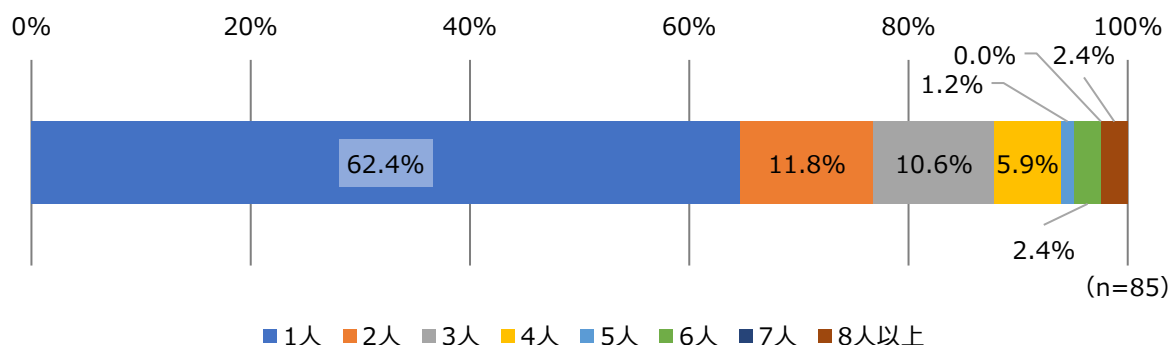


図 8 指導者の人数の分布

⑤ 指導者の属性

教室で指導を行っている者の属性については、全体の 95.2% が煎茶道に関する免状等を有していることが分かる。「その他」の回答としては、会社役員や法人役員、僧侶や医師、飲食店経営などの自営業、茶道・華道の教授者という回答が見られた。

また、免状の有無を問わない場合の属性については、図にあるように「専業主婦・主夫」が 29.8% と比較的多く、次いで「会社員」の 11.9%、「パート・アルバイト」の 7.1%、「公務員・教職員」4.8%、「学生」の 2.4% となっている。なお、指導者が免状を所有していると回答している中には、「専業主婦・主夫」（28.8%）や、「会社員」（12.5%）を合わせて選択している例もある。

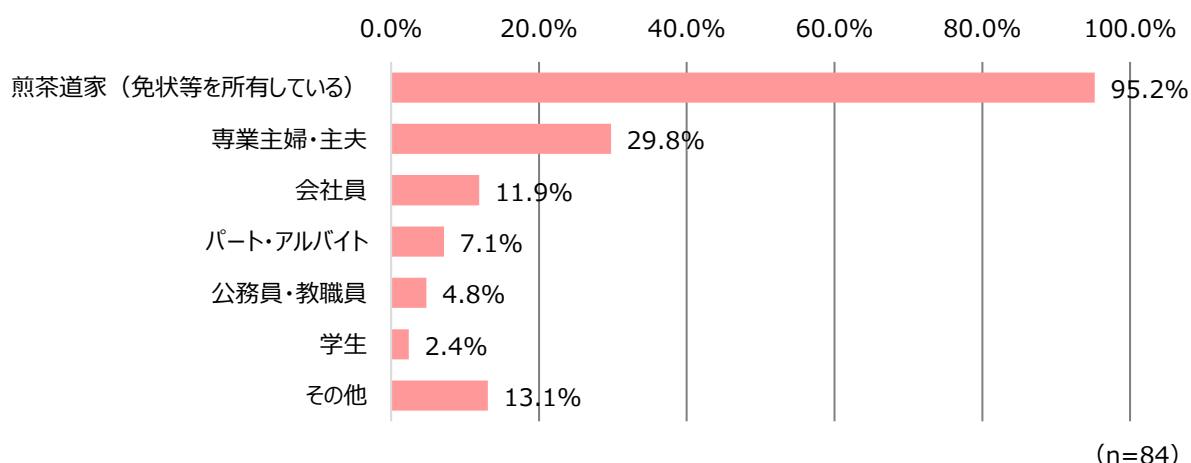


図9 指導者の属性

⑥ 教室で指導を受けている生徒の人数

教室で指導を受けている生徒の人数としては、1～9人の回答が58.3%と最も多く、次いで10～19人の27.4%と続き、生徒数20人未満の教室が85.7%を占めている。

なお、1教室が抱える生徒の最大人数としては、流派本部が開講している教室の生徒数260人である。

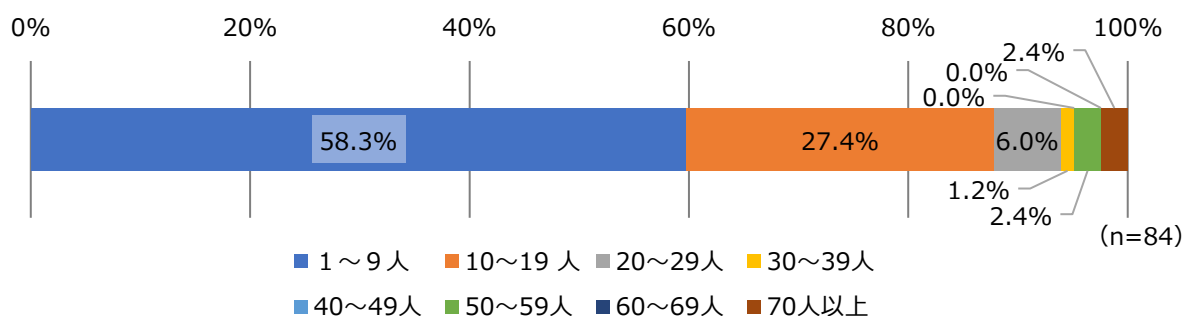


図10 生徒の人数分布

⑦ 教室で指導を受けている生徒の属性（年代）

生徒の年齢で最も多いのは70代以上の23.8%で、次いで50代の23.4%、60代の19.0%となっており、50歳以上の生徒が全体の66.2%を占めている。一方、10代・20代が全体に占める割合は9.5%と非常に少ないことが回答結果から分かる。

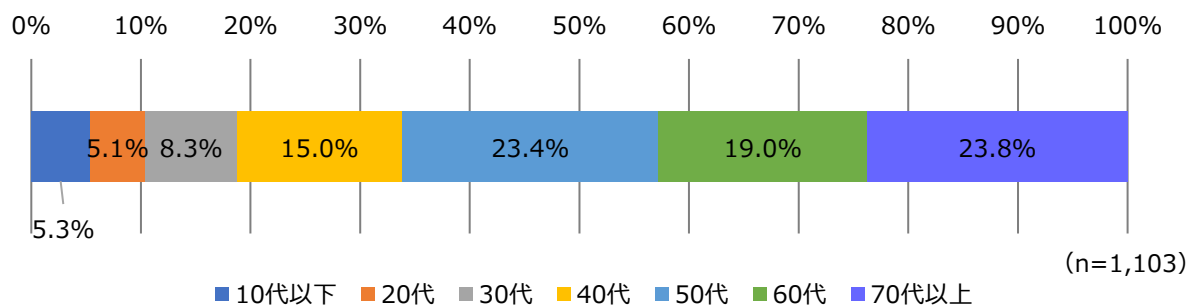


図11 生徒の年代分布

⑧ 教室で指導を受けている生徒の属性（性別）

生徒の約8割が女性、2割強が男性となっている。

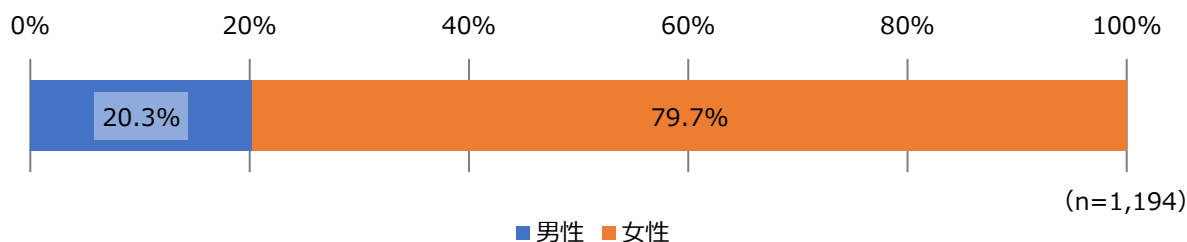


図 12 生徒の性別分布

⑨ 教室で指導を受けている生徒の平均受講回数

教室のひと月当たりの平均受講回数は、「1～4回」との回答が全体の93.2%となっており、ほとんどを占めている。

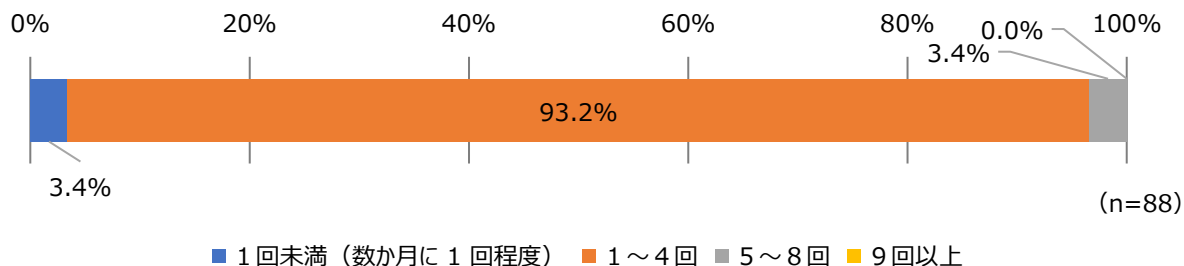


図 13 平均受講回数の分布

⑩ 教室で指導を受けている生徒の平均受講金額

ひと月当たりの平均受講金額は、「5,000～1万円未満」の52.3%、「5,000円未満」の38.6%と続く。

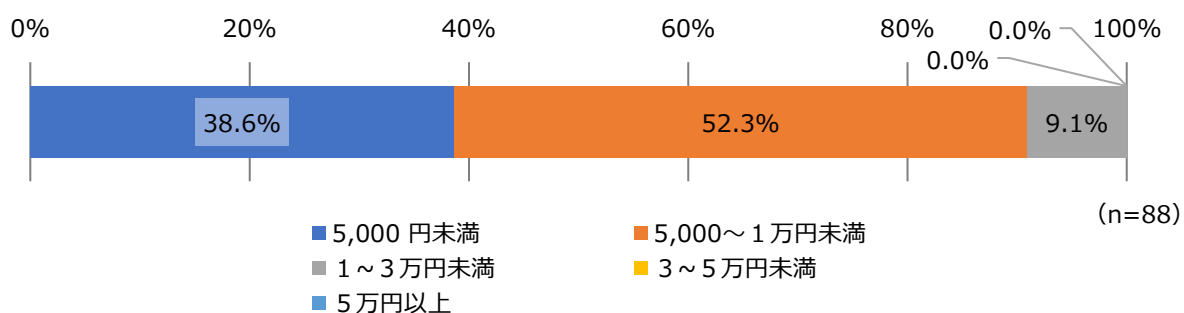


図 14 平均受講金額の分布

(2) 教室での指導について

① 指導している内容

教室において行われる指導内容については、「所作」については100%、「茶道具の取扱い方」については86教室(98.9%)で指導しており、「茶会の流れ」については76教室(87.4%)と若干下がる。また「煎茶の歴史」について指導している教室は63教室(72.4%)となる。

「その他」として回答があった例としては、「文人趣味」、「煎茶道に対する精神性、心構え」と言った煎茶道に関する精神性や思想性をはじめ、「漢詩文」、「日本の古典文学」と言った古典文学についての知識、「禅語」「仏教思想」などの仏教に関連すること、「文人花」、「床飾り」、「床の間の設え」などの茶会や茶席の設えに関する知識や方法、「椅子の座り方、姿勢、立ち方、歩き方」や「食事作法」などの礼儀作法、「和服」、「着物の着付け」などの和装に関連する事柄等が指導されていることが見える。

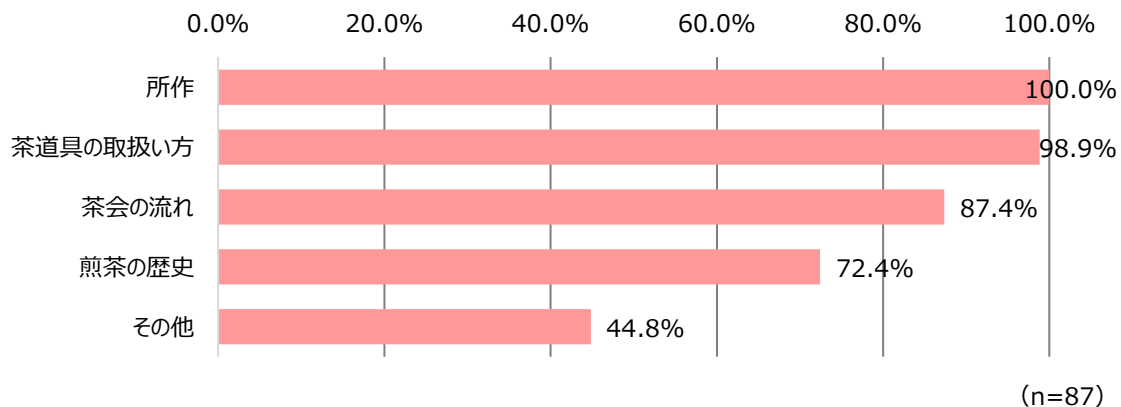


図15 指導している内容

② 煎茶道とあわせて指導している内容

煎茶道とあわせて指導している内容として最も多いのは「お花」の48教室(69.6%)で、次いで「盛物」の42教室(60.9%)、「抹茶」の15教室(21.7%)と続く。

「その他」の回答としては、「床の軸について」などの掛軸の扱い方や、「着付」などの着物の着方、「平常のマナー」といった礼儀作法などが見られる。

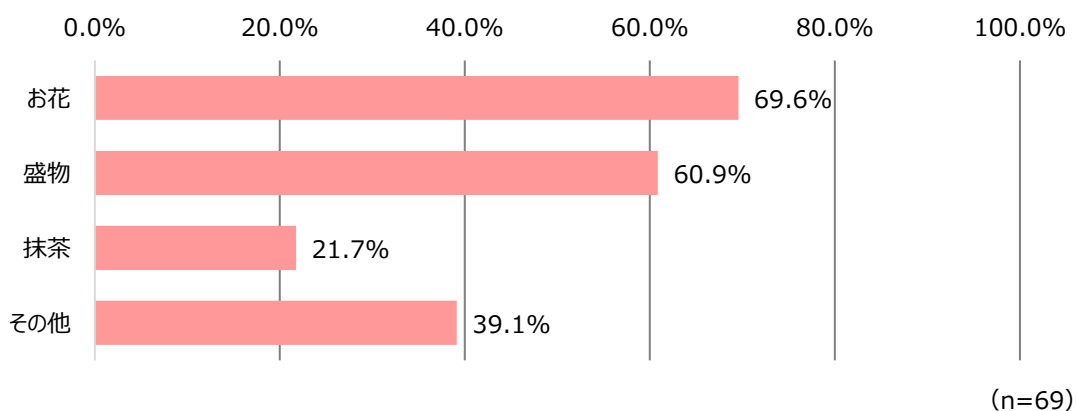


図16 あわせて指導している内容

③ 教材等の利用

教材等の利用については、回答のあった 85 教室のうち 48 教室 (56.5%) が利用しているとの回答結果であった。具体的には「流派の教本、テキスト」といった所属流派が発行している教本を利用している場合をはじめ、「講師作成プリント」のような、教室を主宰する指導者がオリジナルでプリントやテキストと作成している例があるほか、指導内容によって煎茶道具を使っているとの回答も見られる。

また、教本やテキスト等と併用して YouTube にアップロードした動画やビデオを指導の際に用いている教室があることも確認できる。

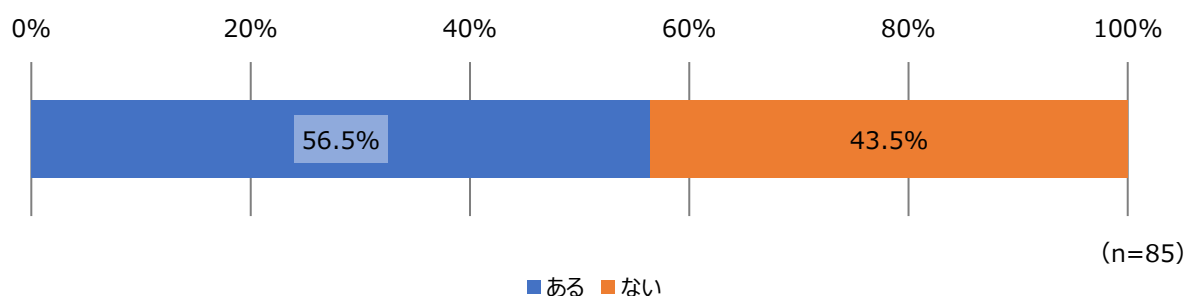


図 17 教材の利用状況

④ 煎茶道の教育や指導の目的

煎茶道の教育や指導の目的についての自由記述を分類したところ、「煎茶道の手前や所作、立ち居振る舞いを身に付けてもらう」、「煎茶の美味しさを知る、美味しいお茶を淹れられるようになる」と言った目的を掲げる教室がともに 42 教室 (50.0%) で最も多く、「煎茶道を通じて日常生活や心を豊かにすること」の 26 教室 (31.0%)、「煎茶道、文人趣味を知ってもらう」の 23 教室 (27.4%) と続く。

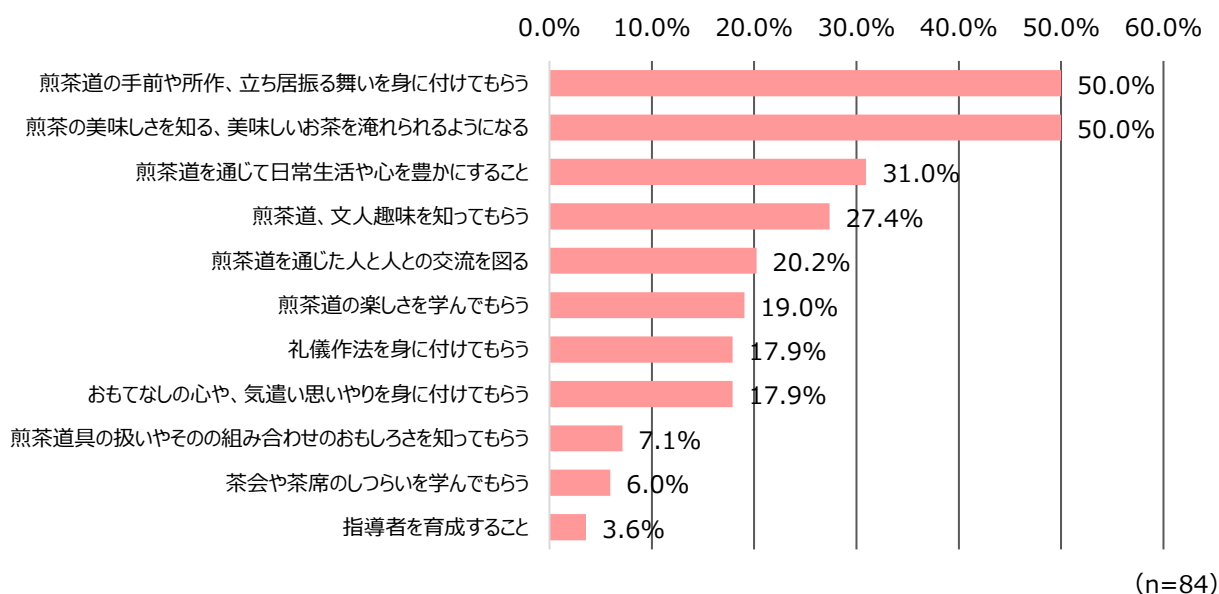
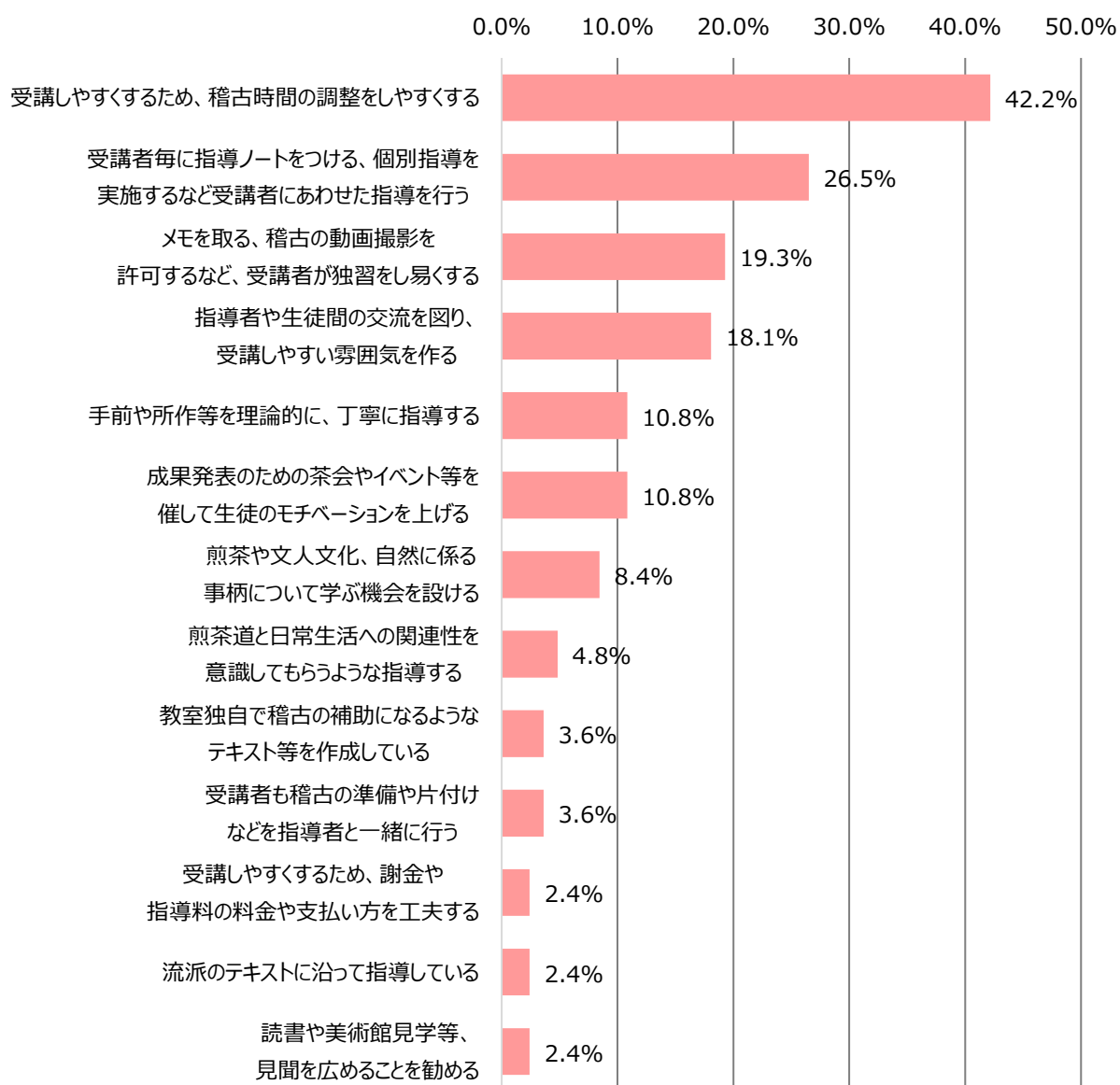


図 18 教育や指導の目的

⑤ ④の目的達成のために実施している教育や指導、工夫している点

上記の目的を達成するための教育や指導、工夫している点の自由記述を分類したところ、回答で多いのは、「受講しやすくするため、稽古時間の調整をしやすくする」と言った主旨の回答が 35 教室 (42.2%) と最も回答比率が高く、次いで「受講者毎に指導ノートをつける、個別指導を実施するなど受講者にあわせた指導を行う」の 22 教室 (26.5%)、「メモを取る、稽古の動画撮影を許可するなど、受講者が独習をし易くする」の 16 教室 (19.3%)、「指導者や生徒間の交流を図り、受講しやすい雰囲気を作る」の 15 教室 (18.1%) と続き、通いやすい教室、受講者や生徒個人個人に寄り添った指導が重視されていることが分かる。

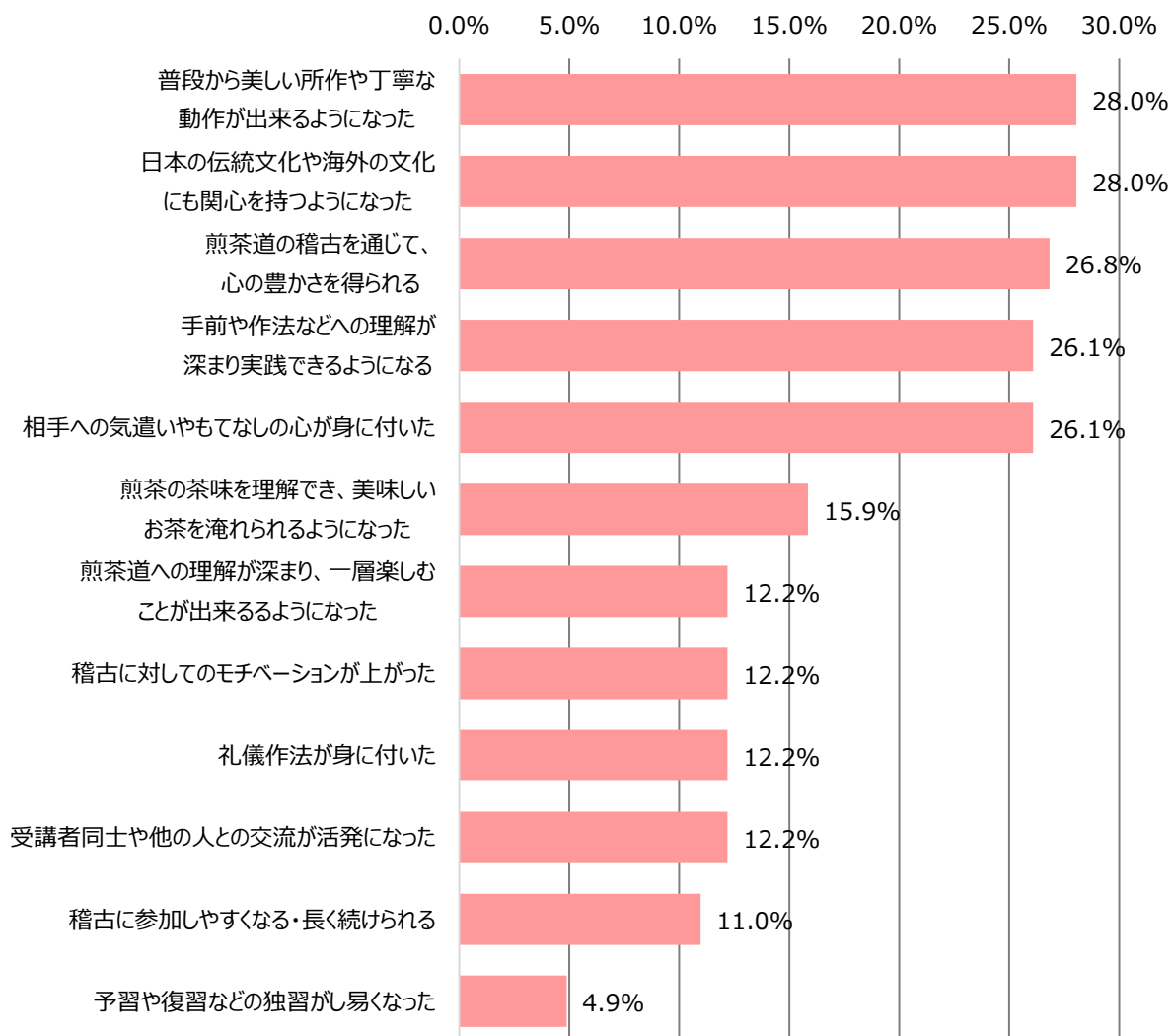


(n=83)

図 19 教育や指導、工夫している点

⑥ ⑤による効果や成果

成果について述べた自由記述を分類したところ、「普段から美しい所作や丁寧な動作が出来るようになった」、「日本の伝統文化や海外の文化にも関心を持つようになった」という主旨の内容が 23 教室 (28.0%) が回答されており最も高い割合となった。次いで「煎茶道の稽古を通じて、心の豊かさを得られる」が 22 教室 (26.8%)、「手前や作法などへの理解が深まり実践できるようになる」、「相手への気遣いやもてなしの心が身に付いた」が 6 教室 (26.1%) となっており、④の指導目的や⑤の指導内容や工夫と成果との関連性が窺える。



(n=82)

図 20 効果や成果

(3) 教室の運営について

① 生徒の募集方法

回答のあった 85 教室のうち、生徒の募集方法で最も回答が多かったのは、「受講者からの紹介」の 66 教室 (77.6%) で、次いで「所属する煎茶道団体のホームページを利用している」の 39 教室 (45.9%)、「教室のホームページを開設している」23 教室 (27.1%)、「連携している団体・学校・

企業・カルチャーセンターなどを通じて募集している」22 教室 (25.9%)、「SNS を利用している」16 教室 (18.8%) と続いている。

「その他」の回答として、茶会で宣伝をしたり、茶会参加者から紹介を受けたりしているという回答が3 教室からあったほか、1 教室からは告知サイトを活用して生徒の募集を行っているとの回答も見られた。

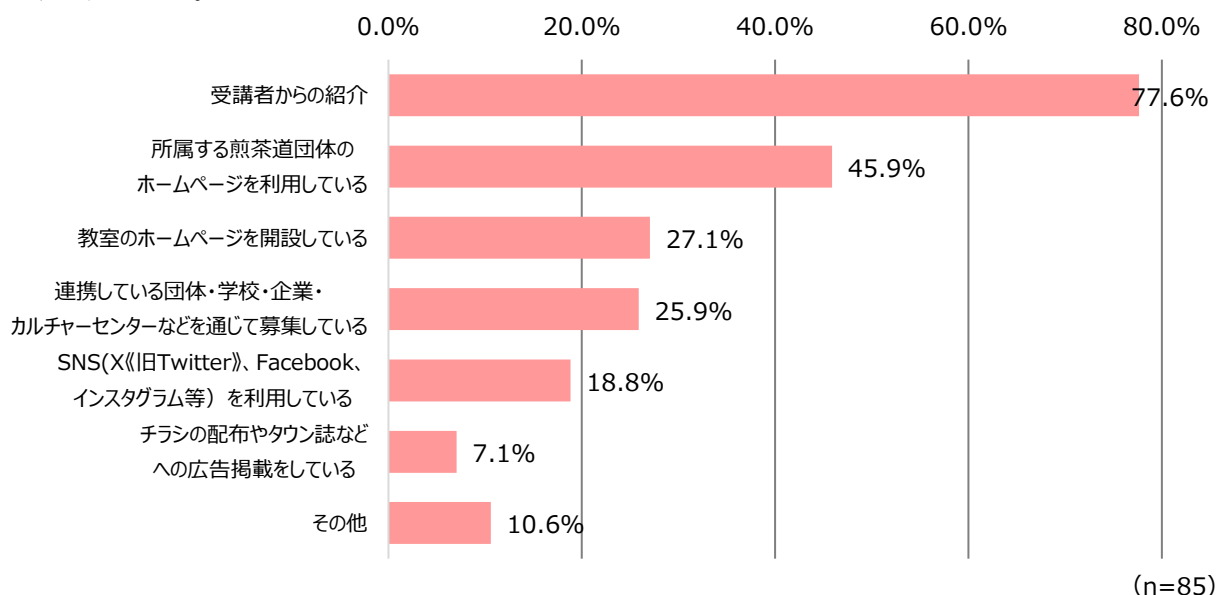


図 21 生徒の募集方法

② 教室見学や体験する機会の提供等

回答のあった 87 教室のうち 71 教室 (81.6%) で教室見学や体験機会を提供している。実施している内容としては、入会希望者に随時見学や体験をさせたり、定期的に体験会を実施したりしている場合が多い。

なお、体験機会を提供している 71 教室のうち、24 教室 (33.8%) では地域のイベントでの茶会の実施、公民館などを借りてのワークショップの実施、提携している寺院において有料で煎茶を出すなど、教室外での煎茶体験の会やイベントを実施している。

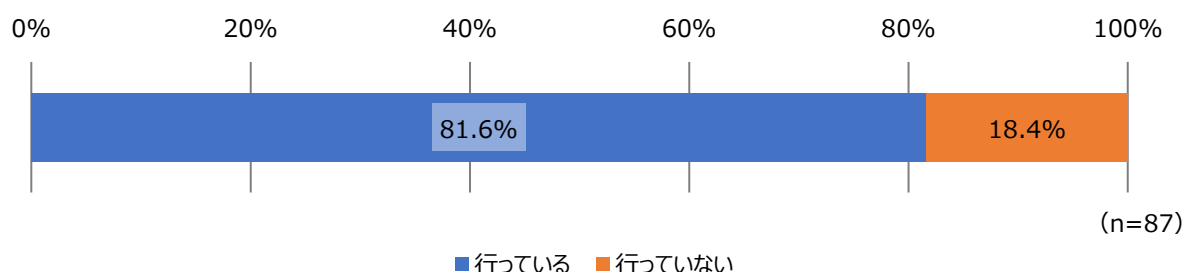


図 22 見学・体験の提供比率

③ 教室運営上の課題、解決のために行っている対策

教室運営における課題としては、教室に通う生徒の高齢化が進んでおり教室を辞める人が増えているとともに、若年層がなかなか入門してこないこともあり、結果として教室に通う生徒数自体が減少している点を課題として挙げている教室が多い。

これらの課題について、教室によっては、若い世代に入門してもらうために、体験茶会などを行う、月謝制度ではなく稽古を受ける都度に稽古代を払う方式を取る、教室で実施している稽古内容や料金などを明示しておくなどの取組を行っているところもあるが、現状では取組などを行っていない、取組を検討していると回答している教室も一定数ある。他方、高齢の生徒が増えている点について対策を行っている教室もあり、座礼席を設けて足を悪くしている方でも稽古に参加しやすいように対応している教室も多く見られる。

また、若い世代の入門者が少ないことに関連した課題として、そもそも若い世代を含めて、煎茶道を知らない人が多く、認知度自体が低いのではないかと、言った課題を挙げている教室も多い。この課題についても、体験茶会などの開催を行う、HP や SNS で発信する、出張講義等の依頼を積極的に受けるなど、煎茶道の周知や発信に関する取組を行っている教室がある一方、対策を検討しているとの回答も多く見られる。

次に、稽古場の確保についての課題が挙げられており、公民館等の公共施設を借りて教室や講座を行う場合、月謝や稽古料を取るような教室等は開催できない点、賃料が割高に設定されているので、稽古場の確保が難しいといった意見がある。また、自宅を稽古場としている場合、生徒を広く募集したいと思う反面、防犯上の観点から自宅の場所など公開するのは難しいと言う回答も見られる。後者については生徒からの紹介による入門等で対策を取っているとの回答が見られた。

④ 新型コロナウイルス感染症の影響と実施した対策

回答のあった 83 教室のうち、影響がなかった／あまりなかったという回答は 3 教室にとどまる（コロナ後稽古場を開いた 1 教室を含む）。新型コロナウイルス感染症について何らかの影響があったと回答している教室では、茶会のみ休止にとどまったところもあるが、ほとんどの教室では一定期間、稽古自体を休止せざるを得なかったと回答している。中には 3 年間稽古を休止したという回答も見られた。また、新型コロナウイルス感染症を契機として、教室に通っていた生徒が辞めてしまったという回答も多く見られた。

茶会や稽古を行った際の感染症対策として、手指の消毒やマスクの着用、室内における換気の徹底、参加者の密集を避けるといった一般的な感染症対策が行われていたことに加えて、煎茶を客人へ出す時は、茶碗の煎茶を紙コップに移し替えて飲むようにしてもらったり、個人の茶碗を持参してもらったりするなどの対応を実施していた教室があるほか、和菓子は個別包装で出して、その場では食べずに持ち帰って食べてもらうような形をとっていたとの回答も多い。この他、茶巾ではなくペーパータオル等を用いて道具を拭う、使い終えた道具は熱湯消毒を徹底するなどの取組が行われていたことが回答から分かる。

感染症対策以外の取組としては、オンラインを活用した取組を行っていたとの回答が 4 教室からあり、Zoom を使って講座や稽古を行ったり、オンライン茶会を実施したり、手前の実演及び解説動

画を YouTube で共有して生徒が参照出来るようにして稽古の補助とするような取組も行われていたことが確認できる。

(4) 教室外との関わりについて

① 教室の外で行う活動内容

教室の外で行う活動としては、回答のあった 86 教室のうち、「流派の研修会や講習会への参加」が 75 教室 (87.2%) と最も多く、次いで「教室外での茶会の開催 (教室が主催・共催するもの)」の 70 教室 (81.4%)、「所属団体以外が主催する講演会や勉強会への参加」41 教室 (47.7%)、「流派機関誌への茶会記の投稿」30 教室 (34.9%)、「学校教育機関への講師派遣」26 教室 (30.2%)、「SNS・YouTube 等での情報発信」24 教室 (27.9%)、「企業・団体等への講師派遣」13 教室 (15.1%) となっている。

「その他」の回答としては、日本茶の海外輸出を行っている団体が主催するイベントへの参加や、地域で行われる茶会への参画、小学校の児童クラブや部活動、PTA 主催の文化教室への参画、他流派との交流などの回答が見られた。

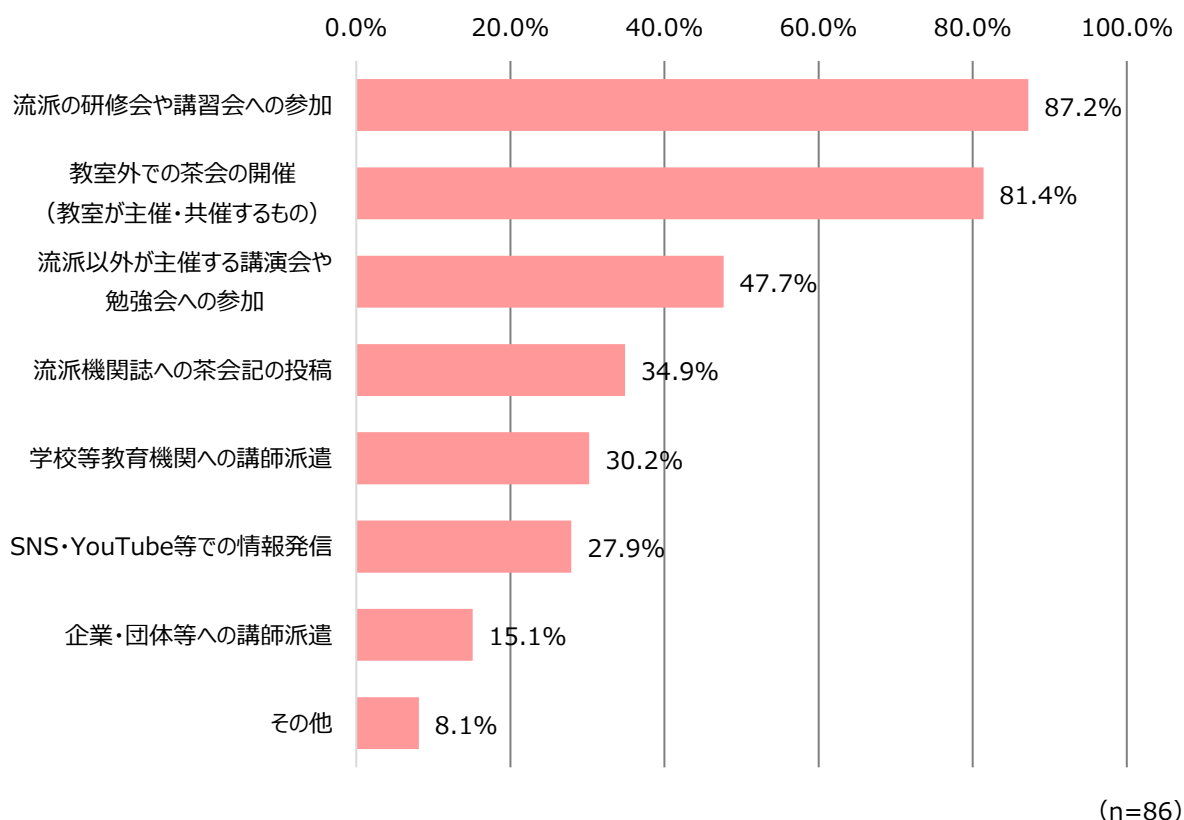


図 23 教室の外で行っている活動内容

② 連携している団体や組織

連携している団体や組織としては、回答のあった 82 教室のうち、「所属している流派の団体、教室」が 66 教室 (80.5%) と最も多く、次いで「煎茶道以外の伝統的な生活文化の組織 (茶道、華道、書道、香道、礼法など)」の 33 教室 (40.2%)、「神社・仏閣」と「他の煎茶道の団体、組織、教室」が 20 教室 (24.4%)、「自治体」と「煎茶道に関わる企業や店舗」が 12 教室 (14.6%)、「学校」の 10 教室 (12.2%)、「商店街や地域の団体」7 教室 (8.5%) と続く。

「その他」の回答としては、地域で活動する文化芸術団体をはじめ、美術館や博物館、大学との連携を図っている等の回答が見られた。

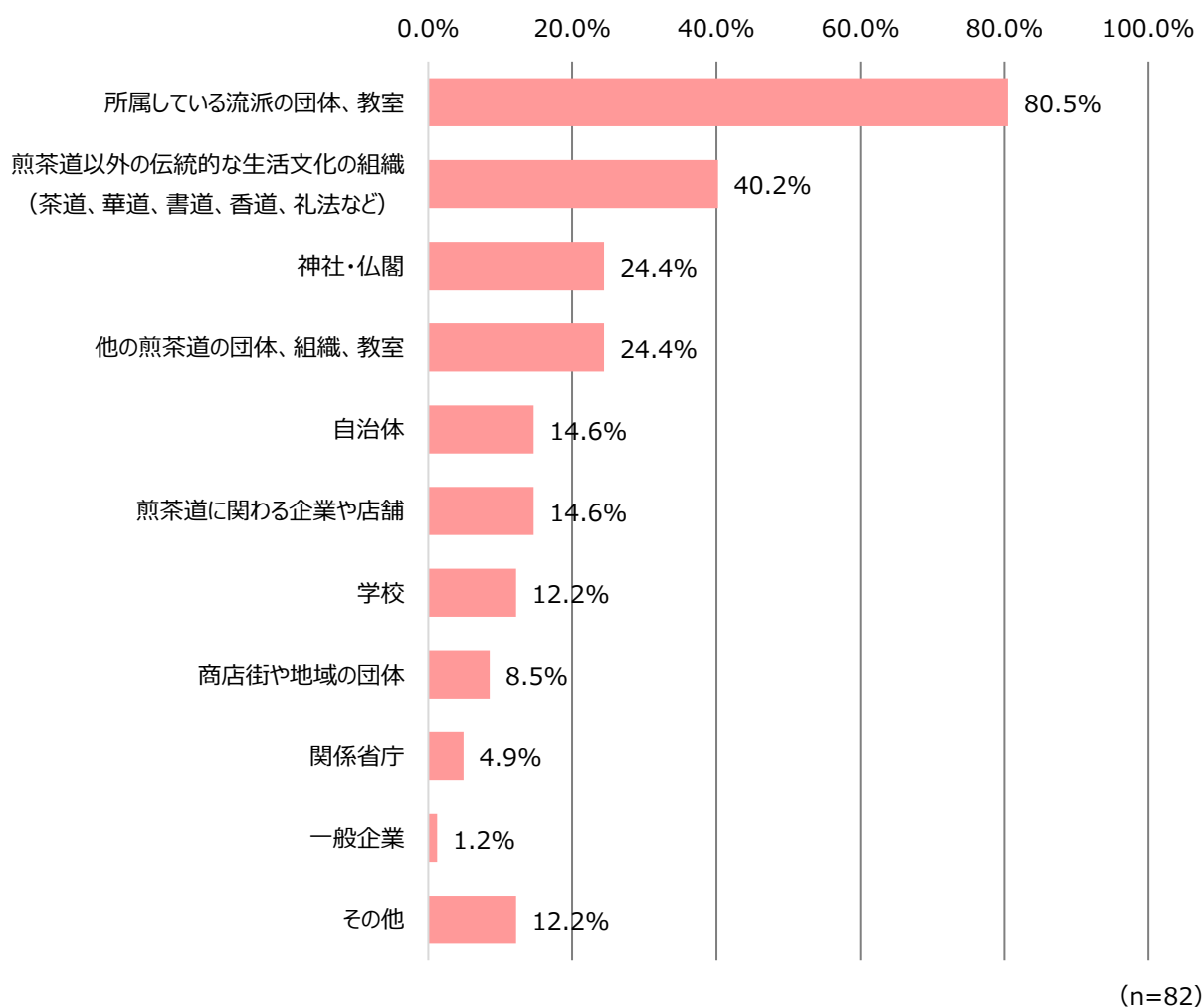


図 24 連携している団体や組織

③ 教室所在地の地域コミュニティとの連携

アンケートに回答した 90 教室中、回答に記入のあった 56 教室のうち 22 教室 (39.3%) が、何らかの形で連携を図っているとの回答があった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で休止している教室や、過去に連携を図っていたとの回答も 6 教室から (10.7%) から得られた。

連携の内容としては、自治体や文化協会が主催する文化祭等のイベントに参画し茶席を設ける等の取組が多く見られるほか、保育園や児童センター等での煎茶教室の開催や、高齢者施設での煎茶体験の取組、寺院や神社と連携して行事に合わせて茶席を設けて一般参加者に煎茶を振る舞うなどの取組が行われている。

なお、現在は地域コミュニティと連携していないとの回答は 28 教室 (50.0%) であったが、このうち 10 教室 (35.7%) については今後、連携を行っていくことを検討しているとの回答であった。

2-3 まとめ

教室の活動内容

煎茶道教室を開いている場所について、自宅を稽古場としているとの回答比率が最も高く、次いで「自宅以外に稽古場を借りている」、「カルチャーセンターの講座として教室を開催している」と続いております。また、複数の場所において教室を開いている場合も確認できる。稽古を行う場合の形式については、座礼を中心とした稽古の実施率が高い結果となったが、少なくない教室で、状況に応じて座礼・立礼どちらでも稽古を実施しているとの回答も得られた。稽古における炭の使用率はアンケート回答のあった教室の 6 割で炭を使用して稽古が行われていることが確認できる。

次に、教室における指導を行っている者の人数や属性については、一人で指導を行っているとの回答がアンケート回答全体の 6 割強を占めており、また、指導者の属性として、教室で指導を行う者の 9 割強が煎茶道に関する免許や資格を有していることが確認できる。

教室において煎茶道を学ぶ生徒数やその属性については、回答のあった教室の約 6 割は、生徒数が 10 人未満であると回答しており、次いで 10～19 人と続き、生徒数が 20 人未満の教室が全体の 8 割強を占めている。生徒の年齢層については 50 代～70 代以上が 6 割強を占め、10～20 代の若年層の生徒がかなり少ない状況であることが確認できる。また、生徒の性別については約 8 割が女性であった。

教室で煎茶道を習う生徒がひと月あたりに受講する平均回数は「1～4 回」と回答した教室が 9 割強、受講金額については「5,000 円未満」が約 4 割、「5,000～1 万円未満」が 5 割となった。

教室の指導内容

指導内容としては、「所作」「茶道具の取扱い方」についてはほとんど全ての教室で実施されており、「茶会の流れ」についても 8 割強の教室で行われている。なお、「煎茶の歴史」の指導については実施している教室が 7 割強にとどまっている。また、煎茶道の指導にあわせて行われる内容とし

ては、全体の約7割の教室で「お花」、6割の教室で「盛物」について指導が実施されている。一部の教室では「抹茶」についても指導が行われていることが確認できる。

次に、指導における教材や用具の使用の有無については、約6割の教室が教材や用具を使用しており、特に流派で発行している書籍や、指導者自身が作成したテキスト等が用いられる傾向が見られる。

教室における指導の目的としては、「煎茶道の手前や所作、立ち居振る舞いを身に付けてもらう」と言った目的を掲げる教室が50.0%で最も多く、次いで「煎茶の美味しさを知る、美味しいお茶を淹れられるようになる」の48.8%と続き、教室で学ぶ生徒や受講者が、席主を務める上で必要な手前や所作、立ち居振る舞いを身に付けるとともに、煎茶の茶味を知った上で、美味しいお茶を淹れられるようになることを目的としている教室が多いこと傾向にある。

教授方法や工夫している点は、「受講しやすくするため、稽古時間の調整をしやすくする」が41.0%と最も回答比率が高く、次いで「受講者毎に指導ノートをつける、個別指導を実施するなど受講者にあわせた指導を行う」の26.5%となっており、ほかの回答とも合わせてみると、生徒や受講者が稽古を続けやすい、また稽古でよりよく学ぶための環境づくりがしっかりと行われていることが分かる。

教育や指導の成果として最も多く挙がっていたのは「普段から美しい所作や丁寧な動作が出来るようになった」、「日本の伝統文化や海外の文化にも関心を持つようになった」という主旨の回答で、「煎茶道の稽古を通じて、心の豊かさを得られる」、「手前や作法などへの理解が深まり実践できるようになる」、「相手への気遣いやもてなしの心が身に付いた」と言った主旨の成果内容の回答比率が高くなっている。教育や指導目的と連動して成果が表れていること、また、細かな回答内容を見ると、生徒や受講者が稽古を続けやすい環境や学びやすい工夫が、成果につながっていることが分かる。

教室の運営

生徒の募集方法については、「受講者からの紹介」が8割近くを占めており、「所属する煎茶道団体のホームページを利用している」との回答が4割と、流派本体が各教授者の教室紹介を行っている場合が少なくないことが確認できる。また、回答のあった教室の8割で、教室見学や体験機会を提供しており、この内約3割強の教室は、地域のイベントでの茶会の実施等の提供を行っていることが確認できる。

教室の運営上の課題としては、生徒数の減少を課題として挙げている教室が多い。これらの課題に対する取組としては、体験茶会等の実施や料金や教室内容の明示、謝金の支払い方法を月謝に限りおきとしない等、煎茶道に関心を持ってもらうための取組や、教室に入門しやすくするための配慮などを行っている教室が見られる。

新型コロナウイルス感染症の影響については、ほとんど全ての教室から、稽古の休講や茶会の中止等の教室活動に何らかの影響が及んでいたことが回答から確認できる。そういった中で、消毒や密集状態を避けるなどの対策を行うことに加えて、煎茶や菓子を楽しむことが感染に繋がらないよ

うに、道具の消毒などの細かな工夫を行いながら活動を続けていたことがアンケート結果から確認できる。

教室外の活動については、所属している流派の研修会・講習会への参加や教室外での茶会の開催を行っているとの回答が全体の8割を超える結果となった。また、教室外での連携については、約8割の教室で所属流派との連携、それ以外では、煎茶道以外の伝統的な生活文化の組織との連携を行っているとの回答が4割となった。教室所在地の地域コミュニティとの連携状況については、全体の約4割が連携を行っており、自治体や文化芸術団体等が行うイベントに参画し、茶会や煎茶体験を実施している例が多いことが確認できる。

結 本調査研究事業のまとめ

1. 煎茶道において継承されてきたこと

煎茶道は、煎茶会において、煎茶や玉露等の茶葉を急須によって淹れた「煎茶」を喫し、書画の掛物や文房具、花、盛物などの鑑賞を行いながら、席主と客たちが交流を図る我が国の生活文化である。

江戸時代半ば、京都に売茶翁と呼ばれる人物が登場したことを画期として、漢詩や書画などの文人趣味と繋がりあい、文人達の間で煎茶が盛んに嗜まれるようになっていった。そういった過程において、煎茶の淹れ方や、用いる道具、道具の扱い方やあしらい方等を紹介するような書籍も刊行され、煎茶は庶民へも広がっていった。煎茶や文人趣味が隆盛していく中で、煎茶の宗匠が登場し、それらの宗匠を流祖とした流派組織が発生するに至った。幕末以降には、大規模な茶会が催されるようになり、昭和初期までの間に数寄者の文化として富裕層を中心に発展していった。

戦後は、煎茶を継承する様々な流派が中心となって、煎茶の手前や作法、茶席のしつらいや煎茶道具等といった煎茶に関する有形、無形の文化的所産が、時代の変化に応じながら今日まで継承されてきた。加えて、煎茶に係る横断的団体や各流派によって、全国各地で茶会等が行われ煎茶文化に触れる機会が創出されるとともに、各流派においては煎茶を教授する指導者や教授者の養成が行われ、教授活動が積極的に行われるようになったことで、煎茶道の一般層への普及が進展していった。

流派及び横断的団体を対象としたアンケート調査からも明らかなように、煎茶に係る流派は、煎茶の普及や振興に係る様々な活動を行いながら、先人たちが育んできた、煎茶を嗜み・愉しむための考え方や精神性を大事に受け継ぐとともに、様々な手前や作法と言った型や技等を大切に守り続け、今日まで継承してきた。これらの型や技は、茶会において席主と客たちが煎茶を喫し、書画や花、盛物を楽しみながら清談し交流を重ねるといふ、煎茶道において大事にされてきた考え方や精神性を表すものとして位置付けられているとともに、型や技の習得と茶会の実践を繰り返していくことによって、守り伝えられてきた煎茶の精神性や考え方もあわせて継承されるものと考えられている。

2. 煎茶道具等の継承について

煎茶会においては、茶碗や茶托・急須・ポーフラ・涼炉・水注・茶心壺・茶合、煎茶道具を飾り付ける棚等、多種多様な煎茶道具が用いられており、これらの工芸品類は、陶磁、木工、金工、漆工、竹工等の多岐にわたる工芸作家等の手によって製作が行われてきた。煎茶道具の中でも、木米や仁阿弥道八等によって製作された煎茶道具はとりわけ名品として位置づけられており、その弟子筋にあたる作家の煎茶道具も茶会において珍重されている。

現在も、工芸作家達の手によって様々な煎茶道具が製作されており、前出の名品とともに茶会において用いられている。また、日本煎茶工芸協会と（一社）全日本煎茶道連盟とが連携しながら、作品展の開催をはじめ、煎茶工芸の振興や周知等に関する様々な活動に取り組んでいる。工芸協会

へのヒアリングによれば、協会に新規加入する作家は減少傾向にあり、所属している作家達のゆるやかな高齢化が進んでいるが、活動自体は継続出来ている。その一方で、普段の稽古で用いる比較的廉価な煎茶道具の一部、特に瓶敷や炉扇などの竹工芸については製造できる職人が少なくなっており、入手しにくくなっているとの現状も聞かれる。また、工芸品とは異なるが、火器が使えない場所で茶会や稽古を行う場合特に重宝されている電気涼炉も入手がしにくい状態になっている。

3. アンケート結果から見た今後の団体・教室活動の方向性と課題

国民意識調査の結果からは、煎茶道を経験している者については、趣味や教養として関心があった場合や、友人や知人等から習うことを勧められたことなどをきっかけとして煎茶道を始めた者が多く、また、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加したことがあるという体験者については、学校や職場等で催された体験イベントを通じて煎茶道を体験するきっかけを得ており、いずれも煎茶道を知るきっかけや、体験するきっかけが身近にあったことが分かる。一方、未経験者の場合、煎茶道を経験したことが無い理由として、煎茶道そのものを知らなかった、と回答している比率が高い傾向にあることから、煎茶道を知る・体験するきっかけそのものに、大きな差があったことが確認できる。

加えて、煎茶道を体験した者でも、その内の3割強は煎茶道に対する興味関心がなく習うまでには至っていなかったことや、未経験者の約5割は煎茶道を知っていたとしても、自分の趣味と合わなかった、興味関心がなかったと回答している。このことから、煎茶道を知ってもらうこと、また体験機会を提供することのみならず、煎茶道に興味関心を持ってもらうための何らかの工夫が必要となるものと考えられる。

興味関心という点においては、経験者や体験者、未経験者に共通して煎茶道への興味関心が高い要素として、煎茶や玉露を美味しく淹れることが出来る、いただくことが出来ることの回答比率が最も高く、次点では煎茶や玉露を淹れる手前や作法、淹れ方の回答比率が高い結果となっている。この点を踏まえると、煎茶道を知る・体験するきっかけ作りとなるような催し物を行う際に、意識調査において回答比率が高かった興味関心の要素を組み込むことで、参加者の煎茶道に対する興味関心を高める効果があると考えられる。

また、煎茶席を体験した者が煎茶道を習うまでに至らなかった点については、通いやすい場所や手ごろな費用であれば習い始めやすいという項目への回答比率が高くなっていることから、こういった情報を如何に周知するかが、煎茶道を習ってくれる者を増やして行くきっかけとして重視されていることが回答結果から見えてくる。

横断的団体及び流派団体を対象としたアンケートの調査結果からは、横断的団体や流派は、茶会等の開催や一般向けの講演及び体験茶会の開催、広報活動等を行っており、これらの取り組みを通じて煎茶道の周知や普及に取り組んでいること、また、各流派では、門人や会員向けの研修会や講習会等を開催し、売茶翁や文人達が大事にしてきた煎茶を喫し愉しむための考え方や精神性、煎茶を淹れる手前や作法、席のしつらえなど、煎茶や文人に係る伝統的な文化の継承に着実に取り組み、注力していることが分かる。

このような取組を行っている一方で、団体が抱える課題についてもアンケート結果から見えてきた。団体からの回答において共通している課題意識は、煎茶道を習う者、愛好する者の高齢化が進み引退する者が増えている一方で、若年層の入門者が減少しており、総じて煎茶道を愛好する者が減少し続けている、という点にある。これは、流派に所属する門人・会員の減少は、従来実施してきた茶会等の開催をはじめとする煎茶道の普及や振興につながる活動が停滞し、流派組織の維持も困難になることから、課題として意識されていることが回答内容から分かる。また、門人・会員の高齢化と活動の停止は、煎茶道の文化を教授する者の減少を意味しており、流派内における次の世代の教授者育成についても大きな課題となっている場合が多い。

上記のような課題の解決に向けて、各団体は煎茶道に係る文化を広く周知し愛好者や入門者、会員となる人を増やすための取組を検討しており、これまでも行ってきた茶会や体験機会を増やすこと、またそれらの周知に力を入れていくことや、SNS などの活用による広報も検討しているほか、実際に取組を進めて一定の成果を挙げている団体もある。

煎茶道の教室や稽古場を対象としたアンケート調査の結果からは、教室の開催場所等の状況や指導者数などから、自宅を稽古場としており、指導者1名で指導及び運営が行われている教室が多いことが分かる。教室での指導内容については、多くの教室で煎茶の手前や所作、煎茶道具の扱い、茶会の流れ等の指導が行われており、その指導の目的として手前や所作などを生徒に覚えてもらうことはもちろん、美味しい煎茶を淹れられるようになり、煎茶道そのものの楽しさを伝えることを主たる目的としている。そのために、稽古日の調整を柔軟に対応するなどして学ぶ機会をできる限り設けるようにしているほか、教材やテキストの活用など、各教室で様々な工夫が行われていることも回答結果から分かる。

このように様々な工夫をしながら、煎茶道の教授や普及に取り組んでいる各教室においても、生徒の高齢化や高齢化に伴うリタイア、若い入門者がいないために生徒数が減少していると言った運営上の課題を抱えている。そのために、煎茶の体験機会や周知活動を検討し、実際に取り組んでいる教室も多い。

以上のように、煎茶道に係る団体等の課題として、煎茶道を愛好する者の減少と煎茶道に係る文化をどのように発信するか、という点が共通していると言える。すでに、横断的団体や流派においては煎茶道に係る文化の体験機会の創出や広報発信に取り組んでいるところも多く、煎茶道の教室においても、同様の取組を実施あるいは検討している場合が多いことが、アンケート結果から窺い知れる。煎茶道を体験する、知ってもらう機会をどのように創出するかが、煎茶道を愛好する者を増やして行く点において重要であると同時に、国民意識調査の結果にあるように、比較的多くの人が煎茶や玉露を美味しく淹れたい・いただきたい、という点や、手前や作法にも関心を持っていることから、煎茶道のどのような点に興味関心を持ってもらえるか、その伝え方や体験の仕方を工夫することで、興味関心を高めることが出来ると考えられる。

4. 煎茶道を次世代に継承するために

煎茶道は、家元や宗家によって組織される流派が中心となって、煎茶に係る様々な有形・無形の文化的所産を継承してきた。各流派は、先人から伝承されてきた煎茶道具や、稽古と茶会の実践を通じて、様々な手前や作法、所作、書画や掛物、文房具、花や盛物などの茶席のしつらい方等の型や技とともに、先人達が育んできた煎茶を嗜み・愉しむための考え方や精神性もあわせて継承してきた。また、各流派は煎茶道に係る文化の継承とともに、茶会や一般向けの講習会等の催しを行い、煎茶道に係る文化の振興や普及に関する活動も行っている。これに加えて、複数の流派が所属する横断的団体による普及や振興に係る取組も行われており、大規模な茶会の開催や機関誌の発行等の取組をもって、煎茶文化の一般への周知が行われている。

このような煎茶道の横断的団体や流派の活動に加えて、流派に所属する門人・会員の中で、教授者資格を有する者が煎茶道を教授する教室等を開いて教授活動を行っており、一般の人が煎茶道に触れる機会の醸成に努めている。また近年では、博物館等で煎茶道をテーマとして扱った企画展示等も行われ、煎茶道や文人文化への関心が高まっている。また、横断的団体や流派による煎茶文化を通じた国際交流が行われており、国内外への煎茶文化の発信が継続的に実施されており、煎茶道の普及等に尽力した者の顕彰も行われている。

以上のように煎茶道の文化は、流派や横断的団体、そして煎茶道を愛好する者によって文化の継承と振興・普及に関する活動が行われてきた。しかしながら、今回実施した団体アンケートや教室アンケートの結果からは、煎茶道を愛好する者の高齢化が進んでおり、教授活動から身を引く者も多くいることや、若年層の入門者も減少しているため、総じて流派の門人や会員が減少していることがアンケート結果から分かった。流派の門人・会員の減少は、流派が主催していた茶会や研修会等の各種活動の停滞を招くとともに、ベテランの教授者が辞めてしまうことで、次の世代を担う教授者の育成が難しくなるなどの課題が挙げられており、横断的団体や流派、教室のさまざまな活動に影響を及ぼしていることが回答結果から窺い知ることが出来る。また、煎茶道具に関連する団体や企業へのヒアリング調査からは、煎茶道具の供給等に影響を及ぼす一要因として、煎茶道を愛好する者の減少が関係している点が指摘されているなど、愛好者の減少は、伝統的な煎茶工芸にも少なからぬ影響を及ぼしていると言える。

前述したとおり、横断的団体や流派、教室においては煎茶道に興味関心を持ってもらうためのさまざまな体験機会や広報発信に取り組んでおり、関心を持ってもらうためにはさらなる工夫が必要と考えられる。このような体験機会の創出や煎茶道に係る文化についての周知は、横断的団体や流派や教室の自助努力はもちろんのこと、文化振興や普及に関する取組への支援について検討していく必要がある。

また、各流派の自主的な活動を妨げないように配慮をしながら、煎茶道の無形文化財としての登録や保護、という点についても検討していく必要があると言える。各流派において継承されてきた手前や所作、茶席のしつらえ方等の無形の文化的な所産は、流派の歴史や精神性を示す意味でも重要であり、同時に煎茶道を次の世代に継承していく上で、欠かせない要素と言える。それぞれの流

派の特色、自主的な活動を尊重しながら、流派を横断した形での適切な保護と支援の在り方、その可能性について検討を行う必要があると考えられる。

煎茶道は、日本の喫茶に係る文化の一つの形であり、文人趣味に代表されるような日本の伝統的な生活文化である。これら煎茶道を次世代に継承していくには、煎茶道に対する一般の人々の認知度を上げたり、体験機会を増やしたりするなどの活動が必要であり、団体・流派の自主的な活動を重んじながら、国や地方公共団体においても当該分野に関する活動への適時適切な支援の在り方の検討を行っていくことが重要である。

参考資料 有識者(煎茶道)及び有識者会議検討経過

1. 有識者

本調査研究事業は、煎茶道に関する豊富な識見を有する者を有識者(煎茶道)として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。

【名簿】 ※50音順、敬称略、令和6年1月31日現在
漆原 拓也 法政大学 国際日本学研究所 客員所員
船阪 富美子 神戸大学 研究推進部

2. 有識者会議経過

令和3年度

第1回

●開催日・開催方法

令和3年12月8日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(煎茶道)」の概要について
- ・現時点における各項目の調査内容について
- ・今後の予定について

第2回

●開催日・開催方法

令和4年2月14日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(煎茶道)」報告書素案の検討について
- ・今後の予定について

令和4年度

第1回

●開催日・開催方法

令和4年8月10日 リモート会議

●主な内容

- ・「生活文化調査研究事業(煎茶道)」の概要について
- ・ウェブ調査の設問案について
- ・今後の予定について

第2回

●開催日・開催方法

令和4年11月16日 リモート会議

- 主な内容
 - ・ウェブ調査結果について
 - ・報告書修正案について
 - ・今後の予定について

第3回

- 開催日・開催方法
令和5年1月26日 リモート会議
- 主な内容
 - ・令和4年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

令和5年度

第1回

- 開催日・開催方法
令和5年10月5日 リモート会議
- 主な内容
 - ・団体及び教室アンケート案について
 - ・アンケート送付方法及び送付先について
 - ・用具及び原材料についての調査状況について
 - ・今後のスケジュールについて

第2回

- 開催日・開催方法
令和6年1月17日 リモート会議
- 主な内容
 - ・アンケート調査実施状況
 - ・用具及び原材料調査原稿案について
 - ・報告書構成案について
 - ・今後のスケジュールについて

第3回

- 開催日・開催方法
令和6年2月9日 リモート会議
- 主な内容
 - ・令和5年度「生活文化調査研究事業（煎茶道）」報告書案について

3. 受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

- ・煎茶道の原材料・用具に関する文献等の調査、ヒアリング等
- ・煎茶道団体・流派及び煎茶道教室アンケートの作成、発送、集計、分析
- ・有識者会議等の調整、運営などの業務

参考資料 煎茶道の用具・用品、消耗品について

(1) 概要

煎茶道の茶席で用いられる主な用具・用品、消耗品は以下のとおりである。

分類	名称	別称	煎茶席における役割
道具	棚		道具類の飾り付けに用いられるものとして、急須、茶心壺、茶合、水注などが並べられる。
	器局		書斎で日々用いる煎茶器一揃いを収めておく箱。
	提籃		野外で煎茶席を設ける場合などに煎茶器を入れて携える。
	茶具 <small>じよく</small> 褥	茶具敷、ほか	煎茶席の道具飾りの下に敷く、絹・木綿・麻・毛織物などの布でできた敷物。
	炉屏	結界、座屏	屏風のような席飾り。
	涼炉	提炉、ほか	コンロのこと。炭を入れて火をおこす道具。煎茶独特のもので、多くは素焼き製（本体は磁器製のものもあり）。涼炉を置くものとして炉台がある。
	ポーフラ	湯沸かし、湯瓶、湯罐、ほか	涼炉にかけて湯を沸かすためのもの。本来は素焼き製。横手のものと上手のものがあるが、横手の急須に似た形のものが多い。
	水注	水灌、水指、水差、水つぎ、ほか	煎茶のお手前（点前）の際、茶碗を洗ったりポーフラに湯を補ったりする水を入れておくもの。陶磁器が多い。
	炭籠	<small>すみどり</small> 炭斗、 <small>うふ</small> 烏府、ほか	涼炉で使われる炭を入れておくもので、籐や竹で編まれているものがほとんどで、手の付いたもの、付かないものがある。炭籠の上には火箸や炉扇・羽箒など炭を扱う際の道具が置かれる。
	火箸	<small>かきよう</small> 火筴、 <small>かちよ</small> 火筋（火筋）	涼炉に火だねを入れたり、炭籠の炭を補ったりするのに用いる。長さは20センチ前後が一般的。
	炉扇		涼炉の火をおこすための団扇。竹や籐で編んだものが多い。薄い板や紙で作られたものもある。
	羽箒		炭手前するとき、涼炉の塵や灰を掃き清めるのに使用する。野雁の羽根が一般的であるが、鶴の羽根なども使われることがある。
	急須	茶銚、 <small>きびしやう</small> 急尾焼、ほか	茶葉を入れ、お湯を注いでお茶の味を出す、煎茶に欠かせない重要な煎茶独自の道具。

	茶碗及び 茶托	茶蓋及び 托子、ほか	抹茶茶碗と違い小さく、盃かぐい飲み程度の大きさのものが多く、磁器製のものが好まれる。茶托は茶碗をのせるもので、錫製、銀製などが主となり、様々な形のもの、図や透かし彫りの施してあるものなどがある。
	茶心壺	茶壺及び 茶入	茶葉を入れておく容器のこと。
	茶合 <small>さごう・ちゃごう</small>	仙媒 <small>せんばい</small> 及び 茶量、茶則、 ほか	茶心壺から急須に茶葉を入れる際に分量を計るもの。木製、錫、象牙製などあるが、節の付いた竹を半裁にしたものが好まれている。
	盆		点前に使われる点前盆、茶心壺・茶合・袱紗 <small>ふくさ</small> をのせる三器盆、その他様々な大きさ、形のものがある。木や竹、金属、塗り物などの材質でできている。
	袱紗	帛紗	茶心壺・茶合を清める（ぬぐう）ために使うほか、飾りとしても使われる。材質は、木綿か絹。更紗が好まれ、特に古渡りのインド更紗が珍重されてきた。
	箸瓶	箸立	茶箸を立てるもの。
	茶箸	茶筋及び 茶筴 <small>ちやきょう</small> 、ほか	急須に残った茶かすを取り除き、滓盃に入れるもの。
	滓盃 <small>しゅう</small>	茶滓入 <small>ちやくすいれ</small>	使い終わった葉茶を取り出して入れる蓋付きの容器。
	茶巾筒	巾筒	茶碗を拭く茶巾を入れるもの。蓋付容器は茶盒 <small>ちやごう</small> という。陶磁器製が多い。
	盆巾筒		盆巾を入れるもの。
	建水	納汚 <small>のうお</small> 、こぼ し、ほか	急須や茶碗を洗った水や、不要の湯を流し捨てる器。金属製、木竹製（曲物）、陶磁製があり、主として丸形である。
消耗品	茶葉		煎茶道で用いられるお茶の葉は不発酵茶である緑茶、中でも煎茶が主として用いられるほか、玉露や雁がね茶なども用いられる。
	花		文人生、文人華とも呼ばれる。なげ入れを基本とする。花材の取り合わせに意味合いを持たせ、題名を付けて展観される。
	盛物		煎茶席に特異な「床飾り」。珍しい果物や野菜を飾る「盛物」は、花と同じく、謎語雅題の取り合わせをする。
	炭		炭手前では、炭を火が着きやすいように組む。また、玉露・煎茶など、茶葉に合わせた湯加減になるように炭を組む。

	菓子		煎茶席の菓子は当日の趣向を最もよく表すことのできるものの一つとされる。
	茶巾		茶碗を拭く麻布。たたんで茶巾筒に入れておく。
	盆巾		茶托や盆を拭く木綿布。たたんで盆巾筒に入れておく。
その他	文房具		<small>ひつけんしぼく</small> 筆硯紙墨のほか、印材、筆架、水滴など。
	盆栽		中国の文雅の趣を伝える盆栽は、同じく中国文人趣味の影響のもとに煎茶を楽しむ風雅な席において珍重され、煎茶道においても、茶席を清雅な風韻でしつらえるための一つとして、書画や文房四宝などと共に飾られるようになった。

※道具の呼称は流派によって異なるため、振り仮名は一部にとどめた。

〈参考文献〉

- ・小川後楽『煎茶器の基礎知識』光村推古書院、昭和61年
- ・全日本煎茶道連盟監修『煎茶 道具としつらいの知識』婦人画報社、平成4年
- ・主婦の友社編『煎茶便利帳』主婦の友社、平成12年
- ・日本煎茶工芸協会編『煎茶の工芸 その人と技』日本煎茶工芸協会、平成29年

この項では、煎茶道の用具・用品や消耗品について、製作と流通について、使い手と作り手へのヒアリング調査¹をもとに述べていくこととする。

■煎茶道具

・煎茶道具の流通

煎茶道具として流通しているものは、古美術品（唐物・作家物）、中古品（明治以降の流通品）、新製品（現在生産されている流通品、廉価品）、新美術品（現代の作家物）に大きく分けられる。

煎茶道具を専門に扱う業者（道具商）は全国でも限られており、その多くが茶道具と共に取り扱っている。専門店のほか、百貨店の茶道具売場、日本茶専門店の一角、陶器専門店などでも煎茶道具が販売されている。店頭での販売のほか、（一社）全日本煎茶道連盟が主催する催事や古美術商による展示会において、専門業者による煎茶道具の展示販売が行われている。

古美術品は、幕末から明治にかけて名品を生み出した木米、仁阿弥道八（二代高橋道八）、木米に師事した真葛長造や、永楽保全、和全、仁阿弥道八の弟である尾形周平の作品が一定の評価を受けている。現在は新製品の生産が減り、中古品が多く流通している。また、現代の作家物については、百貨店の美術サロン等で販売が行われているが、現在は催事場そのものが減少し、その機会を減らしている。

¹ 一般社団法人全日本煎茶道連盟（令和5年10月30日）、東阿部流（令和5年11月6日）、一般社団法人日本煎茶工芸協会（令和5年12月7日）、煎茶道具店「きたがわ」（令和5年11月26日）、株式会社福寿園（令和5年11月29日）、美術商「大平福助堂」（令和5年12月23日）にヒアリングを実施した。

道具商の仕入れは、プロの道具商同士が売買する場であるオークションや、活動を停止する流派からの買取りといった形で行われる。袱紗や懐紙、菓子切などの小物は抹茶道具を手がける専門の間屋から仕入れをする。また、現代作家への注文も行われている。

・煎茶道具の生産

煎茶会で用いる道具類は、古美術品や新しく制作された作家物が用いられる例が多いが、稽古を行う際には、比較的安価な量産品が使われる。ただし、近年では、生産者の減少により入手が難しくなっている。例えば、竹細工職人が減り、竹細工の瓶敷や炉扇が品薄となっている。また、電気式の涼炉は、ニーズは高いものの、生産量が著しく減少しているという。

一方、煎茶工芸の一般への認知度を高め、作家を育成する目的で昭和 61 年（1986）に発足した（一社）日本煎茶工芸協会では、所属の作家を中心に煎茶道具の製作が精力的に行われている。以下、同協会へのヒアリングと、同協会発行の資料『煎茶の工芸 その人と技』に基づき、概況を述べる。

現在、日本煎茶工芸協会は、陶磁、木工、金工、漆工、竹工、硝子、^{きりかね}截金、染織、画・墨彩の作家 57 名が所属している。活動エリアは京都や大阪など近畿を中心に、愛知県常滑市、佐賀県有田町、石川県輪島市など陶漆工芸の盛んな地域など、北海道から九州まで全国に広がっている。多くの作家が家元の紹介・推薦を受けて入会しているが、近年、新たに加盟する作家は年 2、3 人程度に減っており、高齢化が進みつつある。現在の協会所属作家の平均年齢は 60 歳代となっている。

作家は陶、木工等それぞれの領域の煎茶道具全般にわたって様々な道具を手がけることが多い。例えば、陶芸であれば、茶碗、涼炉、瓶掛、ポーフラ、急須、茶心壺、水注、水指を、金属铸造では、錫を用いた製品で托子・茶心壺・水注・茶銚・洗瓶・ポーフラを、銀で銀瓶・托子・建水を、銅で瓶掛・火箸・建水・花瓶をという具合である。また、木工・竹工では、各種の盆・瓶床・香筒・香枕・茶合・茶托・茶入・蓋置・棚・茶櫃・建水・炉屏・茶箱など、染織では、袱紗・茶具敷・帳などが製作される²。

このうち陶芸については、京都府の京焼・清水焼、佐賀県の有田焼、愛知県の常滑焼などが著名な産地として知られている。京焼・清水焼については、江戸時代後期、奥田^{えいせん}穎川（1753～1811）が磁器・染付・赤絵の製作を始め、その門下から木米、高橋道八など高名な焼き物師を輩出した。また、有田焼は、17 世紀、朝鮮人陶工李参平が日本初の磁器を焼成したことで知られている日本有数の陶磁器産地である。

12 世紀以来の古窯である常滑焼で煎茶に使われる茶器の製作が始まったのは 19 世紀である。当時珍重されていた中国・宜興の朱泥急須を集めていた常滑市の医家の平野忠司が、宜興の土と常滑の土が似ていることに気付き、陶工の杉江寿門・片岡二光とともに安政年間（1854～1860 年）に現在に繋がる朱泥焼を開発したとされる。

2 （一社）日本煎茶工芸協会『煎茶の工芸 その人と技』（日本煎茶工芸協会、平成 29 年）の「技法紹介」の項を参照し、要約した。

■茶葉

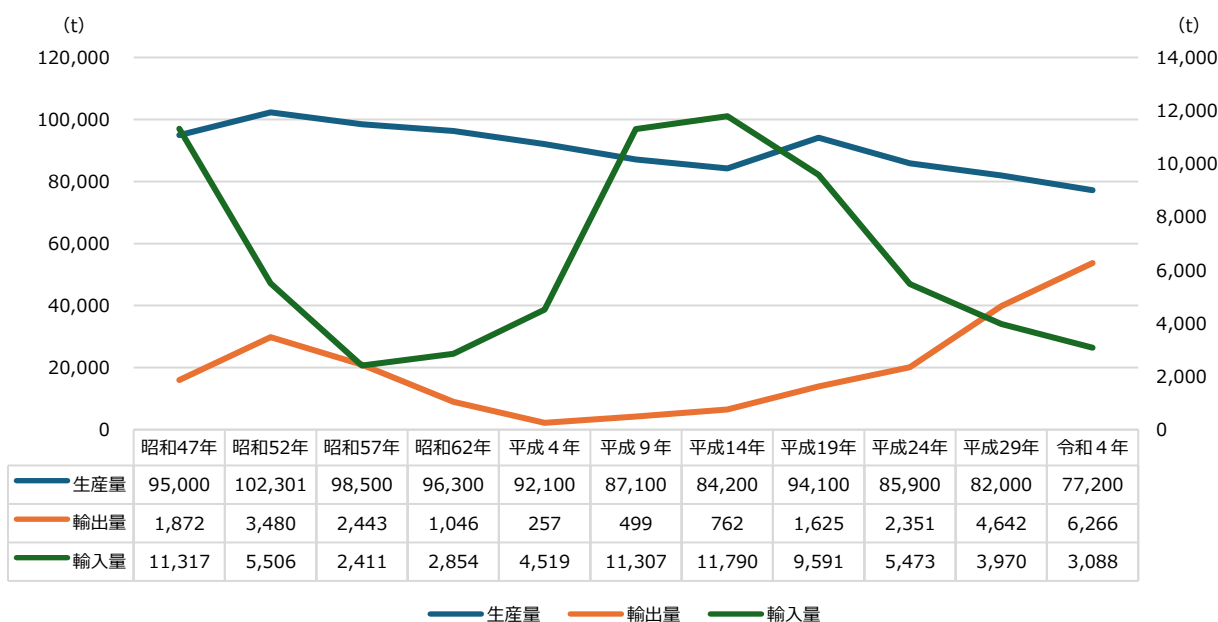
ヒアリングによれば、煎茶道では、それぞれの家元が好みの茶葉を専門店舗から購入し、使用する。茶葉の購入に当たっては、家元の要望に基づいて店舗側と試飲を重ねることで好みの茶葉の選定を行うこともある。使用する茶葉は抹茶以外の緑茶（不発酵茶）全般であるが、特に、玉露や高級な煎茶を使うことが多い。

緑茶の主要産地としては、静岡県（令和4年度栽培面積1万3,800ha）、鹿児島県（同8,250ha）、三重県（同2,590ha）、京都府（同1,540ha）、福岡県（同1,500ha）、宮崎県（同1,230ha）、熊本県（同1,100ha）、埼玉県（同729ha）などがある。煎茶はどの産地でも生産されているが、玉露は主に京都府、三重県、福岡県での生産となる。なお、令和4年の全国における緑茶の荒茶（仕上げ作業前の茶葉）、その種類ごとの生産割合は、「せん茶」52.7%、「玉露」0.8%、「かぶせ茶」2.8%、「てん茶（抹茶）」5.1%、「玉緑茶」2.2%となっている³。

緑茶等の生産や流通について、国内の主要産地における緑茶の荒茶の生産量については「作物統計」を、緑茶の輸出入量については『日本貿易年表』及び「普通貿易統計」を参照しまとめたものが図1である。まず、荒茶の生産量の推移をみると昭和52年以降、生産量の減少が続く中、平成14年から平成19年にかけて増加に転じているものの、その後は緩やかに減少していることがうかがえる。緑茶の輸出量を見ると、荒茶の生産量が減少傾向にある中で、平成14年以降に輸出量は増加に、その一方で輸入量が減少に転じていること分かる。

次に、緑茶の国内消費について、「家計調査年報」の2人以上世帯における緑茶の購入量に関する調査結果を参照して作成したものが図2である。図2からは、昭和47年（1972）で1世帯当たり年間2,149g購入されていたものが年を追うごとにその購入量は減少していき、令和4年（2022）には701gにまで減少している。

³ 農林水産省「茶をめぐる情勢」令和5年6月（URL:<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tokusan/cha/attach/pdf/ocha-24.pdf> 最終確認日：令和6年2月15日）を参照し、要約した。



※左軸は、荒茶の国内生産量を、右軸は緑茶の輸出量・輸入量を示す軸である。

図1 緑茶の生産、輸出・輸入量

出典：図中の緑茶の生産量は、「作物統計」（農林水産省）のうち、「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」の荒茶の生産量を参照した。なお、「作物統計」の注には、全国の荒茶生産量（年間計）については、従来、主産県調査結果を基に推計が行われているが、平成6、7、9、10、12、13、23、24年については主産県の合計値を採用している旨が記されており、図中の平成9年及び平成24年の生産量は主産地の合計値を掲載している。

緑茶の輸出量・輸入量は、昭和62年以前の数量については『日本貿易年表』（大蔵省関税局）を、昭和62年以降については、「普通貿易統計」（URL:<https://www.customs.go.jp/toukei/search/futsul.htm>）のうち、「品別国別表」を参照した。

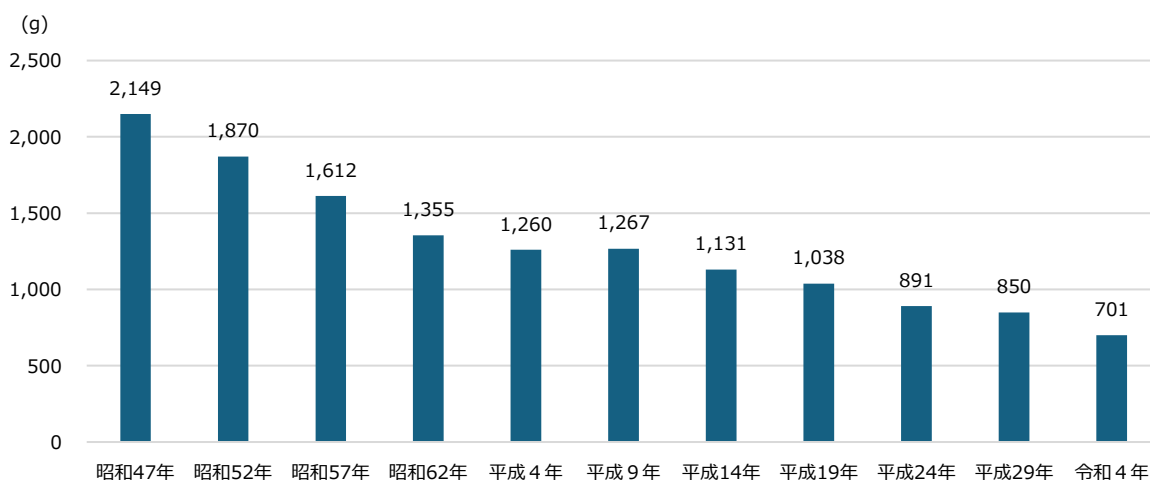


図2 2人以上世帯の年間茶葉購入量

出典：総務省「家計調査年報」（URL:<https://www.stat.go.jp/data/kakei/npsf.html>）を参照し作成した。

煎茶道においても多く使われる京都府産の茶葉については、茶葉の種別ごとの生産量が「京都府産茶の生産・流通状況等に関する資料（旧京都府茶業統計）」として公表されている。当該資料を参照し、てん茶（碾茶）・秋てん茶を除く種別ごとの荒茶生産量の推移についてグラフ化したものが図3である。これをみると、平成24年（2012）から令和4年（2022）にかけて、煎茶、かぶせ茶、番茶の生産量が減少しており、特に番茶と煎茶の生産量の減少幅が大きいことが分かる。一方、玉露については平成29年以降に生産量の緩やかな減少が見られるが、煎茶やかぶせ茶、番茶と比べると10年間の生産量に大きな減少傾向は見られない。

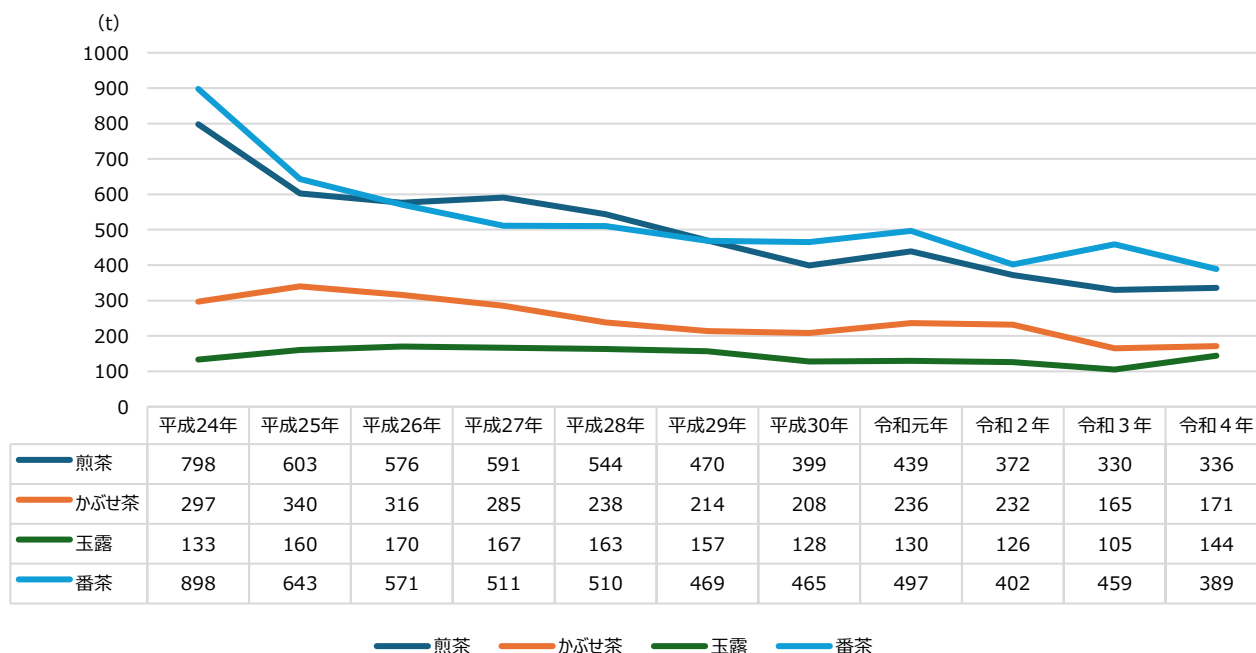


図3 京都府における茶葉種別ごとの荒茶生産量推移

出典：京都府「京都府産茶の生産・流通状況等に関する資料」（旧京都府茶業統計）（URL：<https://www.pref.kyoto.jp/nosan/chagyotokei.html>）を参照し作成した。

■炭

煎茶道では、抹茶を使う茶道と同じように、黒炭の茶道炭を使用する。涼炉を用いるため、小さなサイズの煎茶道専用のものが使われる。燃料としての性能だけでなく、断面の形や割れの形状など、見た目の美しさもあわせて求められるところは茶道と同様である。また、近年、稽古や茶会の会場で火の使用が制限されているところがあり、電気式の涼炉を用い、炭は飾り炭としてのみ使うことも増えている。

煎茶専用の炭は抹茶用の炭を製造している炭屋で作られ、茶道具・煎茶道具の専門店で販売される。茶道炭としては、かつては「池田炭（大阪府池田市）」「佐倉炭（千葉県佐倉市）」「松坂炭（三重県松坂市）」「伊予炭（愛媛県大洲市、内子町）」「横山炭（大阪府和泉市）」などが有名産地として知られていたが、現在では、クヌギを原木とするものは岩手県一関市、藤沢町、栃木県市貝町、那須烏山市、愛媛県大洲市・内子町、ミズナラ、コナラが原木のものは岩手県、カシを原木のもの

は熊本県が主要産地となっている⁴。また、佐倉炭については、既に佐倉市内での生産は行われていない（千葉県内の他地域では黒炭等の生産は行われている。）⁵。

茶道炭のみの統計はないが、国内の黒炭生産量についてみると、平成17年（2005）の1万4,476tから令和4年（2022）の3,952tへと大きく減少している⁶。

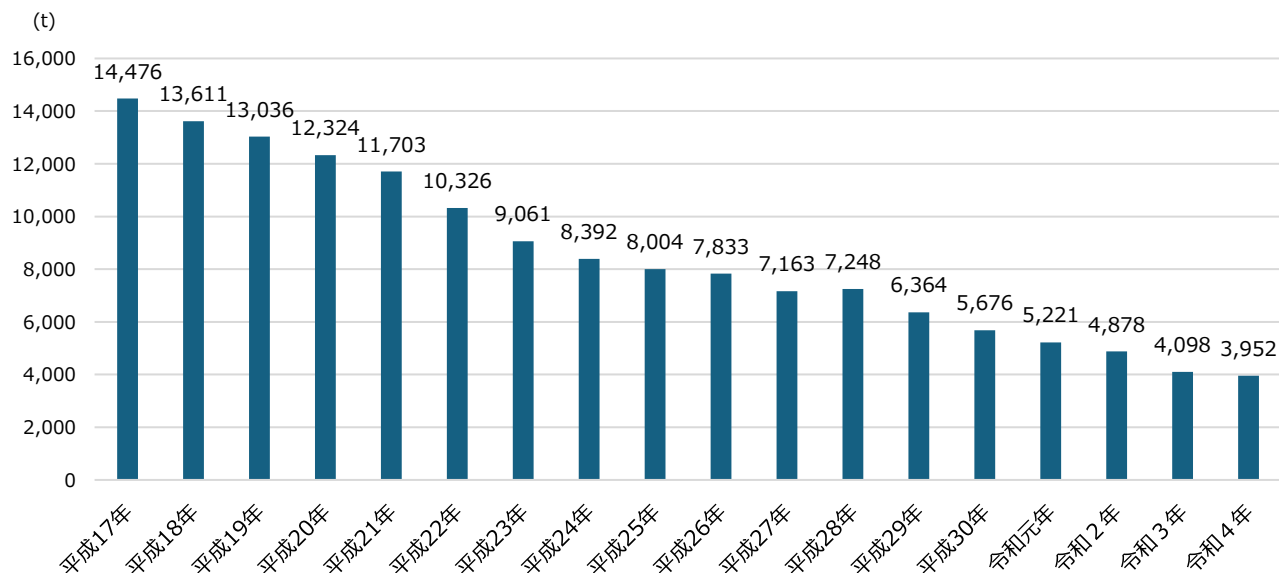


図4 黒炭国内生産量推移

出典：農林水産省『特用林産物生産統計調査』（URL：https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tokuyo_rinsan/）を参照し受託事業者が作成した

（2）課題

■流通面の課題

ヒアリングによると煎茶道人口が多かったのは昭和50年代（1975～1985）頃から平成の初めにかけてであり、煎茶道具が嫁入り道具になることも珍しくなかったという。その後、煎茶道人口が減少するにつれ市場が縮小した。そのため、比較的安価で稽古用として使われる量産の新製品については供給が減少、中古品のニーズが高まっている。また、電気式の涼炉は生産量が著しく減少していることから、中古品も品薄な状態となっている。一方、古美術品については煎茶道人口の減少から、全体的に道具の価格は下がっており、これから煎茶道を始めたいという人にとっては道具を揃えやすい環境にあるという声が聞かれた。

現在はインターネットでの販売もされているが、煎茶道具を専門的に販売する店舗が限られてい

4 日本特用林産振興会ウェブサイト『茶の湯炭（ゆずみ）－文化財を維持する特用林産物』（URL：https://nitto-kusin.jp/bunkazai_iji/cha_no_yuzumi/）最終確認日：令和6年2月15日）を参照した。

5 千葉県ウェブサイト『ちばの炭』（URL：<https://www.pref.chiba.lg.jp/shinrin/shinrin/rinsanbutsu/sumi.html>）最終確認日：令和6年2月15日）を参照し、要約した。

6 農林水産省『特用林産物生産統計調査』（URL：https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tokuyo_rinsan/）最終確認日：令和6年2月15日）を参照した。

ることにより、指導者からのアドバイスを受けることを別とすると、煎茶道に関心をもった人が煎茶道具を探す際、店頭で手に取ることが難しい状況にあるといえる。

なお、煎茶道以外に一般でも消費される茶葉や、茶の湯で使用されている茶道炭などの消耗品については需要があるため、生産・流通網が維持されている。

■生産面の課題

消耗品のうち、茶葉については、緑茶の仕上げ茶の市場は減少しているものの、供給量に問題があるほどではない。一方、茶道炭については、国内生産の黒炭自体の生産が大幅に減少していることを背景に、将来的な供給不足への懸念が示された。

煎茶道具類については、上述したように、稽古などで使う比較的廉価なものや電気涼炉等、生産の著しい減少が続いており、一部の用具で供給不足やそれに伴う価格の上昇が起こっている。また、煎茶道具をつくる作家についても、新規に始める人が少なく、緩やかに高齢化が進んでいる。

〈参考文献〉

・(一社) 日本煎茶工芸協会『煎茶の工芸 その人と技』日本煎茶工芸協会、平成 29 年

参考資料 国民意識調査 調査票

(1) 属性

F 1 あなたの性別をお答えください。(1つ)

1. 男
2. 女
3. それ以外/答えたくない

F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つ)

1. 18歳未満
2. 18~19歳
3. 20代
4. 30代
5. 40代
6. 50代
7. 60代
8. 70代以上

F 3 あなたのお住まいの都道府県をお答えください。(1つ)

1. 北海道
2. 青森県
3. 岩手県
4. 宮城県
5. 秋田県
6. 山形県
7. 福島県
8. 茨城県
9. 栃木県
10. 群馬県
11. 埼玉県
12. 千葉県
13. 東京都
14. 神奈川県
15. 新潟県
16. 富山県
17. 石川県
18. 福井県
19. 山梨県
20. 長野県
21. 岐阜県
22. 静岡県
23. 愛知県
24. 三重県
25. 滋賀県
26. 京都府
27. 大阪府
28. 兵庫県
29. 奈良県
30. 和歌山県
31. 鳥取県
32. 島根県
33. 岡山県
34. 広島県
35. 山口県
36. 徳島県
37. 香川県
38. 愛媛県
39. 高知県
40. 福岡県
41. 佐賀県
42. 長崎県
43. 熊本県
44. 大分県
45. 宮崎県
46. 鹿児島県
47. 沖縄県

F 4 あなたの仕事をお答えください。(1つ)

1. 正規の職員・従業員(役員を含む)
2. 非正規の職員・従業員(期間従業員、契約社員、派遣社員を含む)
3. 自営業主・自由業(自分で、または共同で事業を営んでいる)
4. 家族従業者(家族が営んでいる事業を手伝っている)
5. 主婦・主夫
6. 学生
7. リタイア、無職
8. その他

F 5 あなたと同居している人の状況をお答えください。(1つ)

1. ひとり暮らし(同居している家族はいない)
2. 核家族(夫婦のみもしくは親と未婚の子どもの世帯)
3. 三世代家族(親・子・孫の3世帯以上が同居)
4. 上記以外で同居している人がいる

F 6 昨年度の世帯全体の年収(税込み)は、おおよそどのくらいですか。(1つ)

1. 100万円未満
2. 100万円以上～200万円未満
3. 200万円以上～300万円未満
4. 300万円以上～400万円未満
5. 400万円以上～500万円未満
6. 500万円以上～600万円未満
7. 600万円以上～700万円未満
8. 700万円以上～800万円未満
9. 800万円以上～900万円未満
10. 900万円以上～1,000万円未満
11. 1,000万円以上
12. 分からない

F 7 あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(1つ)

1. 小学校
2. 中学校
3. 高校・旧制中学校
4. 短大・高専
5. 大学
6. 大学院
7. その他

F 8 あなたは、子供の頃に習い事をされていましたか。(いくつでも)

1. 楽器演奏(ピアノやバイオリンなど)や歌唱(コーラスや声楽など)
2. バレエやダンス(バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど)
3. 美術(絵画や版画、彫刻、工芸など)
4. 伝統芸能や茶道・華道等の芸事
5. 囲碁や将棋
6. 書道・習字・ペン字、そろばん
7. スポーツ・武道
8. その他(具体的に:)
9. していない

(2) フィルタリング・パート

F Q 1 煎茶道について

この調査の「煎茶道」とは、主人が客人を招き、一定の作法で淹れた煎茶や玉露等を振る舞い、書や絵画等の鑑賞を行いながら交流を図る、日本の伝統的な生活文化のことをいいます。

あなたは、これまでに、「煎茶道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある
3. 今まで経験したことはない

F Q 2 香道について

この調査の「香道」とは、沈香、白檀などの香木や、古典的な薫 (たきもの) を、一定の作法に従って焚 (炷) (た)き、その香りを鑑賞する (=「聞く」、日本の伝統的な生活文化のこと)をいいます。

あなたは、これまでに「香道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある
3. 今まで経験したことはない

F Q 3 和装について

この調査の「和装」とは、着物 (和服、浴衣も含む) の着付けのことをいいます。なお、作務衣・甚平のような着脱が簡易なものや、柔道着・剣道着等の特定競技用のものは含まないこととします。

あなたは、日常生活や行事等 (例えば結婚式、入学式、卒業式、成人式等) の折に、着物を着付けることはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 着物を自分で着付けている (いた)、あるいは人に着付けている (着付けたことがある)
2. 自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている (着たことがある)
3. 今まで着物を着たことはない

F Q 4 礼法について

この調査の「礼法」とは、作法や所作、しつらい等の一定の礼式に則ることによって相手への敬意を表す、日本の伝統的な礼儀作法のことをいいます。

あなたは、これまでに「礼法」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(1つ)

1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)
2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある
3. 今まで経験したことはない

煎茶道 2 あなたが煎茶道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他(具体的に:)

煎茶道 2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。(いくつでも)

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他(具体的に:)
10. 特に理由はない、わからない

煎茶道 3 現在、煎茶道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

煎茶道 3 補問 1 あなたが煎茶道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 指導者や教授者として活動したい(している)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 煎茶や玉露等の淹れ方や、煎茶席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 煎茶席でいただく煎茶や玉露等がおいしい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

煎茶道3補問2 あなたが煎茶道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他(具体的に:)

煎茶道4 あなたが煎茶道を続けている(続けていた)年数を選択肢の中からお選びください。

(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

煎茶道5 あなたの現在の煎茶道の活動内容(かつて行っていた内容)について、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 教室や稽古場で習っている(いた)
2. カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)
4. 指導者や教授者として教えている(いた)
5. その他(具体的に:)

煎茶道6 あなたは煎茶道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています(いました)か。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度

5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

煎茶道7 あなたは煎茶道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

煎茶道8 あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で煎茶道を体験した人の質問（FQ1で2に回答）

煎茶道9 あなたが煎茶道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

6. 趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
7. 煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

煎茶道 10 あなたはどのような場で煎茶道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。
（いくつでも）

1. 教室や稽古場等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

煎茶道 11 あなたが今後、煎茶道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすい
と思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

煎茶道 12 もし煎茶道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中から
お選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満

9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

煎茶道 13 あなたがこれまでに、煎茶道を習っていない事情や理由として、あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に:)

煎茶道 14 あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 煎茶やお菓子を楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

煎茶道 15 あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものを選びください。(いくつでも)

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流

6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●煎茶道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（F Q 1で3に回答）

煎茶道 16 もし、あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
2. 煎茶道の歴史や意義を教えてくれる
3. 煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

煎茶道 17 あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

煎茶道 18 あなたがこれまでに、煎茶道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
8. 自分の趣味と合わない

9. その他（具体的に： ）

煎茶道 19 あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶やお菓子を楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

煎茶道 20 煎茶道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、煎茶道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
2. 手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
3. 煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

②香道

●香道を習っている（習っていた）者に対する質問（FQ2で1に回答）

香道 1 あなたが香道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

6. 趣味や教養として、香道に興味関心があった
7. 香道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

香道2 あなたが香道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他（具体的に： ）

香道2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

香道3 現在、香道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

香道3 補問1 あなたが香道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 指導者や教授者として活動したい（している）
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 香席で聞く香木等の香りが心地よい

6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他（具体的に： ）
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

香道3 補問2 あなたが香道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他（具体的に： ）

香道4 あなたが香道を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

香道5 あなたの現在の香道の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場で習っている（いた）
2. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
4. 指導者や教授者として教えている（いた）
5. その他（具体的に： ）

香道6 あなたは香道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

香道7 あなたは香道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

香道8 あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等を焚きその香りを楽しむ
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で香道を体験した人の質問（FQ2で2に回答）

香道9 あなたが香道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、香や香木を扱う店（香舗）、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、香道に興味関心があった
7. 香道に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

香道10 あなたはどのような場で香道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場、香や香木を扱う店（香舗）等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

香道11 あなたが今後、香道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

香道 12 もし香道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

香道 13 あなたがこれまでに、香道を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他（具体的に： ）

香道 14 あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等の香りが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない

9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

香道 15 あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香木等を焚きその香りを楽しめる
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●香道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（FQ2で3に回答）

香道 16 もし、あなたが香道を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
2. 香道の歴史や意義を教えてくれる
3. 香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

香道 17 あなたが香道を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

香道 18 あなたがこれまでに、香道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

香道 19 あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等の香りが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝や道具等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

香道 20 香道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、香道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 香木等を焚きその香りを楽しむ
2. 香木等に応じた焚き方が分かる
3. 香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 主客の心の交流
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

③和装

●着物の着付けができる人に対する質問（F Q 3 で 1 に回答）

和装1 あなたが着物の着付けを習おうと思ったきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
7. 和装に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

和装2 あなたが着付けを習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 着付け教室で習っていた
5. 着付けや美容の専門学校で習っていた
6. その他（具体的に： ）

和装2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

和装3 現在、着物の着付けを行っていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 現在も着付けを行っている
2. 現在は着付けを行っていない

<上記で1と回答した方に>

和装3 補問1 あなたが着付けを続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 指導者や教授者として活動したい(している)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

和装3 補問2 あなたが着付けをしなくなったきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 着物の相談等ができる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に着物を楽しむ仲間と疎遠になった
8. 着物を着ていくような場面や機会がなくなった
9. 着崩れする、動きにくい
10. 着付けに関する仕事を辞めた
11. その他(具体的に:)

和装4 あなたが着付けをしている(いた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満

5. 10～20 年未満
6. 20 年以上

和装5 あなたは現在、どのような機会に自分もしくは他者への着物の着付けをしますか（していましたか）。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 普段着として着物を着る時
2. 仕事着として着物を着る時
3. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
4. 初詣等の年中行事に参加する時
5. 観劇の際や茶会等の催事に参加する時
6. 仕事として、他者への着付けを依頼された時
7. 親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時
8. その他（具体的に： ）

和装5 補問 他の方に着付けをしてもらう機会がありますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 仕事着として着物を着る時
2. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
3. 初詣等の年中行事に参加する時
4. 観劇の際や茶会等の催事に参加する時
5. 着付けてもらうことはない
6. その他（具体的に： ）

和装6 あなたは着物に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

和装7 あなたは着物に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満

3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

和装 8 あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●着付けはできないが着物を着たことがある人への質問 (FQ3で2に回答)

和装 9 あなたが着物を着た(着せてもらった)きっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
3. 家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた
4. 学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
7. 和装に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

和装 10 あなたはどのような場で着物を着ましたか(着せてもらい)ましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭

2. 初詣等の年中行事
3. 観劇の際や茶会等の催事
4. 旅行先の観光地
5. 学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント
6. 自宅
7. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
8. その他（具体的に： ）

和装 11 あなたが今後、着物の着付けを習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 着物をはじめ必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

和装 12 もし着物の着付けを習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

和装 13 あなたがこれまでに、着物の着付けを習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった

2. 通しやすい場所に着付け教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 着付け教室等の雰囲気が分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他（具体的に： ）

和装 14 あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
2. 日本の伝統文化を体感できる
3. 伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
4. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
5. 着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
6. 着物を着ていくような場面がない
7. 動きにくい、動くと着崩れする
8. 着物等を揃えるとお金がかかる
9. 着付けを覚えるのに時間がかかる
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

和装 15 あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●着物を着ていない人への質問（F Q 3 で 3 に回答）

和装 16 もし、あなたが着物を着たり、着付けを体験したりする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる
2. 基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる
3. 着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる
4. 着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる
5. 普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる
6. その他（具体的に： ）
7. 上記の中で当てはまるものはない

和装 17 あなたが着物を着たり、着付け方を体験する機会があったりした場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら
2. 旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

和装 18 あなたがこれまでに、着物を着たことがなかったり、着付けを体験したことがなかったりした事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に 관심이向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他（具体的に： ）

和装 19 あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
2. 日本の伝統文化を体感できる
3. 伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
4. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
5. 着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
6. 着物を着ていくような場面がない
7. 動きにくい、動くと着崩れする
8. 着物等を揃えるとお金がかかる
9. 着付けを覚えるのに時間がかかる
10. その他(具体的に:)
11. 特に印象はない、わからない

和装 20 和装の魅力について、どのような説明や情報があるなら、着物を着たり、着付けを体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 季節にあわせた着物を楽しめる
2. 職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
3. 生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる
4. お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
5. 着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

④礼法

●礼法を習っている(習っていた)者に対する質問(FQ4で1に回答)

礼法 1 あなたが礼法を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
4. 学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、礼法に興味関心があった
7. 礼法に係る仕事や職業に興味関心があった

8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

礼法2 あなたが礼法を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に習っていた
2. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 稽古場や教室で習っていた
5. その他（具体的に： ）

礼法2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 本格的に習ってみたかった
8. 手軽に習ってみたかった
9. その他（具体的に： ）
10. 特に理由はない、わからない

礼法3 現在、礼法に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

礼法3 補問1 あなたが礼法に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 指導者や教授者として活動したい（している）
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる
6. 習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった

7. その他（具体的に： ）
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方に>

礼法3 補問2 あなたが礼法に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 時間がなくなった
2. 近くに習う場所がなくなった
3. 当初目標としていたことが達成できた
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
8. 習っている内容についていけなくなった
9. 指導者や教授者を引退した
10. その他（具体的に： ）

礼法4 あなたが礼法を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

礼法5 あなたの現在の礼法の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場で習っている（いた）
2. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
3. 学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
4. 指導者や教授者として教えている（いた）
5. その他（具体的に： ）

礼法6 あなたは礼法に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

礼法7 あなたは礼法に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満
11. 50,000円以上

礼法8 あなたが礼法の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で礼法を体験した人に対する質問（F Q 4で2に回答）

礼法 9 あなたが礼法を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
3. 友人、知人などから勧められた・誘われた
4. 学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、礼法に興味関心があった
7. 礼法に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

礼法 10 あなたはどのような場で礼法を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 教室や稽古場等で開かれた体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
4. 文化施設等で行われた体験イベント
5. 自宅
6. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
7. その他（具体的に： ）

礼法 11 あなたが今後、礼法を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から習えたら
2. 通いやすい場所で習えたら
3. 費用が手頃だったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
7. 指導で教本やテキストを使っていたら
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

礼法 12 もし礼法を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

礼法 13 あなたがこれまでに、礼法を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
3. 習うための授業料等の費用が確保できなかった
4. 習うための十分な時間が取れなかった
5. カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
6. 稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった
7. 習う内容についていけるかどうか不安がある
8. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
9. 自分の趣味と合わない
10. その他(具体的に:)

礼法 14 あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない

9. その他（具体的に： ）
10. 特に印象はない、わからない

礼法 15 あなたが礼法で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●礼法を経験したことがない者に対する質問（F Q 4で3に回答）

礼法 16 もし、あなたが礼法を体験する機会があった場合、どのような内容であれば参加をしてみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる
2. 礼法の歴史や意義を教えてくれる
3. 礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

礼法 17 あなたが礼法を体験する機会があった場合、どのような条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 行きやすい場所で体験できたら
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他（具体的に： ）
10. わからない

礼法 18 あなたが礼法を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

礼法 19 あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活を豊かにしてくれる
4. 作法、しきたりなどが複雑
5. 人間関係が複雑
6. 月謝等にお金がかかる
7. 習い始めると時間を取られる
8. 一般に知られていない
9. その他(具体的に:)
10. 特に印象はない、わからない

礼法 20 礼法の魅力について、どのような説明や情報があるなら、礼法を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
2. 相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
3. 礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
4. 集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
5. 礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

⑤盆栽

●盆栽を経験した者に対する質問（FQ5で1に回答）

盆栽1 あなたが盆栽を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
3. 友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた
4. 学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、盆栽に興味関心があった
7. 盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他（具体的に： ）

盆栽2 あなたが盆栽を始めた時、次のうちどのような方法で育て方や剪定の方法を学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
2. 盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた
3. カルチャーセンターの講座で習っていた
4. 盆栽園で教えてもらっていた
5. 雑誌や専門書等を見て学んでいた
6. ウェブサイトやYouTube 等を見て学んでいた
7. その他（具体的に： ）

盆栽2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 道具等が借りられた
5. 通いやすい時間帯だった
6. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
7. 雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
8. 本格的にやってみたかった
9. 手軽にやってみたかった
10. その他（具体的に： ）

11. 特に理由はない、わからない

盆栽3 現在、盆栽を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

盆栽3 補問1 あなたが盆栽を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽園を営みたい(営んでいる)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 盆栽の形作りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 盆栽に愛着が湧いた(盆栽を育てるのが純粋に楽しい)
6. 暮らし、生活の一部となった(盆栽を育てることが生きがいとなった)
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方>

盆栽3 補問2 あなたが盆栽から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった
3. 手入れ等の相談をできる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった
6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
8. 盆栽園を閉鎖した
9. その他(具体的に:)

盆栽4 あなたが盆栽を続けている(続けていた)年数を選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満

4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

盆栽5 あなたの現在の盆栽に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）
2. 盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）
3. 盆栽を盆栽展に出品している（いた）
4. 盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）
5. カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
6. 盆栽園を営んでいる（いた）
7. 講師として教室や体験会、講座を開いている（いた）
8. その他（具体的に： ）

盆栽6 あなたは盆栽に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

盆栽7 あなたは盆栽を育てるにあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 5,000円未満
2. 5,000円以上～10,000円未満
3. 10,000円以上～15,000円未満
4. 15,000円以上～20,000円未満
5. 20,000円以上～25,000円未満
6. 25,000円以上～30,000円未満
7. 30,000円以上～35,000円未満
8. 35,000円以上～40,000円未満
9. 40,000円以上～45,000円未満
10. 45,000円以上～50,000円未満

11. 50,000 円以上

盆栽 8 あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢(盆器)を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で盆栽体験をしたことがある方への質問(FQ5で2に回答)

盆栽 9 あなたが盆栽体験をしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
2. 親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
3. 友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した
7. 盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

盆栽 10 あなたはどのような場で盆栽体験をしましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会
2. 学校の授業や職場の研修会
3. 文化施設等で行われた体験イベント
4. 自宅
5. 自分が行っている分野の趣味・習い事の中で体験
6. その他(具体的に:)

盆栽 11 あなたが今後、盆栽を育てる機会があった場合、どのような状況だと育てやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら
2. 知人、家族と一緒に育てることができたら
3. 通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら
4. 必要な道具等が借りられたら
5. 習う時間帯を調整してもらいやすかったら
6. 育て方や剪定の仕方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
7. その他(具体的に:)
8. わからない

盆栽 12 もし盆栽を始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 5,000 円未満
2. 5,000 円以上～10,000 円未満
3. 10,000 円以上～15,000 円未満
4. 15,000 円以上～20,000 円未満
5. 20,000 円以上～25,000 円未満
6. 25,000 円以上～30,000 円未満
7. 30,000 円以上～35,000 円未満
8. 35,000 円以上～40,000 円未満
9. 40,000 円以上～45,000 円未満
10. 45,000 円以上～50,000 円未満
11. 50,000 円以上

盆栽 13 あなたがこれまでに盆栽を育てていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった
3. 始めるための費用が確保できなかった
4. 盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった
5. 一緒にやってくれる人がいない
6. 盆栽の育て方等の相談をできる人が身近にいなかった
7. 植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う
8. 盆栽を育てて管理できる場所がない
9. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
10. 自分の趣味と合わない

11. その他（具体的に： ）

盆栽 14 あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 剪定や育成等が難しい
5. 盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
6. 植物を扱うのは容易ではない
7. 道具等にお金がかかる
8. 育て始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

盆栽 15 あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●盆栽体験をしていない方への質問（FQ5で3に回答）

盆栽 16 もし、あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる
2. 盆栽の歴史や意義を教えてくれる
3. 盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

盆栽 17 あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら
4. 体験に必要な費用や道具が明示されていれば
5. 体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
8. 指導者の教え方が分かりやすかったら
9. その他(具体的に:)
10. わからない

盆栽 18 あなたがこれまでに盆栽体験をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他(具体的に:)

盆栽 19 あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 剪定や育成等が難しい
5. 盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
6. 植物を扱うのは容易ではない
7. 道具等にお金がかかる
8. 育て始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他(具体的に:)

11. 特に印象はない、わからない

盆栽 20 盆栽の魅力について、どのような説明や情報があるなら、盆栽を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
2. 盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
3. 樹木と植木鉢(盆器)を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
4. 盆栽を育てる中で感じられる四季等
5. 盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

⑥錦鯉

●錦鯉の飼育を経験した者に対する質問(FQ6で1に回答)

錦鯉 1 あなたが錦鯉の飼育を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
3. 友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった
7. 錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

錦鯉 2 あなたが錦鯉の飼育を始めた時、次のうちどのような方法で設備や飼育の仕方について学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
2. 錦鯉の愛好者団体に教えてもらっていた
3. 養鯉場で教えてもらっていた
4. 雑誌や専門書等を見て学んでいた
5. ウェブサイトやYouTube等を見て学んでいた
6. その他(具体的に:)

錦鯉 2 補問 その方法を選んだ理由をお選びください。(いくつでも)

1. 家族や友人等と一緒に良かった
2. 通いやすい場所だった
3. 費用が手頃だった
4. 通いやすい時間帯だった
5. 指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
6. 雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
7. 本格的にやってみたかった
8. 手軽にやってみたかった
9. その他(具体的に:)
10. 特に理由はない、わからない

錦鯉 3 現在、錦鯉の飼育を続けていますか。選択肢の中からお選びください。(1つ)

1. 続けている
2. 続けない

<上記で1と回答した方に>

錦鯉 3 補問 1 あなたが錦鯉を飼育し続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 養鯉場を営みたい(営んでいる)
2. 日本の文化だから
3. 一緒に楽しむ仲間がいる
4. 錦鯉の飼育や選別など、奥深い文化をもっと知りたい
5. 錦鯉に愛着が湧いた(飼育が純粋に楽しい)
6. 暮らし、生活の一部となった(飼育や観賞をすることが生きがいとなった)
7. その他(具体的に:)
8. 特に理由はない
9. 上記の中で当てはまるものはない

<上記で2と回答した方>

錦鯉 3 補問 2 あなたが錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 時間がなくなった
2. 錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった
3. 飼育等の相談をできる場所がなくなった
4. 興味を失った
5. 経済的に続けるのが難しくなった

6. 健康面、体調面で続けることが難しくなった
7. 一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
8. 養鯉場を閉鎖した
9. その他（具体的に： ）

錦鯉4 あなたが錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。

（1つ）

1. 1年未満
2. 1～3年未満
3. 3～5年未満
4. 5～10年未満
5. 10～20年未満
6. 20年以上

錦鯉5 あなたの現在の錦鯉に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 自宅等の池で飼育している（いた）
2. 自宅等の水槽で飼育している（いた）
3. 養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）
4. 錦鯉の品評会に出品している（いた）
5. 錦鯉の養鯉場を営んでいる（いた）
6. その他（具体的に： ）

錦鯉6 あなたは錦鯉の飼育に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。

選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. ほぼ毎日
2. 週に2～3回
3. 週1回程度
4. 月数回程度
5. 月1回程度
6. 年数回程度
7. 年1回程度

錦鯉7 あなたは錦鯉の飼育にあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。

選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1万円未満
2. 1万円以上～5万円未満

3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～50万円未満
5. 50万円以上～100万円未満
6. 100万円以上

錦鯉 8 あなたが錦鯉の飼育で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様
4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他(具体的に:)
8. 上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で錦鯉の体験や観賞を経験した方への質問 (F Q 6 で 2 に回答)

錦鯉 9 あなたが錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
2. 親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
3. 友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
4. 学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
5. テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
6. 趣味や教養として錦鯉に興味関心があり、品評会等で観賞した
7. 錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
8. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
9. その他(具体的に:)

錦鯉 10 あなたはどのような場で錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしましたか。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

1. 錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会
2. 学校や職場で飼育されていた
3. 公園や庭園、文化施設等でのイベント
4. 自宅
5. 自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験

6. その他（具体的に： ）

錦鯉 11 あなたが今後、錦鯉を飼育する機会があった場合、どのような状況だと飼育をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら
2. 知人、家族と一緒に飼育できたら
3. 通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら
4. 飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
5. その他（具体的に： ）
6. わからない

錦鯉 12 もし錦鯉を飼育し始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。（1つ）

1. 1万円未満
2. 1万円以上～5万円未満
3. 5万円以上～10万円未満
4. 10万円以上～50万円未満
5. 50万円以上～100万円未満
6. 100万円以上

錦鯉 13 あなたがこれまでに錦鯉の飼育をしていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 興味がなかった
2. 通いやすい場所に、錦鯉の飼育方法等の相談に乗ってくれる場所がなかった
3. 始めるための費用が確保できなかった
4. 錦鯉を飼育するための十分な時間が取れそうになかった
5. 一緒にやってくれる人がいない
6. 錦鯉の飼育方法等の相談をできる人が身近にいなかった
7. 生物の扱いが難しいと思う
8. 錦鯉を飼育できる場所や設備がない
9. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
10. 自分の趣味と合わない
11. その他（具体的に： ）

錦鯉 14 あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の飼育や観賞が楽しめる

2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 飼育の方法等が難しい
5. 錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
6. 生物を扱うのは容易ではない
7. 設備等にお金がかかる
8. 飼育し始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

錦鯉 15 あなたが錦鯉の飼育に関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様
4. 錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
5. 錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
6. 日本の伝統的な文化として国内外に知られている
7. その他（具体的に： ）
8. 上記の中で当てはまるものはない

●錦鯉の飼育を経験していない方への質問（FQ6で3に回答）

錦鯉 16 もし、あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる
2. 錦鯉の歴史や意義を教えてくれる
3. 錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる
4. 普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しむのか教えてくれる
5. その他（具体的に： ）
6. 上記の中で当てはまるものはない

錦鯉 17 あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
2. 錦鯉の品評会や即売会が身近で行われていれば
3. 手ごろな参加費で参加できたら

4. 公園や庭園、文化施設等で観賞できたら
5. 体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
6. 初心者だけが参加できるような機会があれば
7. その他（具体的に： ）
8. わからない

錦鯉 18 あなたがこれまでに錦鯉の観賞体験等をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. そもそも知らなかった
2. 興味がない
3. 気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
4. 参加する時間がとれなかった
5. 体験できる場所や機会があることを知らなかった
6. 体験できる詳しい内容が分からなかった
7. 他の趣味や娯楽の方に興味が向いている
8. 自分の趣味と合わない
9. その他（具体的に： ）

錦鯉 19 あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 錦鯉の飼育や観賞が楽しめる
2. 日本の伝統文化への理解を深められる
3. 暮らし、生活が豊かになる
4. 飼育の方法等が難しい
5. 錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
6. 生物を扱うのは容易ではない
7. 設備等にお金がかかる
8. 飼育し始めると時間を取られる
9. 一般に知られていない
10. その他（具体的に： ）
11. 特に印象はない、わからない

錦鯉 20 錦鯉の魅力について、どのような説明や情報があるなら、錦鯉の飼育や観賞を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

1. 飼育をしていくことで、変化する模様
2. 飼育していくための技術
3. 種類によって異なる多様な色彩や模様

60. 洋舞、社交ダンス	61. 学習・調べもの	62. 読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）
63. ファッション（楽しみとしての）		

娯楽

64. 囲碁	65. 将棋	66. トランプ、オセロ、カルタ、花札など
67. カラオケ	68. テレビゲーム（家庭での）	69. ゲームセンター、ゲームコーナー
70. ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	71. 麻雀	72. ビリヤード
73. パチンコ	74. 宝くじ	75. サッカーくじ (toto)
76. 中央競馬	77. 地方競馬	78. 競輪
79. ボートレース（競艇）	80. オートレース	81. 外食（日常的なものは除く）
82. バーベキュー	83. バー、スナック、パブ、飲み屋	84. クラブ、キャバレー
85. ディスコ	86. サウナ	87. 温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）

観光・行楽

88. 遊園地	89. ドライブ	90. ピクニック・ハイキング・野外散歩
91. 登山	92. オートキャンプ	93. フィールドアスレチック
94. 海水浴	95. 動物園、植物園、水族館、博物館	96. 催し物、博覧会
97. 帰省旅行	98. 国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	99. 海外旅行

その他

100. 複合ショッピングセンター、アウトレットモール	101. ウィンドウショッピング	102. クルージング（客船による）
103. エステティック、ホームエステ	104. ペット（遊ぶ、世話をする）	105. 農園（市民農園など）
106. ボランティア活動	107. SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	108. ヨガ、ピラティス
109. 自由記述（具体的に：）	110. 特に何もしていない	

※上記の選択肢は『レジャー白書2021』の調査種目を参照し作成したものである。なお、一部分野については『レジャー白書2021』で「その他」に分類されていた部門から異なる部門への分類を行っている。

共通2 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。
(1つ)

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 5,000 円未満 | 2. 5,000 円以上～10,000 円未満 |
| 3. 10,000 円以上～15,000 円未満 | 4. 15,000 円以上～20,000 円未満 |
| 5. 20,000 円以上～25,000 円未満 | 6. 25,000 円以上～30,000 円未満 |
| 7. 30,000 円以上～35,000 円未満 | 8. 35,000 円以上～40,000 円未満 |
| 9. 40,000 円以上～45,000 円未満 | 10. 45,000 円以上～50,000 円未満 |
| 11. 50,000 円以上 | |

共通3 あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。(いくつでも)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 平日午前 | 2. 平日午後 | 3. 平日夕方 | 4. 平日夜間 |
| 5. 休日午前 | 6. 休日午後 | 7. 休日夕方 | 8. 休日夜間 |

共通4 あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。
(1つ)

- | | | |
|--------------------|------------------|------------------|
| 1. 1 時間未満 | 2. 1 時間以上～2 時間未満 | 3. 2 時間以上～3 時間未満 |
| 4. 3 時間以上～4 時間未満 | 5. 4 時間以上～5 時間未満 | 6. 5 時間以上～6 時間未満 |
| 7. 6 時間以上～7 時間未満 | 8. 7 時間以上～8 時間未満 | 9. 8 時間以上～9 時間未満 |
| 10. 9 時間以上～10 時間未満 | 11. 10 時間以上 | |

共通5 下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。(いくつでも)

1. 自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい
2. 周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい
3. チャンスと感じたら逃したくない
4. リスクはできるだけ避けたい
5. 家族や友人・知人の役に立ちたい
6. 環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい
7. 困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい
8. 周りの人から注目されたい
9. 集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ
10. その時・その場でしか得られない体験をしたい
11. 流行りのものは試してみたい
12. 流行っていないくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい
13. 買ったものや、気持ちを発信したい
14. 自分が発信したものに反応が欲しい
15. 上記であてはまるものはない

※上記の選択肢は令和3年度実施の消費者庁「消費者意識基本調査」の調査票問6の選択肢を引用したものである。

共通6 下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(いくつでも)

1. テレビ（民放の地上波・BS）
2. テレビ（NHKの地上波・BS）
3. CATVや衛星放送のチャンネル
4. ラジオ（インターネット経由を除く）
5. 新聞（電子版含む）
6. 雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）
7. インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど（アプリ経由を含む）
8. 動画投稿サイト（YouTube、TikTokなど）
9. SNS（Twitter、LINE、Instagram、Facebook、noteなど）
10. 紙の書籍
11. 電子書籍
12. 紙のマンガ／マンガ雑誌
13. 電子版のマンガ
14. 有料動画サイト（Amazon Prime Video、Netflix、Huluなど）
15. 上記のメディアはあまり見ていない

参考資料 煎茶道団体・流派調査アンケート配布先

No.	団体名
1	一般社団法人 文人会一茶庵
2	小川流煎茶
3	織田流煎茶道
4	煎茶花月菴流
5	一般財団法人 煎茶道三癸亭賣茶流
6	公益財団法人松月流
7	三彩流
8	松風清社
9	正風流煎茶道
10	蕉風流
11	煎茶道 文人華道 清泉幽茗流
12	煎茶安部流
13	一般財団法人 煎茶道 東阿部流
14	煎茶道 松香庵流
15	煎茶禮法青山流
16	日本礼道小笠原流
17	賣茶竹延流
18	煎茶道 賣茶流
19	光風流
20	松莖流
21	煎茶道・華道 光輝流
22	公益財団法人小笠原流煎茶道
23	煎茶道 二條流
24	公益財団法人 煎茶道方円流
25	一般社団法人 煎茶道黄檗壳茶流
26	文房流
27	黄檗松風流
28	煎茶道薫風流
29	煎茶道松風流
30	松風流(富山)
31	玉泉流
32	煎茶道静風流
33	煎茶道 黄檗弘風流

No.	団体名
34	黄檗東本流
35	愛茗流
36	煎茶道 黄檗掬泉流
37	煎茶道松風花月流
38	羽楽流
39	狭山流
40	煎茶美風流
41	静月流煎茶道
42	一般社団法人全日本煎茶道連盟
43	雲山流煎茶道十和会
44	三井古流煎茶道
45	煎茶道瑞芳菴流
46	古儀茶道 隈野聚鳳流
47	煎茶道泰山流
48	知足庵流
49	静山流
50	黄檗幽茗流
51	笙風社
52	玉川遠州流
53	皇風煎茶禮式
54	茶華道柴山流
55	習軒流
56	竹峯流
57	煎茶道東仙流
58	壳茶本流
59	壳茶正流
60	風韻社
61	煎茶文雅静庵流
62	日泉流
63	静中庵流
64	煎茶道宝山流
65	春日流瓶花・春日流煎茶道
66	瑞芽庵流

令和5年度「生活文化調査研究事業（煎茶道）」報告書

発行日 令和6年5月31日

修正版発行日 令和8年2月28日

発行 文化庁 参事官（生活文化創造担当）

〒602-8959

京都府京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町 85-4

〈受託事業者〉

株式会社 文化科学研究所

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-43-7 光ビル 4F
